

2020 年
埼玉県感染症発生動向調査事業報告書

埼玉県感染症発生動向調査事業
(2020 年 1 週～53 週分)

感染症発生動向調査事業（2020年）の概要

感染症発生動向調査事業は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（感染症法）の第12条から第16条に基づく全国サーベイランスで、埼玉県では「埼玉県感染症発生動向調査事業実施要綱」を定めこれを実施している。

2020年の発生動向調査では、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準の別紙「医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準」の一部改正が行われた。この改正により流行性角結膜炎の届出基準の項目にアデノウイルス抗原の検出が追加された。この変更は2020年4月1日から施行された。また、2019年に中華人民共和国で初めて報告された新型肺炎は、新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る）であるものに限る）として、2020年2月1日から指定感染症に定められた（新型コロナウイルス感染症を指定感染症として定める等の政令（令和2年政令第11号 令和2年1月28日））。

本資料では、全数把握疾患は診断日が2020年1月1日から12月31日に属する届出を、定点把握疾患のうち、週単位報告疾患は2020年第1週（2019年12月30日～2020年1月5日）から53週（2020年12月28日～2021年1月3日）まで、月単位報告疾患は2020年1月から12月までの報告を集計し県内の動向をまとめた。新型コロナウイルス感染症を除く疾患は従来と同じくNESID（感染症サーベイランスシステム）から情報を収集し、新型コロナウイルス感染症は埼玉県新型コロナウイルス感染症対策本部で収集した情報を用いた。なお、新型コロナウイルス感染症については2021年4月時点での暫定値として、概要をまとめた。また、全数把握疾患の病原体については、2020年1月1日から12月31日に県内の医療機関、埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所で検出された検査成績をまとめた。定点把握疾患の病原体については、同期間に病原体定点で採取され埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所で検出された検査成績をまとめた。

I 全数把握対象疾患の発生動向

1 一類、二類感染症及び三類感染症の発生動向

1) 一類、二類感染症の患者情報

2020年の埼玉県及び全国の一類、二類感染症の届出数を表1に示した。

一類感染症は、疑似症患者を含め埼玉県、全国ともに届出はなかった。

埼玉県に届出のあった二類感染症は、結核 891人で、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る)及び鳥インフルエンザ(H5N1 及び H7N9)の各疾患の届出はなかった。

表1 一類・二類感染症の届出数(2020年)

疾患名		埼玉県	全国*
一類	エボラ出血熱	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-
	痘そう	-	-
	南米出血熱	-	-
	ペスト	-	-
	マールブルグ病	-	-
	ラッサ熱	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-
	結核	891	17,786
	ジフテリア	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-
	中東呼吸器症候群	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-

*全国は診断週(第1週～第53週)の集計値 (-0)

ア 結核

男性 525人、女性 366人の計 891人の届出があり、前年の 1,243人と比べ大きく減少した。症例の年齢は 0歳から 90歳代に分布し、80歳代が最も多く、60歳以上が 534人で 59.9%を占めた。類型別では患者 641人(感染症死亡者の死体 1例を含む)、無症状病原体保有者(潜在性結核感染症)247人、疑似症患者 3人の届出があり、患者は前年の 739人より大きく減少した(図 1)。

男性では、患者が 423人、無症状病原体保有者が 101人、疑似症患者が 1人で、女性では、患者が 218人(感染症死亡者の死体 1例を含む)、無症状病原体保有者が 146人、疑似症患者が 2人であった。年齢階級別では、男性は 60歳以上が 61.7%を占め、70歳代、80歳代の順に多く、女性は 60歳以上が 57.4%を占め、80歳代、70歳代の順に多かった。また、男性患者の 60歳以上が占める割合は 66.2%、女性患者では 67.4%であった(表 2)。

表 2 結核 類型別の性年齢階級別届出数

年齢階級	男性				女性				総数
	患者	無症状病原体保有者	疑似症患者	小計	患者	無症状病原体保有者	疑似症患者	小計	
10歳未満	1	13	-	14	2	17	-	19	33
10歳代	6	1	-	7	2	4	-	6	13
20歳代	41	7	-	48	18	9	-	27	75
30歳代	26	6	-	32	17	13	-	30	62
40歳代	27	11	1	39	17	23	-	40	79
50歳代	42	19	-	61	15	19	-	34	95
60歳代	76	11	-	87	15	17	1	33	120
70歳代	94	19	-	113	38	22	1	61	174
80歳代	82	14	-	96	66*	18	-	84	180
90歳以上	28	-	-	28	28	4	-	32	60
合計	423	101	1	525	218	146	2	366	891
割合	47.5%	11.3%	0.1%	58.9%	24.5%	16.4%	0.2%	41.1%	100.0%

* 感染症死亡者の死体1例を含む

(-0)

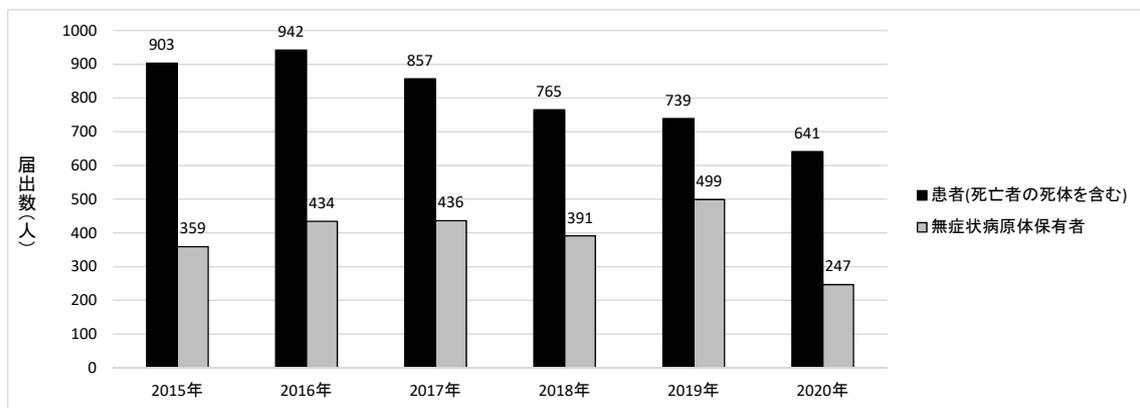


図 1 結核 類型別届出数 (2015~2020年)

2) 一類、二類感染症の病原体検出状況

一類感染症の検出はなかった。

二類感染症の結核菌は、遺伝子中の多重反復配列の反復数を株間で比較する Variable Numbers of Tandem Repeats 法 (VNTR 法) 等の遺伝子解析を埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターで実施している。2020年に医療機関から収集され、遺伝子解析に供試された肺結核患者由来の分離菌株は190株であった。これらの解析結果では、北京型は127株(66.8%)、非北京型は61株(32.1%)、型別できなかったものが2株であった(表3-1)。さらに、北京型127株の系統推定では95株(74.8%)が祖先型、28株(22.0%)が新興型、4株が推定不能であった(表3-2)。

表 3-1 結核菌の北京型別

	北京型	非北京型	型別不能
株数	127	61	2
割合	66.8%	32.1%	1.1%

表 3-2 北京型の系統推定

	祖先型	新興型	推定不能
株数	95	28	4
割合	74.8%	22.0%	3.1%

3) 三類感染症の患者情報

2020年の埼玉県及び全国の三類感染症の届出数を表4に示した。

埼玉県に届出のあった三類感染症は、細菌性赤痢 6人、腸管出血性大腸菌感染症 95人、腸チフス 1人であった。

表4 三類感染症の届出数（2020年）

疾患名		埼玉県	全国*
三類	コレラ	-	1
	細菌性赤痢	6	87
	腸管出血性大腸菌感染症	95	3,094
	腸チフス	1	21
	パラチフス	-	7

*全国は診断週（第1週～第53週）の集計値 (-:0)

ア 細菌性赤痢

男性3人、女性3人の計6人の届出があり、前年の6人と同数であった。症例の年齢は10歳未満から50歳代に分布した。類型別では、患者5人、無症状病原体保有者1人であった。いずれも診断方法は便からの分離・同定による病原体の検出であり、菌種は *flexneri* (B群) 及び *sonnei* (D群) の検出が各3人であった(表5)。推定感染地域は国外が5人(タイあるいはパキスタンが3人、ニューカレドニア2人)、国内が1人であった。

表5 細菌性赤痢 (n=6) の届出内容

診断日	性別	年齢	類型	診断方法 / 検体 / 菌種	推定感染地域
1/14	女	50歳代	患者	分離・同定による病原体の検出 / 便 / <i>S. sonnei</i> (D群)	ニューカレドニア
1/14	女	20歳代	患者	分離・同定による病原体の検出 / 便 / <i>S. sonnei</i> (D群)	ニューカレドニア
1/21	男	10歳未満	患者	分離・同定による病原体の検出 / 便 / <i>S. flexneri</i> (B群)	タイ・パキスタン
1/22	男	10歳未満	患者	分離・同定による病原体の検出 / 便 / <i>S. flexneri</i> (B群)	タイ・パキスタン
1/24	女	30歳代	無症状病原体保有者	分離・同定による病原体の検出 / 便 / <i>S. flexneri</i> (B群)	タイ・パキスタン
11/26	男	30歳代	患者	分離・同定による病原体の検出 / 便 / <i>S. sonnei</i> (D群)	国内

イ 腸管出血性大腸菌感染症

男性48人、女性47人の計95人の届出があった。前年の152人より大きく減少した。症例の年齢は0歳から80歳代に分布した。年齢階級別では、20歳代、10歳代、10歳未満、30歳代の順に多かった。類型別では、患者70人、無症状病原体保有者25人で、患者が全体の73.7%を占め、前年の75.7%と同水準であった(図2)。0血清型は、0157が72人と最も多く、次いで多かったのは026の9人で、0157と026の全体に占める割合はそれぞれ75.8%と9.5%であった。年齢階級別では、0157の検出が最も多かったのは10歳代、026の検出が最も多かったのは20

歳代であった(表 6)。その他の血清型は O103 が 5 人、O121 が 2 人、O20、O74、O115、O181 が各 1 人、その他に型別不能(OUT)が 3 人であった。例年の流行期である 6 月～9 月の届出数は 6 月が 6 人、7 月が 11 人、8 月が 18 人、9 月が 26 人で、9 月を除き過去 5 年の中で最も少なかった(図 3)。

患者 95 人の症状は、腹痛が 61 人、水様性下痢 52 人、血便 41 人、発熱 15 人、嘔吐 9 人、急性腎不全 1 人で、溶血性尿毒症症候群(HUS)の発症者は認められなかった。

表 6 腸管出血性大腸菌感染症 年齢階級別届出数

年齢階級	症例数	性別		類型		血清型		
		男性	女性	患者	無症状病原体保有者	O157	O26	その他
10歳未満	16	8	8	14	2	11	2	3
10歳代	17	10	7	14	3	15	1	1
20歳代	23	16	7	14	9	14	5	4
30歳代	15	8	7	7	8	12	-	3
40歳代	6	3	3	6	-	6	-	-
50歳代	4	-	4	3	1	3	-	1
60歳代	10	1	9	8	2	7	1	2
70歳代	3	1	2	3	-	3	-	-
80歳以上	1	1	-	1	-	1	-	-
合計	95	48	47	70	25	72	9	14
割合	100.0%	50.5%	49.5%	73.7%	26.3%	75.8%	9.5%	14.7%

(-0)

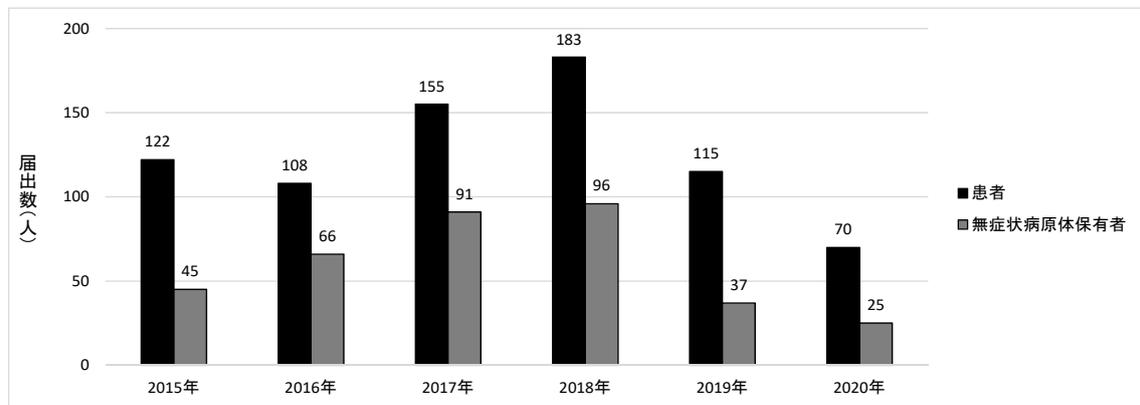


図 2 腸管出血性大腸菌感染症 類型別届出数 (2015～2020 年)

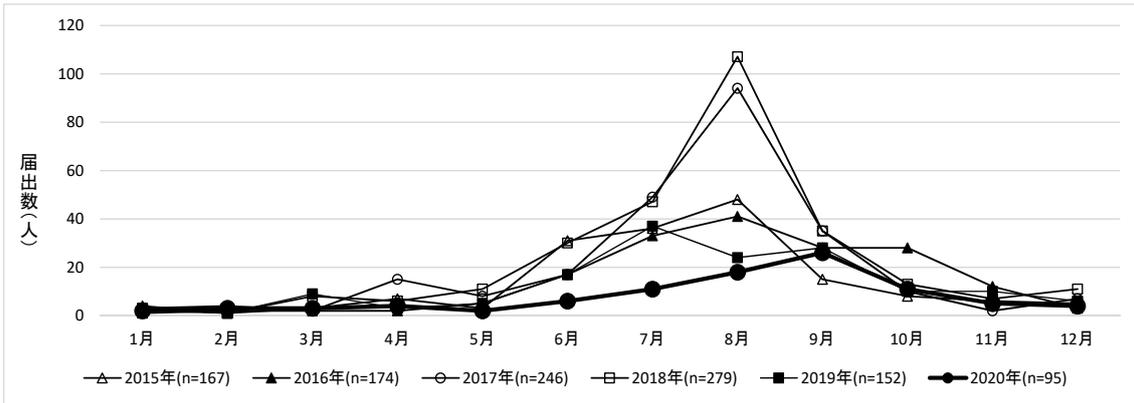


図3 腸管出血性大腸菌感染症 月別届出数 (2015~2020年)

ウ 腸チフス

7月に女性90歳代1人の届出があり、前年の1人と同数であった。類型は患者で、診断方法は血液からの分離・同定による病原体の検出であった。推定感染地域は国内であった。

4) 三類感染症の病原体検出状況

2020年に埼玉県内で分離された三類感染症細菌は、赤痢菌6株、腸管出血性大腸菌93株、チフス菌1株の計101株で、コレラ菌、パラチフスA菌は分離されなかった。このうち国外感染例からの分離は、赤痢菌5株であった。国内感染例からの分離は、赤痢菌1株、腸管出血性大腸菌93株、チフス菌1株であった(表7)。

表7 三類感染症 病原体検出状況 (2020年)

	コレラ菌	赤痢菌	腸管出血性 大腸菌	チフス菌	パラチフスA菌	合計
国外感染	-	5	-	-	-	5
国内感染	-	1	93	1	-	95
合計	-	6	93	1	-	100

(-0)

ア 赤痢菌

分離された株の菌種は、*Shigella sonnei*が3株、*Shigella flexneri*が3株の計6株であった。このうち5株が海外渡航歴のある患者から分離されていた。渡航先はそれぞれニューカレドニア、タイ・パキスタンであった。国内感染が疑われる株は*Shigella sonnei*で1株であった(表8)。

表8 県内で分離された赤痢菌数 (2020年)

分離月	血清型	性別	年齢	推定感染地域
1月	<i>S. sonnei</i>	女	50歳代	ニューカレドニア
1月	<i>S. sonnei</i>	女	20歳代	ニューカレドニア
1月	<i>S. flexneri</i> 2a	女	30歳代	タイ・パキスタン
1月	<i>S. flexneri</i> 2a	男	10歳未満	タイ・パキスタン
1月	<i>S. flexneri</i> 2a	男	10歳未満	タイ・パキスタン
11月	<i>S. sonnei</i>	男	30歳代	国内

イ 腸管出血性大腸菌

県内で分離された腸管出血性大腸菌は93株であった。血清型別では、11血清型が検出された。最も多く検出された血清型は例年同様 O157:H7 で63株(67.7%)であった。次いで O157:H- が9株(9.7%)、O26:H11 が6株、O103:H2 が5株、その他の血清型は3株以下であった。毒素型では、VT1&2 が51株(54.8%)、VT2 が26株(28.0%)、VT1 が16株(17.2%)であった(表9)。

表9 腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型（2020年）

血清型	毒素型			計
	VT1	VT2	VT1&2	
O157:H7	－	19	44	63
O157:H－	1	2	6	9
O26:H11	6	－	－	6
O26:H－	2	－	－	2
O20:H41	－	1	－	1
O103:H2	5	－	－	5
O115:H10	1	－	－	1
O121:H19	－	2	－	2
O181:H49	－	1	－	1
OUT:H－	1	1	－	2
OUT:H19	－	－	1	1
合計	16	26	51	93

（数値部分の－：0）

ウ チフス菌

チフス菌は、7月に90歳代女性から1株分離された。海外渡航歴がなく、発症状況から国内での感染が疑われた。ファージ型はB1であった。

2 四類感染症の発生動向

1) 四類感染症の患者情報

2020年の埼玉県及び全国の四類感染症の届出数を表10に示した。

表10 四類感染症の届出数（2020年）

疾患名		埼玉県	全国*
四類	E型肝炎	28	454
	ウエストナイル熱	-	-
	A型肝炎	4	120
	エキノコックス症	-	24
	黄熱	-	-
	オウム病	1	7
	オムスク出血熱	-	-
	回帰熱	-	15
	キャサヌル森林病	-	-
	Q熱	-	-
	狂犬病	-	1
	コクシジオイデス症	-	6
	サル痘	-	-
	ジカウイルス感染症	1	1
	重症熱性血小板減少症候群	-	78
	腎症候性出血熱	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-
	炭疽	-	-
	チクングニア熱	-	3
	つつが虫病	2	538
	デング熱	2	45
	東部ウマ脳炎	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-
	日本紅斑熱	-	422
	日本脳炎	-	5
	ハンタウイルス肺症候群	-	-
	Bウイルス病	-	-
	鼻疽	-	-
	ブルセラ症	-	2
	ベネズエラウマ脳炎	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-
	発しんチフス	-	-
ポツリヌス症	-	4	
マラリア	-	21	
野兔病	-	-	
ライム病	-	27	
リッサウイルス感染症	-	-	
リフトバレー熱	-	-	
類鼻疽	-	1	
レジオネラ症	107	2,059	
レプトスピラ症	-	17	
ロッキー山紅斑熱	-	-	

*全国は診断週(第1週～第53週)の集計値 (-0)

埼玉県に届出のあった四類感染症は、E型肝炎 28 人、A型肝炎 4 人、オウム病 1 人、ジカウイルス感染症 1 人、つつが虫病 2 人、デング熱 2 人、レジオネラ症 107 人の計 145 人であった。

ア E型肝炎

男性 23 人、女性 5 人の計 28 人の届出があり、前年の 21 人より増加した。症例の年齢は 20 歳代から 90 歳代に分布し、40 歳代及び 50 歳代の各 7 人が最も多かった(表 11)。類型は患者が 24 人、無症状病原体保有者が 4 人で、診断方法は PCR 法による病原体遺伝子の検出及び血清 IgA 抗体の検出が 6 人、PCR 法による病原体遺伝子の検出のみが 2 人、血清 IgA 抗体の検出のみが 20 人であった。推定感染経路は経口感染 12 人、不明 16 人で、推定感染地域は国内 27 人、国外(中華人民共和国) 1 人であった。届出は年間を通して確認され、無症状病原体保有者の 4 人は献血により探知された症例であった。

表 11 E型肝炎 年齢階級別届出数

年齢階級	総数	男性	女性
10歳未満	-	-	-
10歳代	-	-	-
20歳代	1	-	1
30歳代	1	1	-
40歳代	7	7	-
50歳代	7	5	2
60歳代	5	5	-
70歳代	6	5	1
80歳以上	1	-	1
合計	28	23	5
割合	100.0%	82.1%	17.9%

(-0)

イ A型肝炎

男性 2 人、女性 2 人の計 4 人の届出があり、前年の 14 人より減少した。症例の年齢は 10 歳代、30 歳代、40 歳代及び 70 歳代で、類型は全て患者で、診断方法は PCR 法による病原体遺伝子の検出及び血清 IgM 抗体の検出が 2 人、血清 IgM 抗体の検出のみが 2 人であった。推定感染経路は経口感染が 2 人、不明が 2 人で、推定感染地域は国内が 3 人、不明が 1 人であった(表 12)。また、ワクチン接種歴は無しが 3 人、不明が 1 人であった。

表 12 A型肝炎 (n=4) の届出内容

診断日	性別	年齢	診断方法	推定感染経路	推定感染地域
1/23	男	10歳代	血清IgM抗体の検出	不明	国内
2/20	女	40歳代	検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 血清IgM抗体の検出	経口感染	国内
5/18	女	30歳代	血清IgM抗体の検出	経口感染	国内
7/2	男	70歳代	検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 血清IgM抗体の検出	不明	不明

ウ オウム病

前年発生が無かったオウム病は5月に女性30歳代1人の届出があった。診断方法は間接蛍光抗体法による血清抗体の検出で、推定感染経路は鳥類との接触、推定感染地域は国内であった。

エ ジカウイルス感染症

2016年に対象疾患となって以来初めて、3月に男性30歳代1人の届出があった。診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出で、推定感染地域はインドネシアであった。

オ つつが虫病

11月に男性60歳代1人、12月に女性80歳代1人の計2人の届出があり、前年の1人を上回った。共に、診断方法は間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法による血清IgM抗体の検出で、推定感染地域は国内(県内)であった。

カ デング熱

1月に女性20歳代1人、2月に女性60歳代1人の計2人の届出があり、前年の16人より減少した。共に、病型はデング熱で、診断方法は、NS1抗原の検出であった。推定感染地域は前者がフィリピン、後者がブラジルあるいはペルーであった。

キ レジオネラ症

男性80人、女性27人の計107人の届出があり、前年の117人より減少した。症例の年齢は30歳代から90歳代に分布し、60歳以上が全体の77.8%を占めた(表13)。類型別では患者104人、無症状病原体保有者3人で、患者の病型別では肺炎型102人、ポンティアック熱型2人であった。

年間を通して届出はあったが、月別の届出数は7月の18人、10月の15人、6月及び9月の各11人の順に多かった(図4)。

診断方法は、酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出が104人、PCR法またはLAMP法による病原遺伝子の検出が12人、分離・同定による病

原体の検出が5人であった（重複例有り）。推定感染地域は、国内86人、国外1人、不明20人で、国内感染例のうち県内は77人であった。

表 13 レジオネラ症 年齢階級別届出数

年齢階級	男性	女性	総数	割合
10歳未満	－	－	－	0.0%
10歳代	－	－	－	0.0%
20歳代	－	－	－	0.0%
30歳代	1	－	1	0.9%
40歳代	4	1	5	4.7%
50歳代	16	2	18	16.8%
60歳代	27	2	29	27.1%
70歳代	16	3	19	17.8%
80歳以上	16	19	35	32.7%
合計	80	27	107	100.0%
割合	74.8%	25.2%	100.0%	

(-:0)

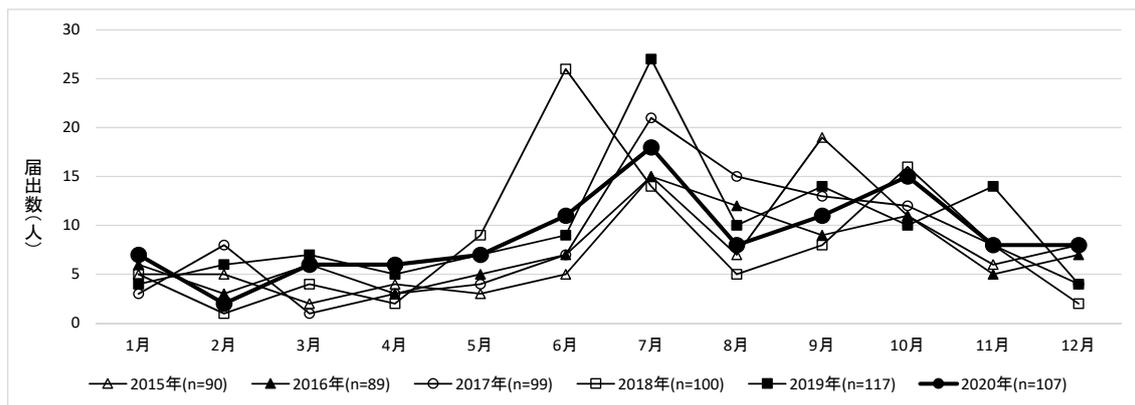


図 4 レジオネラ症 月別届出数 (2015~2020年)

2) 四類感染症の病原体検出状況

ア E型肝炎

17例24検体が採取され、9例12検体からE型肝炎ウイルスが検出された(表14)。遺伝子型は、G3が6例、型別未確定が3例であった。ウイルスが検出された9例に海外渡航歴はなかった。

イ A型肝炎

2例2検体が採取され、2例2検体からA型肝炎ウイルスが検出された(表14)。遺伝子型は、IAが2例であった。2例とも、海外渡航歴はなかった。

ウ 重症熱性血小板減少症候群

2例2検体が採取されたが、SFTSウイルスは検出されなかった(表14)。

エ ジカウイルス感染症

1検体が採取されたが、ジカウイルスは検出されなかった(表14)。

オ デング熱

2例2検体が採取され、1検体からデングウイルスが検出された(表14)。検出されたデングウイルスは型別不明で、ブラジルへの渡航歴があった。

表14 四類全数把握対象疾患のウイルス検出状況 (2020年)

四類感染症		2021年 1月29日 現在												累計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
臨床診断名	ウイルス	5	8	2	1	2	5	1		2	3	2		31
	検体数	5	6	1		2	3			2	3	2		24
E型肝炎	E型肝炎		5			1	2				2	2		12
	検体数		1					1						2
A型肝炎	A型肝炎			1				1						2
	検体数		1					1						2
重症熱性血小板減少症候群	検体数						2							2
	SFTS													
ジカウイルス感染症	検体数				1									1
	ジカ													
デング熱	検体数		1	1										2
	デング		1											1

カ レジオネラ症

肺炎症状を呈する患者から分離された *Legionella* 属菌は9株で、全て *Legionella pneumophila* 血清群1であった。また、LAMPのみ陽性を示したのは、5件であった(表15)。

表15 レジオネラ症 病原体検出状況 (2020年)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
<i>Legionella pneumophila</i> SG1	2	1	-	-	-	2	1	1	-	2	-	-	9
<i>Legionella</i> spp.(LAMP陽性)	-	1	-	-	1	-	-	1	1	-	-	1	5
計	2	2	-	-	1	2	1	2	1	2	-	1	14

3 五類感染症の発生動向

1) 五類感染症の患者情報

2020年の埼玉県及び全国の五類感染症の届出数を表16に示した。

埼玉県に届出のあった五類感染症は、アメーバ赤痢31人、ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)6人、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症81人、急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)2人、急性脳炎23人、クロイツフェルト・ヤコブ病2人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症30人、後天性免疫不全症候群29人、侵襲性インフルエンザ菌感染症12人、侵襲性髄膜炎菌感染症2人、侵襲性肺炎球菌感染症63人、水痘(入院例)13人、梅毒168人、播種性クリプトコックス症10人、破傷風5人、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1人、百日咳106人、風しん3人の計587人であった。

表16 五類感染症の届出数(2020年)

疾患名		埼玉県	全国*
五類	アメーバ赤痢	31	611
	ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	6	246
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	81	1,956
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	2	34
	急性脳炎	23	491
	クリプトスポリジウム症	-	6
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	157
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	30	718
	後天性免疫不全症候群	29	1,094
	ジアルジア症	-	28
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	12	253
	侵襲性髄膜炎菌感染症	2	14
	侵襲性肺炎球菌感染症	63	1,655
	水痘(入院例)	13	362
	先天性風しん症候群	-	1
	梅毒	168	5,867
	播種性クリプトコックス症	10	152
	破傷風	5	104
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	136
百日咳	106	2,819	
風しん	3	101	
麻しん	-	10	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	10	

*全国は診断週(第1週~第53週)の集計値 (-:0)

ア アメーバ赤痢

男性 24 人、女性 7 人の計 31 人の届出があり、前年の 36 人より減少した。症例の年齢は 20 歳代から 70 歳代に分布し、50 歳代の 14 人が最も多く、次いで 60 歳代の 7 人の順に多かった。届出は年間を通して確認された。病型別では、腸管アメーバ症 29 人、腸管及び腸管外アメーバ症 2 人であった。診断方法は、いずれも鏡検による病原体の検出で、腸管及び腸管外アメーバ症の 2 人には、肝膿瘍の所見が認められた。推定感染経路は経口感染及び性的接触が各 6 人、不明 19 人で、性的接触の内訳は異性間性的接触及び異性同性不明が各 3 人であった(表 17)。推定感染地域は、国内 23 人、不明 8 人であった。

表 17 アメーバ赤痢 年齢階級別届出数

年齢階級	症例数	性別		病型			推定感染経路		
		男性	女性	腸管アメーバ症	腸管外アメーバ症	腸管及び腸管外アメーバ症	経口感染	性的接触	不明
10歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	1	-	1	1	-	-	-	1	-
30歳代	2	1	1	2	-	-	-	1	1
40歳代	5	1	4	5	-	-	1	1	3
50歳代	14	13	1	13	-	1	2	2	10
60歳代	7	7	-	6	-	1	3	1	3
70歳代	2	2	-	2	-	-	-	-	2
80歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	31	24	7	29	-	2	6	6	19
割合	100.0%	77.4%	22.6%	93.5%	0.0%	6.5%	19.4%	19.4%	61.3%

(-0)

イ ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)

B型肝炎 5 人、その他のウイルス性肝炎 1 人の計 6 人の届出があり、前年の 5 人を上回った。C型肝炎の届出はなかった(表 18)。

B型肝炎は 1 月から 6 月に男性 5 人の届出があった。症例の年齢は 10 歳代から 50 歳代に分布した。いずれも、診断方法は血清 IgM 抗体(HBc 抗体)の検出であった。ウイルスの遺伝子型は B 型が 3 人、A 型が 2 人であった。推定感染経路は性的接触が 4 人、不明が 1 人で、性的接触の内訳は異性間性的接触及び異性同性不明が各 2 人であった。また、推定感染地域はいずれも国内であった。

その他のウイルス性肝炎は、サイトメガロウイルス(CMV)による肝炎が 6 月に女性 20 歳代の届出があった。診断方法は、CMV に対する IgM 抗体及び IgG 抗体の検出であった。推定感染経路は異性間性的接触で、推定感染地域は国内であった。

表 18 ウイルス性肝炎 (n=6) の届出内容

診断月	性別	年齢	病型	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	20歳代	B型	性的接触(異性間)	国内
2月	男	20歳代	B型	性的接触(異性同性不明)	国内
3月	男	50歳代	B型	性的接触(異性間)	国内
5月	男	10歳代	B型	不明	国内
6月	男	50歳代	B型	性的接触(異性同性不明)	国内
6月	女	20歳代	その他(CMV)	性的接触(異性間)	国内

ウ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

男性 50 人、女性 31 人の計 81 人の届出があり、前年の 90 人より減少した。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代まで幅広く分布したが、60 歳以上が 64 人で全体の 79.0%を占めた。症状は菌血症・敗血症が 36 人、尿路感染症が 20 人、胆嚢炎・胆管炎が 13 人、肺炎が 11 人、腸炎・腹膜炎が 7 人、髄膜炎 2 人であった（重複例有り）。検査検体で多かったのは、血液の 39 検体、喀痰及び尿の各 11 検体であった（重複例有り）（表 19）。

分離された菌は多い順に *Klebsiella aerogenes* が 37 株、*Enterobacter cloacae* が 20 株、*K. pneumoniae*、*Escherichia coli* 及び *Serratia marcescens* が各 5 株、*Citrobacter freundii* が 3 株、*K. oxytoca* 及び *E. cancerogenus* が各 2 株、*E. asburiae* が 1 株で、この他に *Enterobacter* sp. が 1 株報告された。

表 19 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 年齢階級別の届出数

年齢階級	症例数	性別		症状(重複有り)							検体(重複有り)						
		男性	女性	菌血症・敗血症	胆嚢炎・胆管炎	腸炎・腹膜炎	髄膜炎	肺炎	尿路感染症	その他	血液	膿水	喀痰	膿	尿	その他	
10歳未満	6	3	3	2	-	1	-	-	-	3	2	1	1	-	2	2	-
10歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	3	2	1	1	-	-	-	2	-	-	-	1	-	2	-	-	-
30歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	4	2	2	2	1	-	-	-	-	1	-	2	-	-	1	-	1
50歳代	4	3	1	2	1	1	-	-	-	1	-	3	-	-	1	-	-
60歳代	10	8	2	6	1	2	1	1	4	-	-	7	1	1	1	2	1
70歳代	20	11	9	10	4	1	-	2	4	7	-	9	1	2	1	2	5
80歳以上	34	21	13	13	6	2	1	6	9	6	-	16	2	6	1	5	6
合計	81	50	31	36	13	7	2	11	20	17	-	39	5	11	7	11	13
割合	100%	61.7%	38.3%	44.4%	16.0%	8.6%	2.5%	13.6%	24.7%	21.0%	-	48.1%	6.2%	13.6%	8.6%	13.6%	16.0%

(-10)

エ 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)

4月に男性5歳未満1人、8月に女性10-14歳1人の計2人の届出があり、前年の4人を下回った。いずれも病原体は不明であった。ワクチン接種歴は前者が有り、後者が不明であった。推定感染経路は前者が飛沫・飛沫核感染、後者が不明で、推定感染地域はいずれも国内であった。

オ 急性脳炎

男性9人、女性14人の計23人の届出があり、前年の59人より大きく減少した。症例の年齢は0歳から70歳代に分布し、階級別では1-4歳の13人が最も多かった(表20)。

病原体別では、インフルエンザウイルスによるものが9人（A型7人、型不明2人）、ヘルペスウイルスが3人、ニューモウイルスが2人で、病原体が特定されなかったのは9人であった。また、届出は1月から7月及び11月にあり、インフルエンザウイルスが検出された患者は、1月及び2月に診断されていた（表21）。推定感染地域は、全て国内（県内21人）であった。

表20 急性脳炎 年齢階級別届出数

年齢階級	総数	男性	女性
0歳	1	-	1
1-4歳	13	6	7
5-9歳	6	2	4
10-14歳	1	1	-
15-19歳	-	-	-
20-29歳	-	-	-
30-39歳	-	-	-
40-49歳	1	-	1
50-59歳	-	-	-
60-69歳	-	-	-
70歳以上	1	-	1
合計	23	9	14
割合	100.0%	39.1%	60.9%

(-:0)

表21 急性脳炎 診断月別の届出数

	病原体				総計
	インフルエンザウイルス	ヘルペスウイルス	ニューモウイルス*	不明	
1月	6	1	1	-	8
2月	3	-	-	-	3
3月	-	-	1	1	2
4月	-	-	-	1	1
5月	-	1	-	-	1
6月	-	-	-	2	2
7月	-	-	-	4	4
8月	-	-	-	-	-
9月	-	-	-	-	-
10月	-	-	-	-	-
11月	-	1	-	1	2
12月	-	-	-	-	-
総計	9	3	2	9	23

*:RSウイルス(1)、ヒトメタニューモウイルス(1)

(-:0)

カ クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)

5月に女性60歳代1人、8月に男性70歳代1人の計2人の届出があり、前年の8人より減少した。病型はいずれも古典型CJDで、診断の確実度は、前者がほぼ確実、後者が疑いであった。

キ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

男性18人、女性12人の計30人の届出があり、前年と同数であった。症例の年齢は0歳から90歳代に分布し、60歳以上が21人で全体の70.0%を占めた。届

出は10月を除く各月にあり、1月の6人が最も多かった。診断方法は全症例が分離同定による病原体の検出で、血清群はA群が14人、G群が13人、B群が3人であった(表22)。推定される感染経路は創傷感染が14人、接触感染が1人、その他が1人、不明が14人で、推定感染地域は国内が26人(県内23人)、不明が4人であった。

表 22 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 年齢階級別届出数と分離株の血清群

年齢階級	総数	男性	女性	血清群		
				A群	B群	G群
10歳未満	1	-	1	-	1	-
10歳代	-	-	-	-	-	-
20歳代	-	-	-	-	-	-
30歳代	1	1	-	-	-	1
40歳代	2	1	1	2	-	-
50歳代	5	5	-	3	-	2
60歳代	8	6	2	5	1	2
70歳代	5	1	4	2	-	3
80歳以上	8	4	4	2	1	5
合計	30	18	12	14	3	13
割合	100.0%	60.0%	40.0%	46.7%	10.0%	43.3%

(-0)

ク 後天性免疫不全症候群

男性29人の届出があり、前年の46人より減少した。女性の届出はなかった。症例の年齢は10歳代から50歳代に分布し、20歳代から40歳代が26人で、全体の89.7%を占めた。病型はAIDSが11人で、その指標疾患はサイトメガロウイルス感染症(生後1カ月以後で、肺、脾、リンパ節以外)、カンジダ症(食道、気管、気管支、肺)が各4人、ニューモシスティス肺炎が3人、クリプトコッカス症(肺以外)、HIV脳症が各2人、反復性肺炎、HIV消耗性症候群(全身衰弱又はスリム病)が各1人であった(重複例有り)。また、無症状病原体保有者が18人であった。推定される感染経路では性的接触が25人、不明が4人で、性的接触の内訳は同性間性的接触が21人、異性間性的接触が4人であった(表23)。

また、病型別の年齢分布では、AIDSは20歳代から40歳代に分布し、40歳代の7人が最も多かった。無症状病原体保有者は10歳代から50歳代に分布し、20歳代の8人が最も多かった(表24)。

表 23 後天性免疫不全症候群 届出数

		男性 n=29		
		届出数	割合	
年齢階級	10歳未満	-	0.0%	
	10歳代	1	3.4%	
	20歳代	10	34.5%	
	30歳代	4	13.8%	
	40歳代	12	41.4%	
	50歳代	2	6.9%	
	60歳代	-	0.0%	
	70歳代	-	0.0%	
	80歳以上	-	0.0%	
病型	AIDS	11	37.9%	
	その他	-	0.0%	
	無症状病原体保有者	18	62.1%	
推定感染地域	日本国内	18	62.1%	
	その他(国外)	3	10.3%	
	不明	8	27.6%	
国籍	日本	24	82.8%	
	その他	3	10.3%	
	不明	2	6.9%	
推定感染経路	性行為感染	異性間性的接触	4	13.8%
		同性間性的接触	21	72.4%
		異性・同性間性的接触	-	0.0%
		異性・同性不明性的接触	-	0.0%
	不明	4	13.8%	

(-:0)

表 24 後天性免疫不全症候群 病型別の年齢階級別届出数

年齢階級	症例数	AIDS	その他	無症状病原体保有者
10歳未満	-	-	-	-
10歳代	1	-	-	1
20歳代	10	2	-	8
30歳代	4	2	-	2
40歳代	12	7	-	5
50歳代	2	-	-	2
60歳代	-	-	-	-
70歳代	-	-	-	-
80歳以上	-	-	-	-
合計	29	11	-	18
割合	100.0%	37.9%	0.0%	62.1%

(-:0)

ケ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

男性 4 人、女性 8 人の計 12 人の届出があり、前年の 17 人より減少した。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代に分布し、0 歳及び 1-4 歳で各 1 人、40 歳以上で 10 人の報告があった。診断方法は、血液からの分離・同定による病原体の検出が 11 人であった。残りの 1 人は髄液からの分離・同定による病原体の検出及び血液からの PCR 法による病原体遺伝子の検出で、血清群は B 群であった。ヒブワクチン

接種歴は、有りが1人（1-4歳）、無しが5人（0歳を含む）、不明が6人であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染が3人、不明が7人で、残りの2人は従来からの保菌、医療機器からの感染が疑われていた。推定感染地域は全て国内（県内11人）であった（表25）。

表25 侵襲性インフルエンザ菌感染症（n=12）の届出内容

診断月	性別	年齢	診断方法 / 検体	推定感染経路	ワクチンの接種歴
1月	女	80歳代	分離・同定による病原体の検出/血液	飛沫・飛沫核感染	不明
1月	男	80歳代	分離・同定による病原体の検出/血液	飛沫・飛沫核感染	無
1月	男	80歳代	分離・同定による病原体の検出/血液	不明	不明
1月	女	40歳代	分離・同定による病原体の検出/血液	不明	不明
3月	女	40歳代	分離・同定による病原体の検出/血液	不明	不明
3月	女	90歳代	分離・同定による病原体の検出/血液	その他	不明
5月	女	80歳代	分離・同定による病原体の検出/血液	不明	不明
6月	男	60歳代	分離・同定による病原体の検出/血液	不明	無
6月	女	0歳	分離・同定による病原体の検出/血液	その他	無
9月	男	50歳代	分離・同定による病原体の検出/血液	飛沫・飛沫核感染	無
9月	女	60歳代	分離・同定による病原体の検出/血液	不明	無
11月	女	1-4歳	分離・同定による病原体の検出/髄液 PCR法による病原体遺伝子の検出/血液	不明	有

コ 侵襲性髄膜炎菌感染症

前年発生がなかった侵襲性髄膜炎菌感染症は1月に男性5歳未満1人、3月に女性40歳代1人の計2人の届出があった。診断方法は、前者が髄液及び血液からの分離・同定による病原体の検出及びPCR法による病原体遺伝子の検出で、血清群はB群、後者が血液からの分離・同定による病原体の検出で、血清群は不明であった。推定感染経路は前者が不明、後者が飛沫・飛沫核感染、推定感染地域は前者が国内（県内）、後者はブラジルであった。

サ 侵襲性肺炎球菌感染症

男性40人、女性23人の計63人の届出があり、前年の137人より減少した。症例の年齢は1歳から90歳代に分布し、60歳以上が41人で全体の65.1%を占めた。20歳未満では1-4歳が5人、5-9歳が3人、10-14歳、15-19歳が各1人の報告があった。診断方法は全て分離同定による病原体の検出であった。検体の種類は血液が61人、髄液が4人、その他の無菌部位（関節液）が1人であった（重複例有り）。症状は発熱が54人（85.7%）、菌血症が52人（82.5%）、肺炎が25人（39.7%）に認められた。ワクチン接種歴は、20歳未満では有りが8人、無しが2人で、20歳以上では、有りが80歳以上の3人及び30歳代の1人の計4人、無しが14人、不明が35人であった（表26）。推定感染地域は国内が61人（県内53人）、不明が2人であった。

表 26 侵襲性肺炎球菌感染症 年齢階級別届出数とワクチン接種歴

年齢階級	症例数	男性	女性	ワクチン接種歴		
				有り	無し	不明
0歳	-	-	-	-	-	-
1-4歳	5	2	3	5	-	-
5-9歳	3	2	1	2	1	-
10-14歳	1	1	-	1	-	-
15-19歳	1	1	-	-	1	-
20-29歳	1	1	-	-	1	-
30-39歳	3	1	2	1	-	2
40-49歳	2	-	2	-	1	1
50-59歳	6	5	1	-	2	4
60-69歳	4	4	-	-	2	2
70-79歳	22	16	6	-	6	16
80歳以上	15	7	8	3	2	10
合計	63	40	23	12	16	35
割合	100.0%	63.5%	36.5%	19.0%	25.4%	55.6%

(-:0)

シ 水痘(入院例)

男性 9 人、女性 4 人の計 13 人の届出があり、前年の 17 人を下回った。症例の年齢は 1 歳から 90 歳代に分布した。病型別では検査診断例が 7 例、臨床診断例が 6 例で、検査診断例の診断方法は、血清 IgM 抗体の検出が 5 人、分離・同定による病原体の検出が 2 人であった。ワクチン接種歴は無しが 3 人、不明が 10 人であった(表 27)。感染経路は、家族等からの感染が 4 人、入院中の院内感染が 3 人、不明が 6 人で、推定感染地域は国内が 12 人(全て県内)、不明が 1 人であった。

表 27 水痘(入院例) (n=13) の届出内容

診断月	性別	年齢	病型	診断方法	ワクチン接種歴
1月	女	60歳代	臨床診断例	臨床決定	不明
1月	男	70歳代	検査診断例	血清IgM抗体の検出	不明
2月	男	1-4歳	臨床診断例	臨床決定	無
2月	男	80歳代	検査診断例	分離・同定による病原体の検出	不明
2月	女	90歳代	検査診断例	血清IgM抗体の検出	不明
2月	男	80歳代	臨床診断例	臨床決定	不明
4月	女	20歳代	検査診断例	分離・同定による病原体の検出	無
5月	男	70歳代	臨床診断例	臨床決定	不明
6月	女	20歳代	臨床診断例	臨床決定	不明
9月	男	40歳代	検査診断例	血清IgM抗体の検出	不明
10月	男	40歳代	臨床診断例	臨床決定	不明
11月	男	40歳代	検査診断例	血清IgM抗体の検出	不明
12月	男	30歳代	検査診断例	血清IgM抗体の検出	無

ス 梅毒

男性 114 人、女性 54 人の計 168 人の届出があり、前年の 205 人より減少した(図 5)。性比(男/女)は 2.11 で、前年の 2.06 と同等であった。

症例の年齢は、男性では 0 歳から 70 歳代に分布し、40 歳代が最も多く 20 歳代から 40 歳代が 76.3%を占めた。女性では 0 歳代から 80 歳代に分布し、20 歳代が最も多く 20 歳代から 40 歳代が 70.4%を占めた。病型は、男性では早期顕症梅毒(I 期)が 53 人、早期顕症梅毒(II 期)が 24 人、晩期顕症梅毒が 3 人、先天梅毒が 1 人、無症状病原体保有者が 33 人で、女性では早期顕症梅毒(I 期)が 12 人、早期顕症梅毒(II 期)が 18 人、晩期顕症梅毒が 1 人、先天梅毒が 4 人、無症状病原体保有者が 19 人であった。また、先天梅毒は、2015 年、2016 年、2018 年に各 1 人の届出があったが、2020 年は 5 人と大きく増加した。推定感染経路は、男性では性行為感染が 100 人、母子感染が 1 人、不明が 13 人、女性では性行為感染が 41 人、母子感染が 4 人、不明が 9 人であった。性行為感染の内訳では、異性間性的接触が男女共に最も多く、男性が 58 人、女性が 33 人であった(表 28)。性風俗産業の直近 6 か月以内の利用歴・従事歴は、利用歴が男性の 28.9%、従事歴が女性の 14.8%に認められた。H I V感染症との合併は男性 11 人、妊娠は女性 7 人に認められた。また、推定感染地域は国内が 127 人、国外が 1 人、不明が 40 人であった。

表 28 梅毒 届出数

		男性 n=114		女性 n=54		
		届出数	割合	届出数	割合	
年齢階級	10歳未満	1	0.9%	4	7.4%	
	10歳代	2	1.8%	4	7.4%	
	20歳代	25	21.9%	19	35.2%	
	30歳代	29	25.4%	10	18.5%	
	40歳代	33	28.9%	9	16.7%	
	50歳代	15	13.2%	5	9.3%	
	60歳代	5	4.4%	-	0.0%	
	70歳代	4	3.5%	1	1.9%	
	80歳以上	-	0.0%	2	3.7%	
病型	早期顕症梅毒(I 期)	53	46.5%	12	22.2%	
	早期顕症梅毒(II 期)	24	21.1%	18	33.3%	
	晩期顕症梅毒	3	2.6%	1	1.9%	
	先天梅毒	1	0.9%	4	7.4%	
	無症状病原体保有者	33	28.9%	19	35.2%	
推定感染経路	性行為感染	異性間性的接触	58 *	50.9%	33	61.1%
		同性間性的接触	18	15.8%	-	0.0%
		異性・同性間性的接触	2	1.8%	1	1.9%
		異性・同性不明性的接触	22	19.3%	7	13.0%
	性行為以外	母子感染	1	0.9%	4	7.4%
	不明		13	11.4%	9	16.7%

*針等の鋭利なものの刺入による感染が疑われた1例を含む

(-:0)

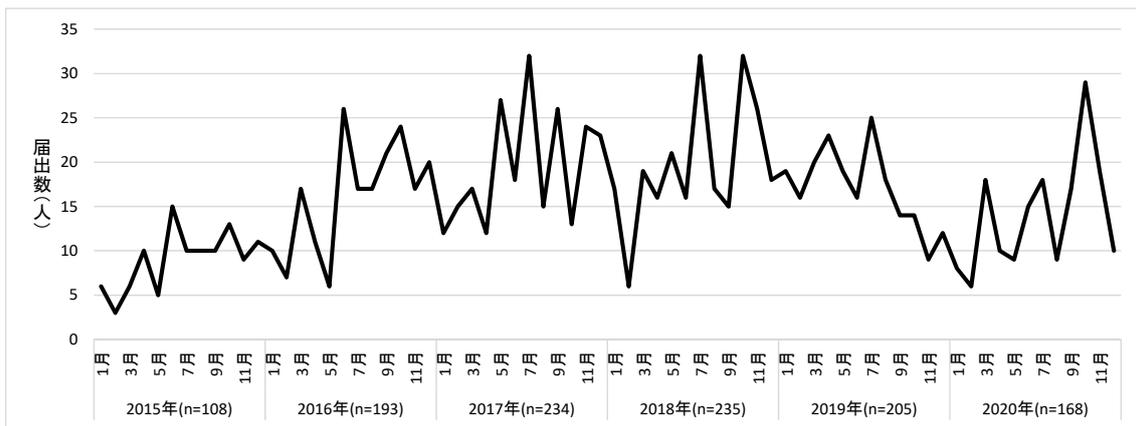


図5 梅毒 届出数の推移 (2015年1月～2020年12月)

セ 播種性クリプトコックス症

男性8人、女性2人の計10人の届出があり、前年の9人を上回った。症例の年齢は40歳代から80歳代に分布した。診断方法は、分離・同定による病原体の検出が7人、病理組織学的診断が3人、ラテックス凝集法によるクリプトコックス荚膜抗原の検出が3人であった(重複例有り)。感染原因では、ステロイド内服等による免疫不全が7人、鳥類の糞などとの接触が1人、鳥類の糞などとの接触及び免疫不全が1人、原因不明が1人であった(表29)。推定感染地域はいずれも国内(全て県内)であった。

表29 播種性クリプトコックス症 (n=10) の届出内容

診断月	性別	年齢	診断方法 / 検体	感染原因
1月	女	80歳代	分離・同定による病原体の検出/血液、髄液	免疫不全
5月	男	70歳代	分離・同定による病原体の検出/髄液	免疫不全
6月	女	70歳代	分離・同定による病原体の検出/髄液 病理組織学的診断/髄液 ラテックス凝集法によるクリプトコックス荚膜抗原の検出/髄液	免疫不全
7月	男	80歳代	分離・同定による病原体の検出/血液	免疫不全
7月	男	40歳代	病理組織学的診断/髄液	鳥類の糞などとの接触
7月	男	70歳代	ラテックス凝集法によるクリプトコックス荚膜抗原の検出/血液	鳥類の糞などとの接触 免疫不全
7月	男	60歳代	分離・同定による病原体の検出/血液	不明
8月	男	80歳代	分離・同定による病原体の検出/血液、胸水	免疫不全
10月	男	60歳代	分離・同定による病原体の検出/髄液	免疫不全
11月	男	80歳代	病理組織学的診断/不明 ラテックス凝集法によるクリプトコックス荚膜抗原の検出/血液	免疫不全

ソ 破傷風

男性3人、女性2人の計5人の届出があり、前年の4人を上回った。症例の年齢は60歳代から80歳代に分布した。いずれも、診断方法は臨床決定、推定感染経路は創傷感染、推定感染地域は国内(全て県内)であった。破傷風含有ワクチンの接種歴は、有りが1人、不明が4人であった(表30)。

表 30 破傷風 (n=5) の届出内容

診断月	性別	年齢	診断方法	推定感染経路/部位	推定感染地域	ワクチンの接種歴
5月	男	70歳代	臨床決定	創傷感染(手指)	国内	不明
5月	男	60歳代	臨床決定	創傷感染(不明)	国内	有
6月	女	60歳代	臨床決定	創傷感染(右第1趾)	国内	不明
8月	女	80歳代	臨床決定	創傷感染(両肢、右下腿)	国内	不明
11月	男	60歳代	臨床決定	創傷感染(左足底)	国内	不明

タ バンコマイシン耐性腸球菌感染症

4月に女性80歳代の届出があり、前年の2人を下回った。診断方法は分離同定による腸球菌の検出で、MIC(Minimum inhibitory concentration)測定が行われており、便から *Enterococcus faecium* が分離されていた。推定感染地域は国内であった。

チ 百日咳

男性35人、女性71人の計106人の届出があり、前年の704人より大きく減少した。症例の年齢は0歳から80歳代に分布し、階級別では5-9歳30人、10-14歳20人の順に多く、20歳未満が68人で全体の63.0%を占めた。診断方法は病原体遺伝子の検出が30人、単一血清で抗体価の高値が66人、ペア血清で抗体価の有意上昇が3人であった(重複例有り)。また、検査所見を認めないが、検査確定例と接触が有りかつ臨床的特徴を有した者が1人であった。ワクチン接種歴は有りが58人、無しが7人、不明が41人で、接種歴は有りのうち4回接種者は54人であった。また、0歳では接種歴有りが2人(接種回数3回)、無しが6人であった(表31)。また、0歳の推定感染経路は、家族からの感染が5人、不明が3人で、家族の内訳は同胞が2人、父母が3人、祖父母等が1人であった(重複例有り)。推定感染地域は国内が83人(県内76人)、不明が23人であった。

表 31 百日咳 年齢階級別届出数とワクチン接種歴

年齢階級	症例数	男性	女性	ワクチン接種歴		
				有り	無し	不明
0歳	8	3	5	2	6	-
1-4歳	7	2	5	7	-	-
5-9歳	30	14	16	27	-	3
10-14歳	20	6	14	19	-	1
15-19歳	1	-	1	-	-	1
20-29歳	10	2	8	2	-	8
30-39歳	7	-	7	-	1	6
40-49歳	10	4	6	-	-	10
50-59歳	5	-	5	-	-	5
60-69歳	4	1	3	1	-	3
70-79歳	2	2	-	-	-	2
80歳以上	2	1	1	-	-	2
合計	106	35	71	58	7	41
割合	100.0%	33.0%	67.0%	54.7%	6.6%	38.7%

ツ 風しん

男性1人、女性2人の計3人の届出があり、前年の198人より大きく減少した。症例の年齢は1歳から30歳代に分布した。病型は検査診断例2人、臨床診断例が1人であった。検査診断例2人の診断方法は、いずれも血清IgM抗体の検出であった。ワクチン接種歴は、1-4歳及び20歳代の症例には1回の接種が確認されたが、30歳代の症例は不明であった(表32)。推定感染経路はいずれも不明で、推定感染地域は国内が1人、不明が2人であった。

表 32 風しん (n=3) の届出内容

診断月	性別	年齢	病型	診断方法	ワクチンの接種歴	
					1回目	2回目
2月	女	20歳代	検査診断例	血清IgM抗体の検出	不明	不明
2月	女	30歳代	検査診断例	血清IgM抗体の検出	有	不明
2月	男	1-4歳	臨床診断例	臨床決定	有	無

2) 五類感染症の病原体検出状況

ア カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

8 菌種、76 株のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) が分離された (表 33)。最も多く分離されたのは、*Klebsiella aerogenes* で 35 株 (46.1%)、次いで *Enterobacter cloacae* complex が 20 株 (26.3%)、*Serratia marcescens* が 5 株、*Escherichia coli*、*Klebsiella pneumoniae*、*Klebsiella oxytoca* がそれぞれ 4 株、*Citrobacter freundii* が 3 株 *Enterobacter* sp. が 1 株の順であった。

Klebsiella 属は、43 株 (*K. aerogenes* 35 株、*K. pneumoniae* 4 株、*K. oxytoca* 4 株) で全体の 56.6%を占めていた。

表 33 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 分離状況 (2020 年)

菌種名	株数	耐性遺伝子	株数
<i>Klebsiella aerogenes</i>	35 (46.1%)	不検出	35
		SHV型、DHA型	2
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	4 (5.3%)	IMP型、SHV型、CTX-M2 group	1
		TEM型、SHV型	1
<i>Klebsiella oxytoca</i>	4 (5.3%)	IMP型	4
<i>Enterobacter cloacae</i> complex	20 (26.3%)	不検出	7
		IMP型、SHV型、CTX-M9 group	1
		EBC型	8
		IMP型	4
<i>Enterobacter</i> sp.	1 (1.2%)	不検出	1
<i>Escherichia coli</i>	4 (5.3%)	DHA型	1
		TEM型、CTX-M-9group	1
		NDM型、TEM型、CIT型	1
		DHA型、CTX-M-1group	1
<i>Citrobacter freundii</i>	3 (3.9%)	CIT型	1
		IMP型	1
		DHA型	1
<i>Serratia marcescens</i>	5 (6.6%)	不検出	5
合計	76		76

薬剤耐性遺伝子は、主にカルバペネマーゼ遺伝子 (NDM 型、KPC 型、IMP 型、VIM 型、GES 型、OXA-48 型) 6 種、基質特異性拡張型 β ラクタマーゼ (ESBL) 遺伝子 (TEM 型、SHV 型、CTX-M-1group、CTX-M-2group、CTX-M-9group) 5 種、AmpC 型 β ラクタマーゼ遺伝子 (ACC 型、CIT 型、DHA 型、EBC 型、FOX 型、MOX 型) 6 種の計 17 種類について検査を実施した。

カルバペネマーゼ遺伝子保有株いわゆるカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌 (CPE) は、12 株 (15.8%)であった。このうち IMP 型保有株は 11 株で CPE の 91.7%を占めていた。このほか NDM 型が 1 株分離された。CPE の菌種は、*K.*

pneumoniae、*K. oxytoca*、*E. cloacae* complex、*C. freundii*、*E. coli* の 5 菌種であった。ESBL 遺伝子保有株は 8 株 (10.5%)、AmpC 型 β ラクタマーゼ遺伝子保有株は 15 株 (19.7%) であった。

イ 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)

1 例 6 検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった (表 34)。

表 34 五類全数把握対象疾患のウイルス検出状況 (2020 年)

五類感染症		2021年 1月29日 現在												累計	その他のウイルス
臨床診断名	ウイルス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
急性弛緩性麻痺	検体数 エンテロ D68	28	9	15	6	9	3	6	12	13	1	14	2	118	
急性脳炎 (四類以外)	検体数 単純ヘルペス 1	7	6	5		4			2	5	1	5		35	
	EB			2						2				2	
	サイトメガロ ノロ		1							1				1	
風しん	検体数 風しん	12		6	3	5		1						27	
麻しん	検体数 麻しん	9	3	4	3		3	5	4	8		9	2	50	水痘帯状疱疹(3)

ウ 急性脳炎

14 例 35 検体が採取され、3 例 5 検体から 6 件のウイルスが検出された。検出されたウイルスは、単純ヘルペスウイルス 1 型及びサイトメガロウイルスがそれぞれ 1 例 2 件、EB ウイルス及びノロウイルス G2 がそれぞれ 1 件であった。このうち単純ヘルペスウイルス 1 型と EB ウイルスが 1 検体から重複して検出された (表 34)。

エ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌は 15 株分離された。うち *Streptococcus pyogenes* は 8 株、*Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* (SDSE) 6 株、B 群溶血性レンサ球菌 (GBS) である *Streptococcus agalactiae* 1 株であった (表 35)。

S. pyogenes は、1 月、3 月、5 月、9 月、10 月に分離され、*emm* 型は、*emm81.0* が 4 株、*emm1.0*、*emm49.0*、*emm58.0*、*emm183.4* がそれぞれ 1 株ずつ分離された。T 型別では、T 1 型が 1 株、T 型別不能が 7 株であった。

SDSE の *emm* 型は、*stG6792.3* が 2 株、*stC74a.0*、*stG10.0*、*stG485.0*、*stG652.0* がそれぞれ 1 株であった。1 株分離の *S. agalactiae* (GBS) の莢膜型は、Ⅲ型であった。

表 35 劇症型溶血性レンサ球菌 月別分離状況 (2020 年)

分離月	菌名	T血清型/emm型、莢膜型	性別	年齢
1月	<i>Streptococcus pyogenes</i>	TUT / emm183.4	男	60歳代
2月	<i>Streptococcus agalactiae</i> (GBS)	Ⅲ型	女	10歳未満
3月	<i>Streptococcus pyogenes</i>	TUT / emm81.0	男	50歳代
3月	<i>Streptococcus pyogenes</i>	TUT / emm81.0	男	70歳代
3月	<i>Streptococcus pyogenes</i>	TUT / emm81.0	男	40歳代
4月	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i> (SDSE)	stC74a.0	男	90歳代
5月	<i>Streptococcus pyogenes</i>	TUT / emm58.0	男	60歳代
5月	<i>Streptococcus pyogenes</i>	TUT / emm81.0	男	60歳代
6月	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i> (SDSE)	stG10.0	女	70歳代
7月	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i> (SDSE)	stG485.0	男	80歳代
7月	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i> (SDSE)	stG6792.3	女	70歳代
8月	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i> (SDSE)	stG6792.3	男	30歳代
9月	<i>Streptococcus pyogenes</i>	TUT / emm49.0	男	50歳代
9月	<i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i> (SDSE)	stG652.0	女	80歳代
10月	<i>Streptococcus pyogenes</i>	T1 / emm1.0	女	40歳代

オ 侵襲性髄膜炎菌感染症

侵襲性髄膜炎菌感染症由来の髄膜炎菌 (*Neisseria meningitidis*) は、1 月に 1 株分離された。血清型/シーケンスタイプは、血清群 B/ST5664 であった。

カ 播種性クリプトコックス症

Cryptococcus neoformans は 5 月と 6 月に 1 株ずつ、計 2 株分離された。

キ 風しん

10 例 27 検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった (表 34)。

ク 麻しん

19 例 50 検体が採取されたが麻しんウイルスは検出されなかった。麻しんウイルス以外の検出ウイルスは、水痘帯状疱疹しんウイルスが 1 例 3 件であった (表 34)。

II 定点把握対象疾患の発生動向

1 定点把握対象疾患の概要

1) 内科定点及び小児科定点の感染症

2019-2020年シーズンのインフルエンザは、2019年第51週(12/16~22)に定点当たり29.57の最大値を観察し、2020年の年明け後も緩やかに減少した。2020-2021年シーズンの流行は観察されなかった。

2) 小児科定点の感染症

RSウイルス感染症は、夏から秋にかけての流行は観察されなかった。報告された患者の年齢は1歳未満が187人、1歳が178人であった。咽頭結膜熱は、夏季の流行は観察されず、冬季流行も小規模であった。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、1月から2月までは例年同様に推移したが、3月以降は例年と異なる低い水準で推移した。感染性胃腸炎は、3月以降例年を下回る水準で推移し、冬季流行は観察されなかった。水痘は、3月中旬以降、前年を下回る水準で推移した。手足口病は、夏季の流行は観察されなかった。伝染性紅斑は、4月中旬以降定点当たり0.1を下回り、2018年から始まった流行は終息した。突発性発しんは、3月から5月までは例年を下回る水準で推移した。ヘルパンギーナ、夏季の流行は観察されなかった。流行性耳下腺炎は、前年の定点当たり報告患者総数を下回り、2018年以降非流行期が続いている。

3) 眼科定点の感染症

急性出血性結膜炎は、前年の定点当たり報告患者総数を下回り、低い水準が続いている。流行性角結膜炎は、前年の定点当たり報告患者総数を下回り、年間を通して大きな変動は観察されなかった。

4) 基幹定点の感染症

ア 週単位報告の感染症(2020年第1週~第53週)

細菌性髄膜炎の過去10年の定点当たり報告患者総数の変動幅は0.22~1.89であった。2020年の定点当たり報告患者総数は1.09で、報告は例年同様に散発的であった。無菌性髄膜炎の過去10年の定点当たり報告患者総数の変動幅は1.89~6.00であった。2020年の定点当たり報告患者総数は2.00で、報告は例年同様に断続的であった。マイコプラズマ肺炎の過去10年の定点当たり報告患者総数の変動幅は8.41(2018年)~128.11(2012年)であった。2020年の定点当たり報告患者総数は7.91で、過去10年の最小値を僅かに下回った。クラミジア肺炎の過去10年の定点当たり報告患者総数の変動幅は0.09(2019年)~6.00(2012年)であった。2020年は患者の報告は無く、過去10年の最小値を下回った。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は2013年第42週から報告対象疾患となり、2014年以降の定点当たり報告患者総数の変動幅は4.02~11.40であった。2020年の定点当たり報告患者総数は0.09で、過去6年の最小値を大きく下回った。インフルエンザ(入院患者)は2011年第36週から報告対象疾患となり、2012年以降の定点当たり報告患者総数の変動幅は14.60~52.64であった。2020年の定点当たり報告患者総数

11.91 で、過去 8 年の最小値を下回った。

イ 月単位報告の感染症(2020年1月~12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の定点当たり報告患者総数は、2000年代には 30.00 を超える年もあったが、2013 年以降は 20.00 を下回っている。2020 年の定点当たり報告患者総数は 14.55 で、全国より少なかった。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の定点当たり報告患者総数は、2005 年から 2011 年は 10.00 を超えていた。その後は低い水準で推移している。2020 年の定点当たり報告患者総数は 2.55 で、全国より多かった。薬剤耐性緑膿菌感染症の定点当たり報告患者総数は、2007 年までは 1.00 以上であったが、2008 年から 2019 年までは 0.09~0.89 で推移している。2020 年の定点当たり報告患者総数は 0.55 で、全国より多かった。

5) 性感染症定点の感染症

性器クラミジア感染症の定点当たり報告患者総数は、2007 年までは 30.00 を上回っていたが、2008 年から 2019 年までは 24.12~28.72 で推移している。2020 年の定点当たり報告患者総数は 27.19 で、全国と同等であった。性器ヘルペスウイルス感染症の定点当たり報告患者総数は、2001 年以降、5.82~9.50 で推移している。2020 年の定点当たり報告患者総数は 8.42 で、全国より少なかった。尖圭コンジローマの定点当たり報告患者総数は、2001 年以降、3.84~6.28 で推移している。2020 年の定点当たり報告患者総数は 4.24 で、全国より少なかった。淋菌感染症の定点当たり報告患者総数は、2001 年以降、7.12~17.44 で推移している。2020 年の定点当たり報告患者総数は過去最低の 6.47 で、全国より少なかった。

2 内科及び小児科定点把握対象疾患の動向

1) インフルエンザ

2020年の第1週～53週の累積報告患者数は29,327人であった。定点当たり報告患者総数116.84は前年と比べ大きく減少した。2019-2020シーズンは2019年の第51週(12/16～22)に定点当たり29.57を観察したが、年明け後は定点当たり20.00を下回り、例年に比べ小規模な流行であった。定点当たり報告数は第12週(3/16～22)に1.00を下回り、その後は年末まで増加することはなかった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、20歳未満が全体の72.1%、10歳未満は全体の52.9%を占めた。

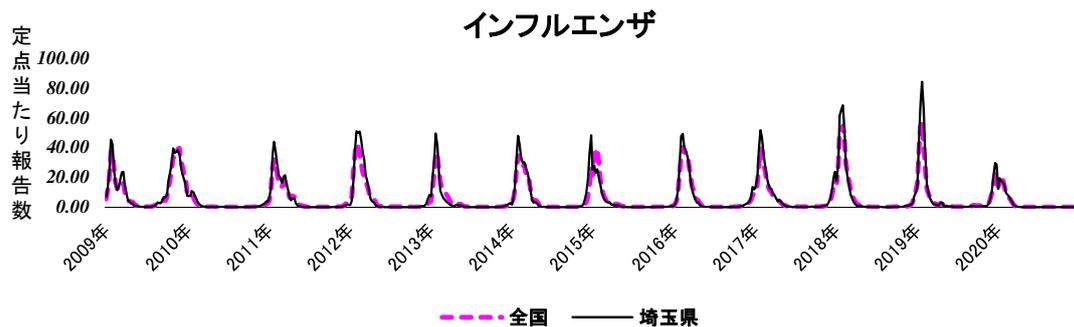


図 6-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：インフルエンザ)

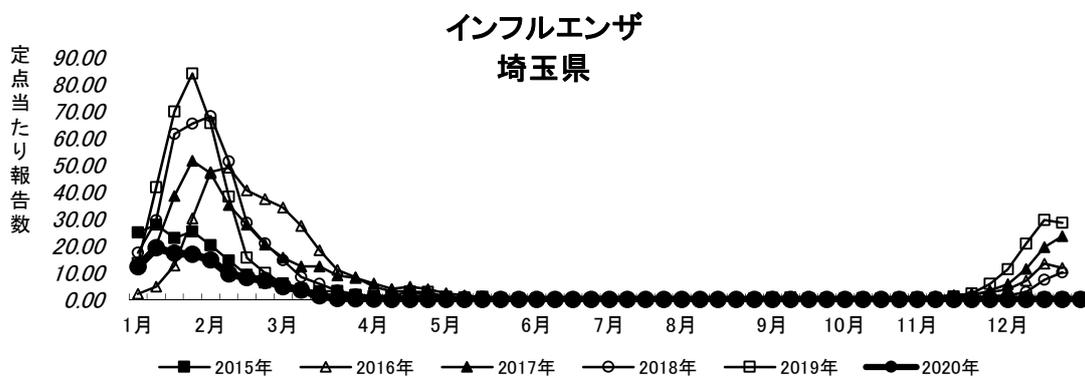


図 6-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：インフルエンザ)

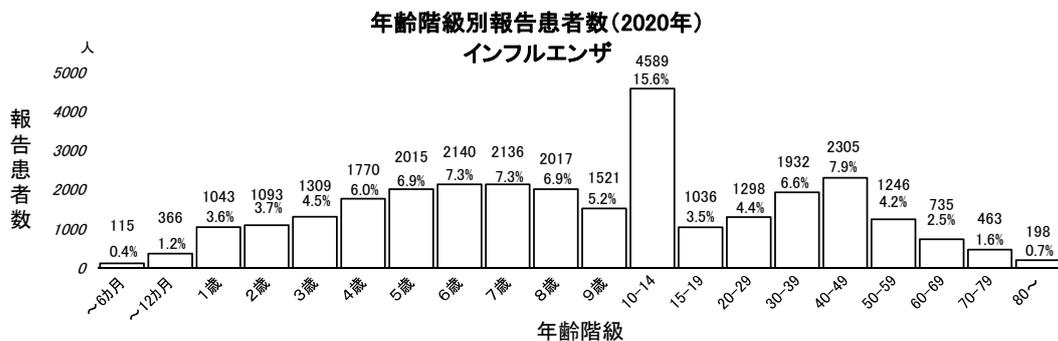


図 6-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：インフルエンザ)

3 小児科定点把握対象疾患の動向

1) RSウイルス感染症

2020年第1週～53週の累積報告患者数は559人であった。定点当たり報告患者総数3.52は前年と比べ大きく減少した。例年のような夏から秋の流行は観察されず、定点当たり報告数の最大値は、第6週(2/3～9)の0.35で、前年の最大値2.73を大きく下回った。年齢階級別では15-19歳を除く階級で報告があり、1歳が最も多く、2歳未満が全体の64.9%を占めた。

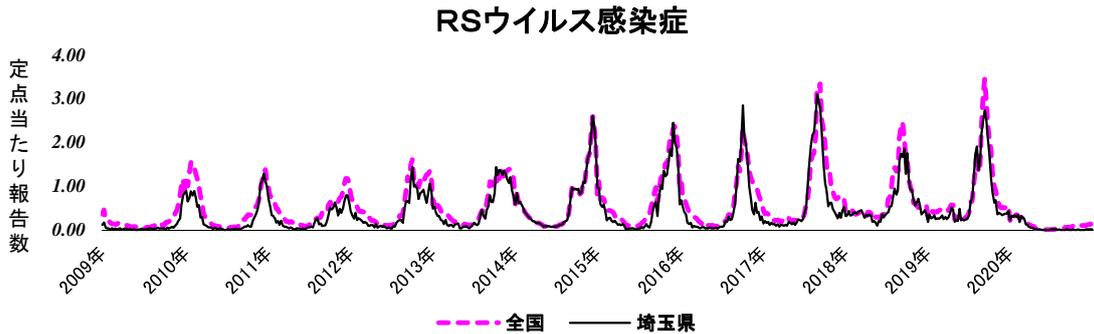


図 7-1 報告患者数の年推移(全国比較：RSウイルス感染症)

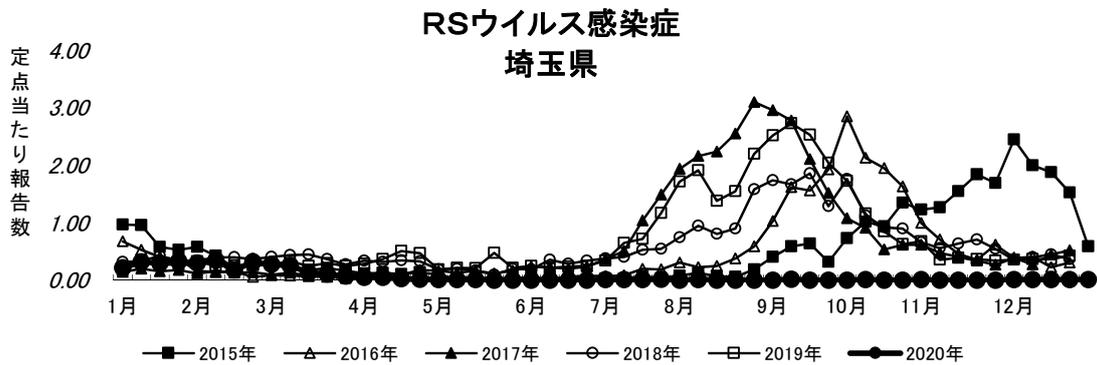


図 7-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：RSウイルス感染症)

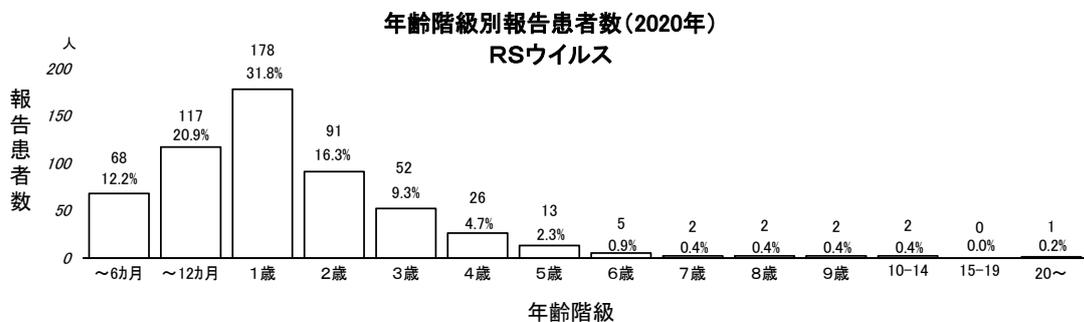


図 7-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：RSウイルス感染症)

2) 咽頭結膜熱

2020年第1週～53週の累積報告患者数は1,696人であった。定点当たり報告患者総数10.67は前年と比べ減少した。例年のような夏季流行は観察されず、冬季流行も2016年と同様に小規模であった。定点当たり報告数の最大値0.62は、第2週(1/6～12)に観察された。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多く、1歳～4歳が全体の70.5%を占めた。

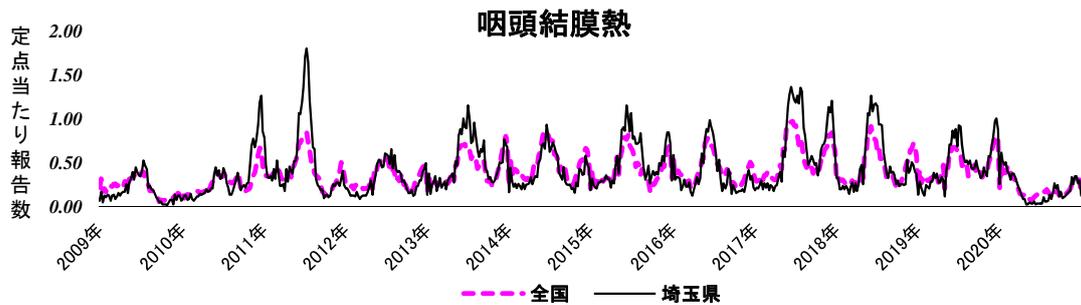


図 8-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：咽頭結膜熱)

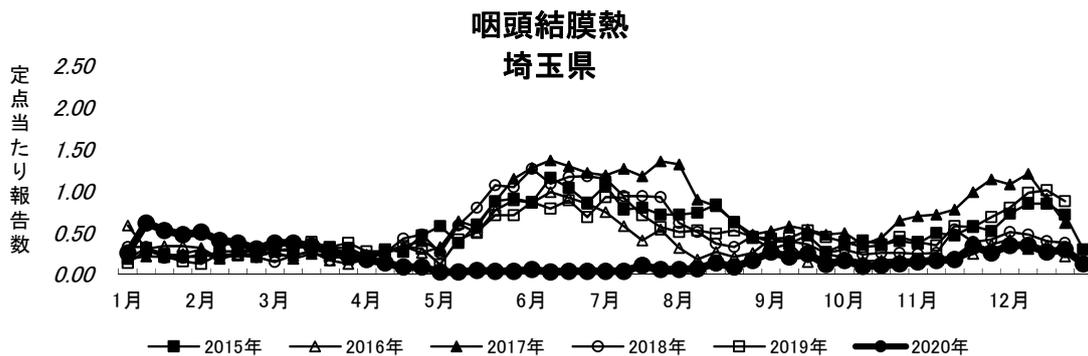


図 8-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：咽頭結膜熱)

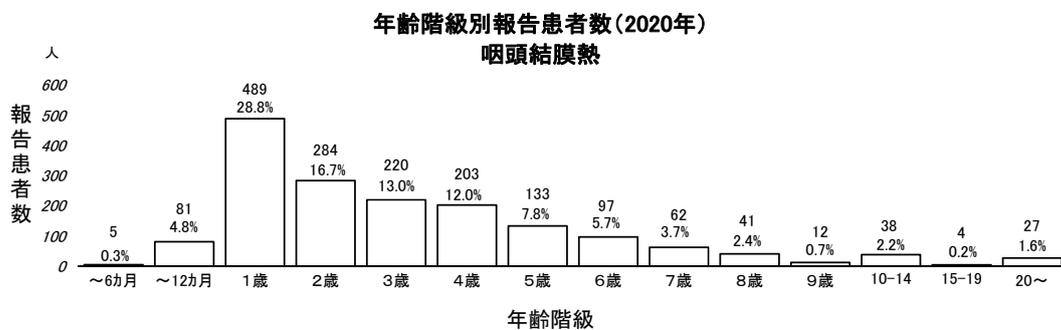


図 8-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：咽頭結膜熱)

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2020年第1週～53週の累積報告患者数は9,817人であった。定点当たり報告患者総数61.74は前年と比べ減少した。定点当たり報告数は1月から2月までは例年同様に推移したが、3月以降は減少し、定点当たり1.00を下回る水準で推移した。定点当たり報告数の最大値は第8週(2/17～23)の4.16であった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、3歳～8歳で全体の64.8%を占めた。

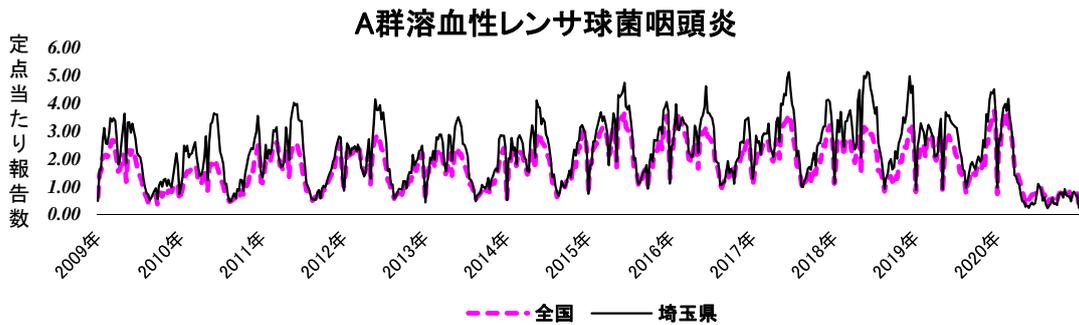


図 9-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)

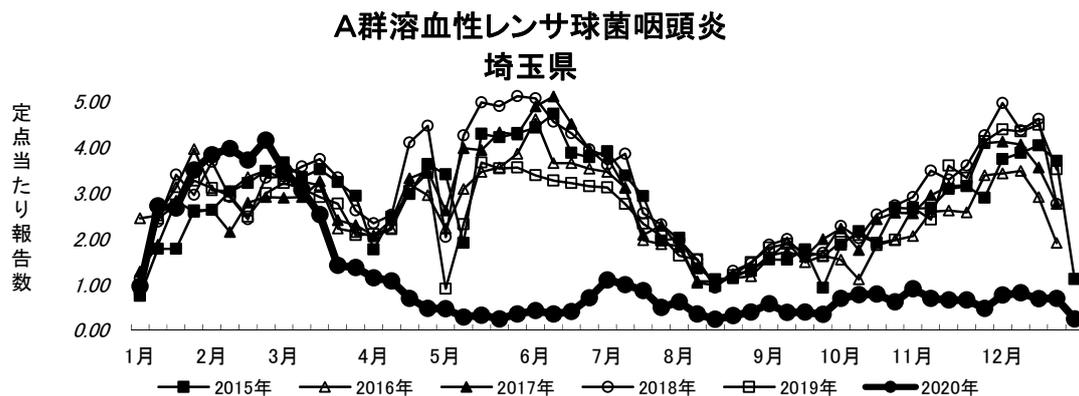


図 9-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)

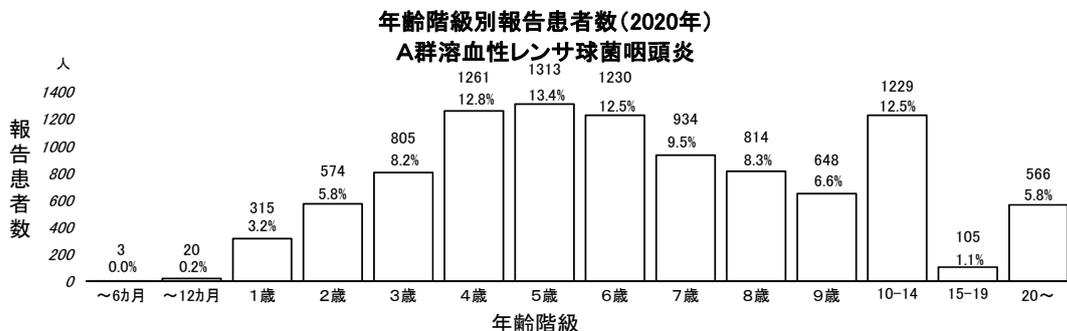


図 9-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)

4) 感染性胃腸炎

2020年第1週～53週の累積患者報告数は24,885人であった。定点当たり報告患者総数156.51は前年と比べ減少した。定点当たり報告数の最大値は第4週(1/20～26)の8.69で、3月以降、例年を下回る水準で推移し、冬季流行は観察されなかった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多かった。

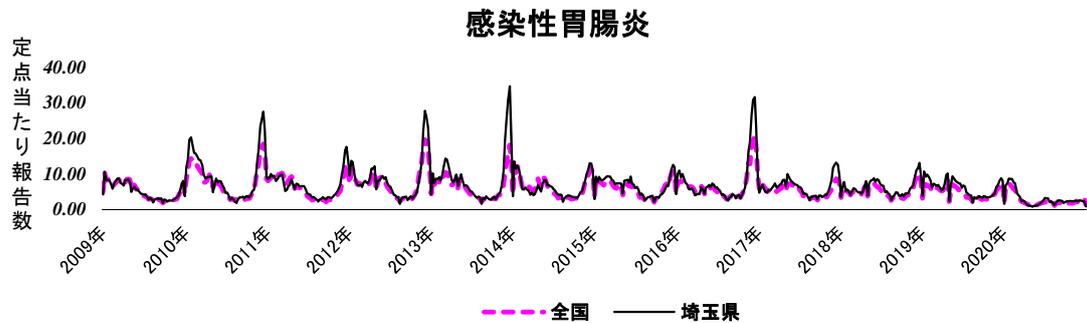


図10-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：感染性胃腸炎)

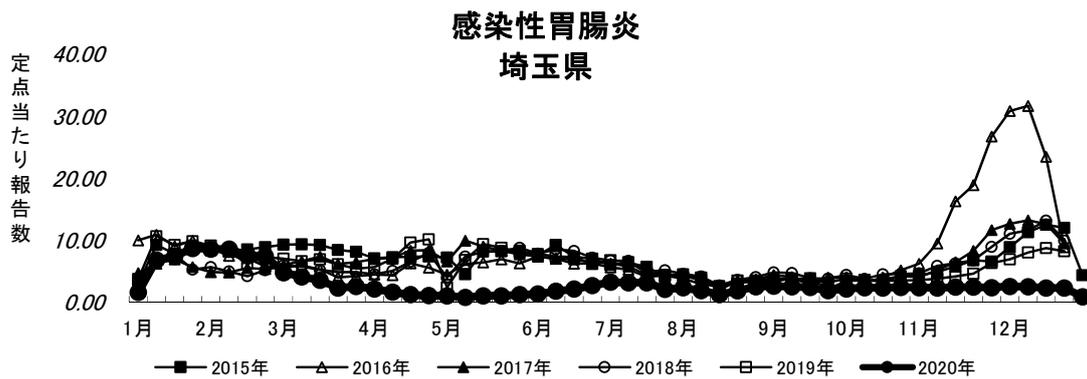


図10-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：感染性胃腸炎)

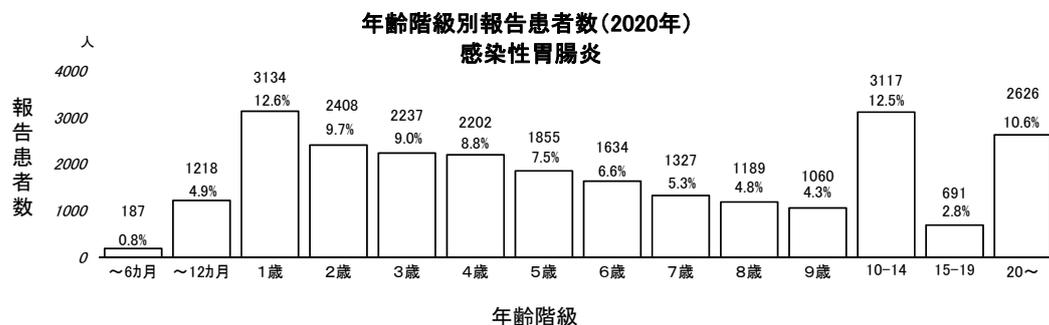


図10-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：感染性胃腸炎)

5) 水痘

2020年第1週～第53週の累積報告患者数は2,143人であった。定点当たり報告患者総数13.48は前年と比べ減少した。定点当たり報告数の最大値は第2週(1/6～12)の1.12で、3月中旬以降、前年を下回る水準で推移した。年齢階級別では全ての階級で報告があり、10歳未満では、6歳、5歳、7歳の順に多く、4歳～9歳で全体の66.4%を占めた。

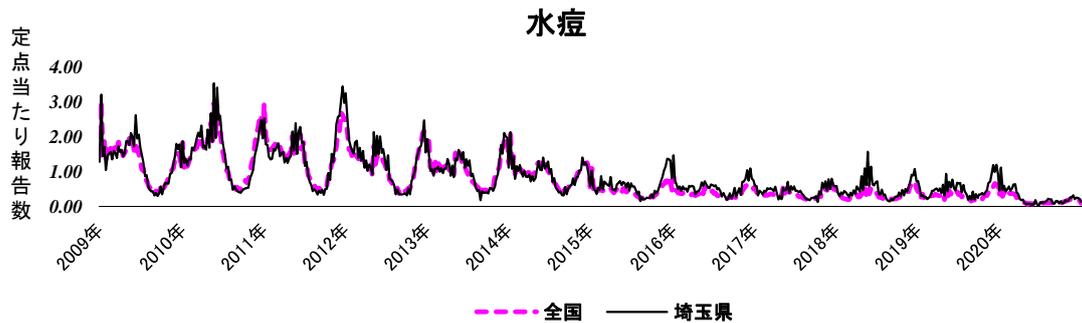


図 11-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：水痘)

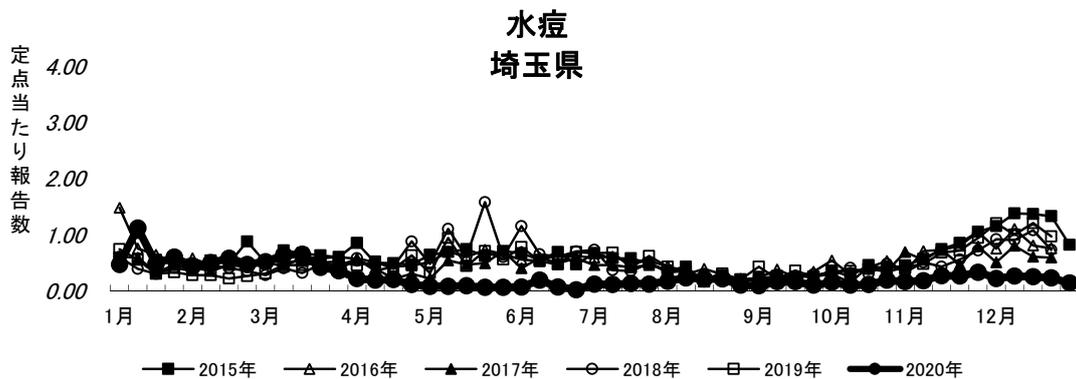


図 11-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：水痘)

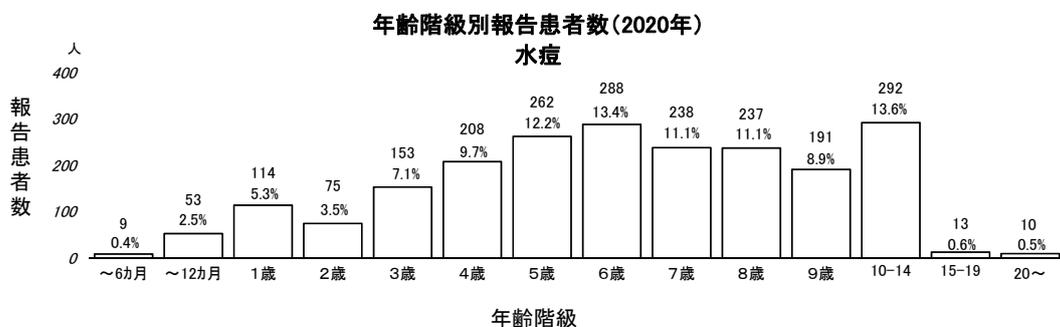


図 11-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：水痘)

6) 手足口病

2020年第1週～53週の累積報告患者数は786人であった。定点当たり報告患者総数4.94は前年と比べ大きく減少した。定点当たり報告数の最大値は第5週(1/27～2/2)の0.24で、夏季流行は観察されなかった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多く1歳～4歳で全体の67.3%を占めた。

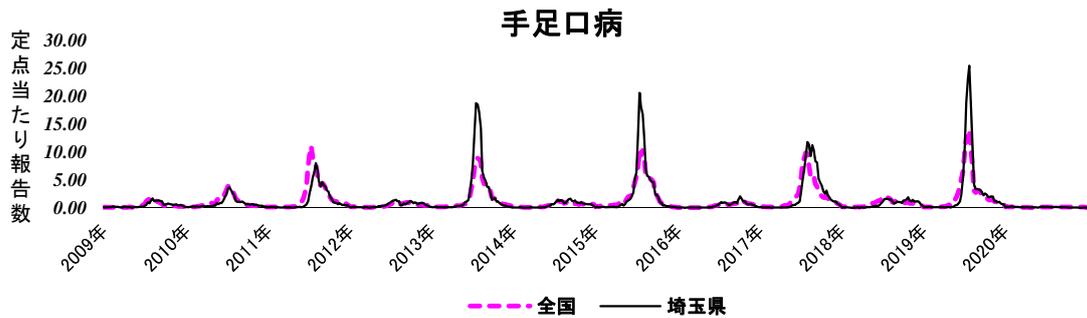


図 12-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：手足口病)

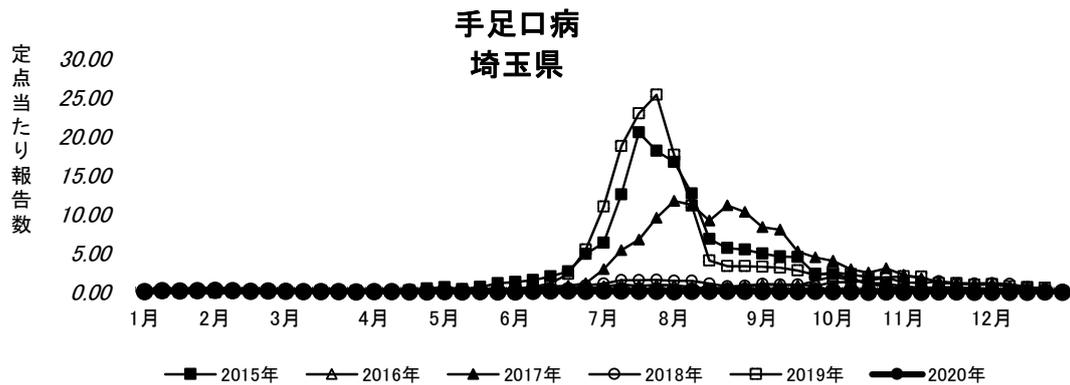


図 12-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：手足口病)

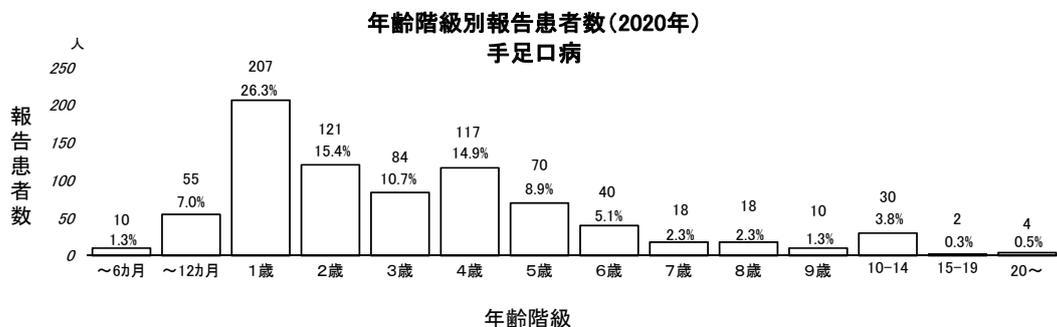


図 12-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：手足口病)

7) 伝染性紅斑

2020年第1週～53週の累積報告患者数は562人であった。定点当たり報告患者総数3.53は前年と比べ大きく減少した。定点当たり報告数の最大値は第4週(1/20～26)の0.34で、2018年5月から始まった流行は同年50週(12/10～16)をピークに2020年3月まで続いた。年齢階級別では全ての階級で報告があり、5歳、4歳、6歳、1歳の順に多かった。

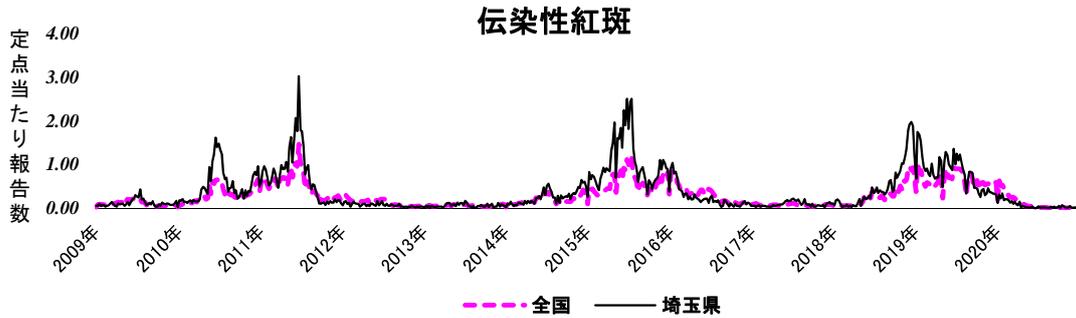


図 13-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：伝染性紅斑)

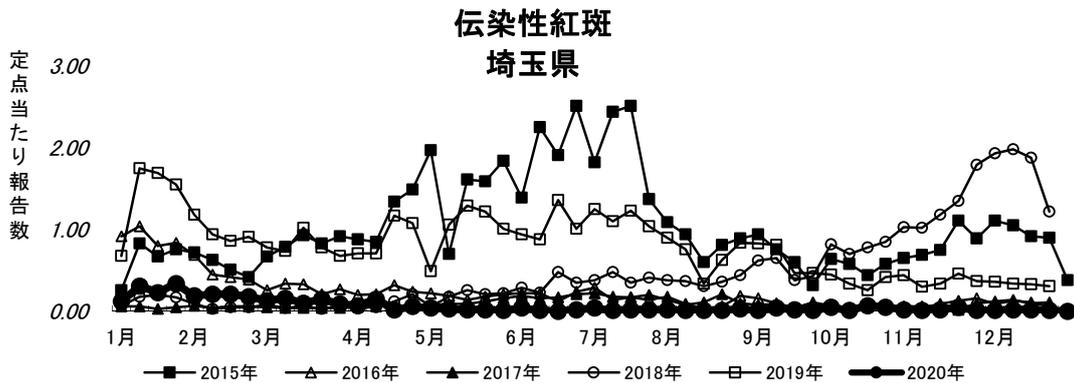


図 13-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：伝染性紅斑)

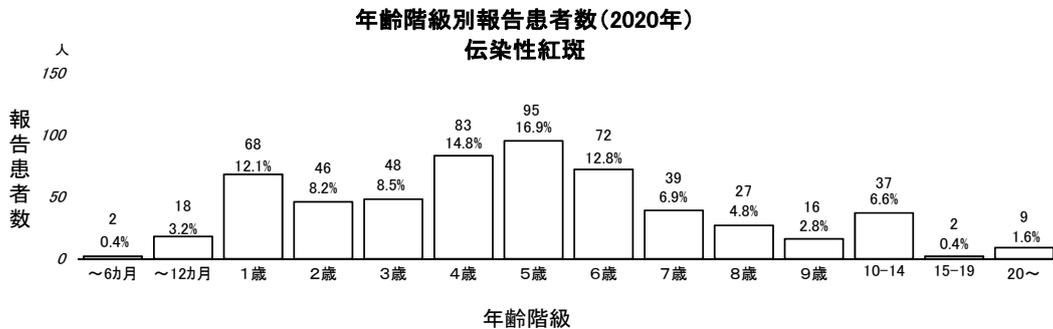


図 13-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：伝染性紅斑)

8) 突発性発しん

2020年第1週～53週の累積報告患者数は3,685人であった。定点当たり報告患者総数23.18は前年と同水準であった。定点あたり報告数は3月から5月までは例年よりやや少ない水準で推移したが、1月から2月、6月以降は例年同様の動向が観察された。定点あたり報告数の最大値は第38週(9/14～9/20)の0.70であった。年齢階級別では、例年同様に1歳が最も多く、2歳未満で全体の81.8%を占めた。

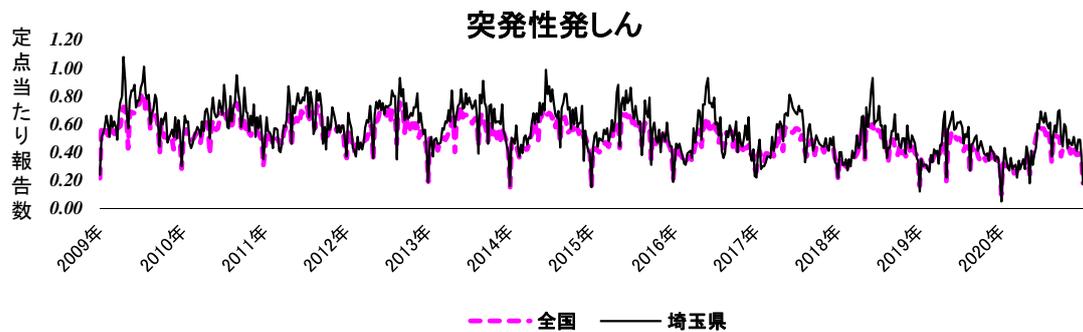


図 14-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：突発性発しん)

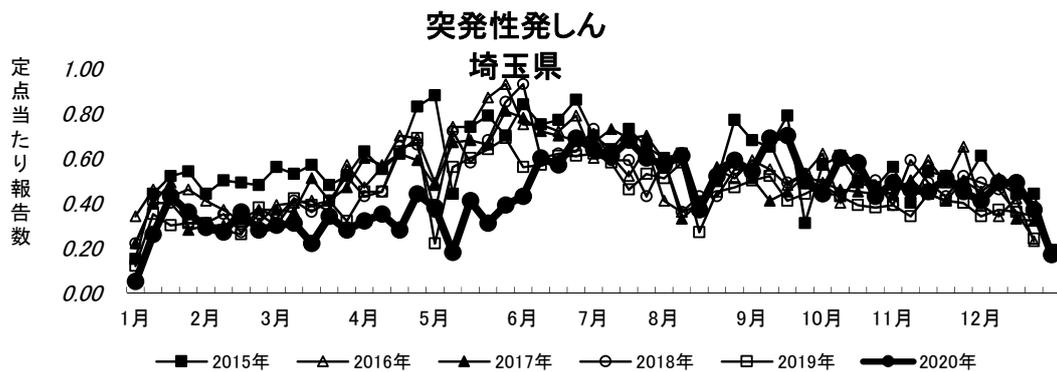


図 14-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：突発性発しん)

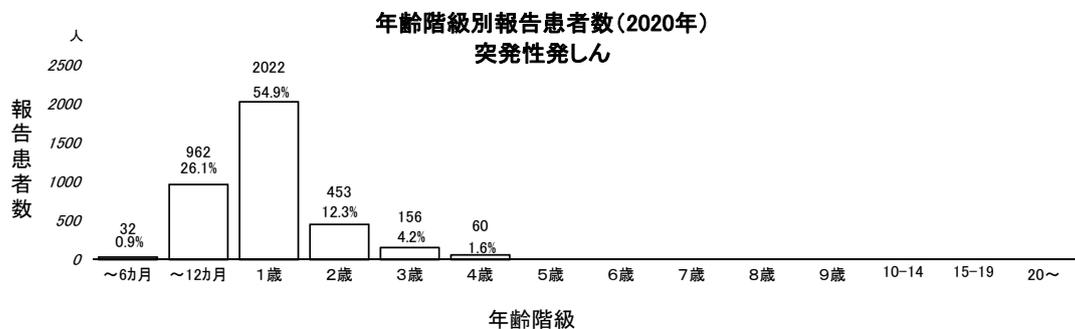


図 14-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：突発性発しん)

9) ヘルパンギーナ

2020年第1週～53週の累積報告患者数は410人であった。定点当たり報告患者総数2.58は前年と比べ大きく減少した。定点当たり報告数の最大値は第36週(8/31～9/6)の0.22で、1.00を上回ることにはなかった。年齢階級別では6ヵ月未満を除く階級で報告があり、1歳が最も多く1歳～3歳で全体の68.8%を占めた。

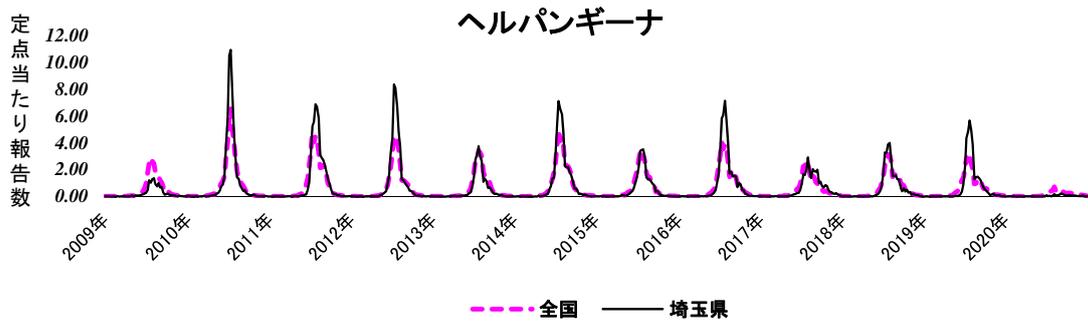


図 15-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：ヘルパンギーナ)

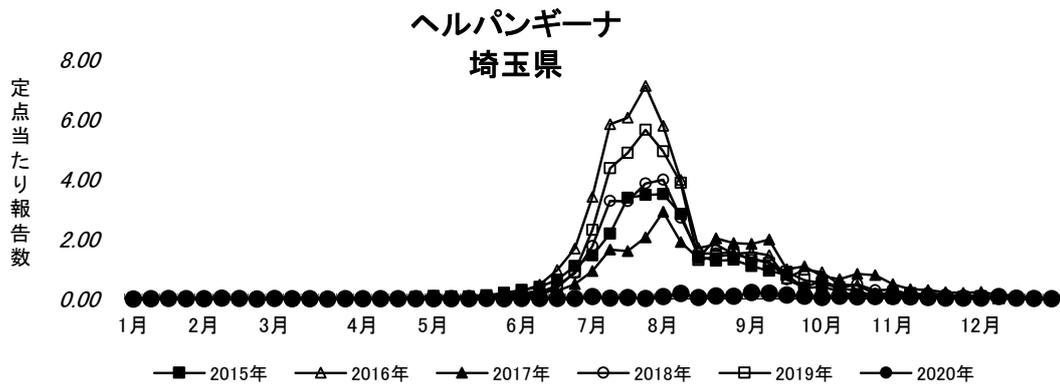


図 15-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：ヘルパンギーナ)

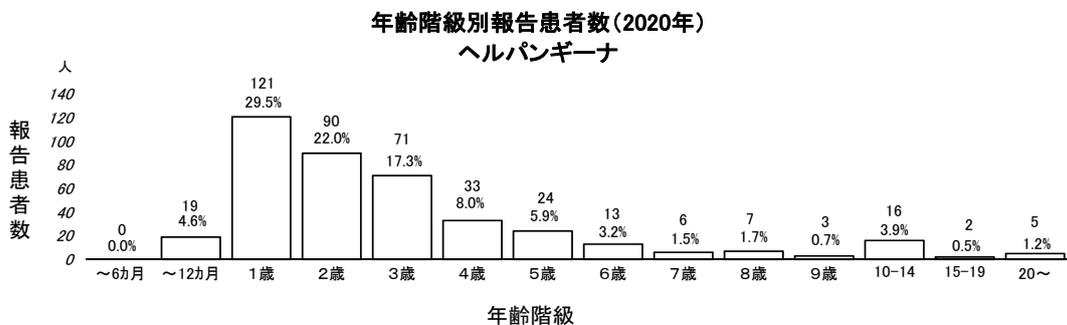


図 15-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：ヘルパンギーナ)

10) 流行性耳下腺炎

2020年第1週～53週の累積報告患者数は571人であった。定点当たり報告患者総数3.59は前年と比べ減少した。定点当たり報告数の最大値は、第37週(9/7～9/13)及び第41週(10/5～11)の0.12で、前年の最大値0.20を下回った。年齢階級別では6ヵ月未満を除く階級で報告があり、5歳が最も多く3歳～7歳で全体の66.2%を占めた。

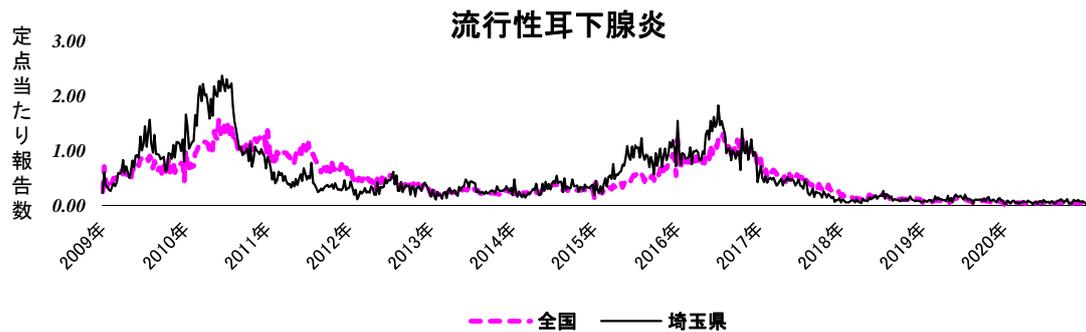


図 16-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：流行性耳下腺炎)

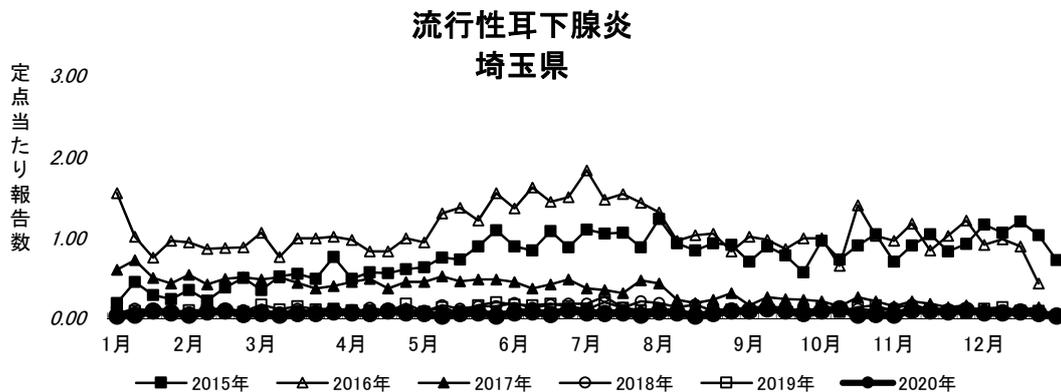


図 16-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：流行性耳下腺炎)

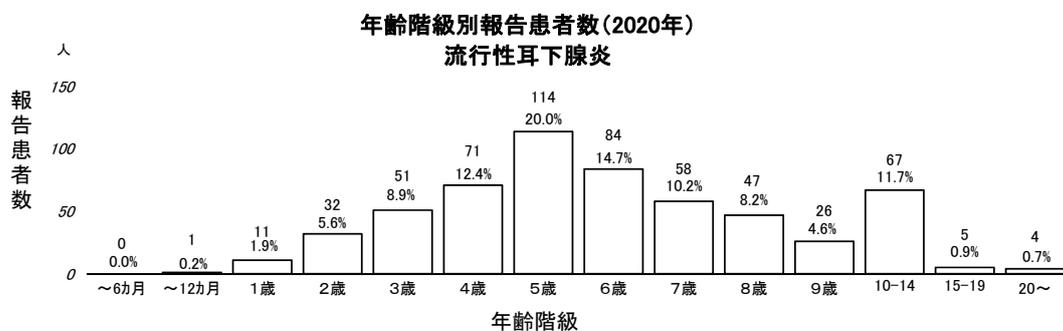


図 16-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：流行性耳下腺炎)

4 眼科定点把握対象疾患の動向

1) 急性出血性結膜炎

2020年第1週～53週の累積報告患者数は39人であった。定点当たり報告患者総数1.00は前年と比べ減少した。報告は年間を通して断続的に観察されたが、53週のうち24週で1人～3人の報告があった。定点当たり報告数の最大値は、第28週(7/6～12)、第34週(8/17～8/23)及び第35週(8/24～30)の0.08であった。年齢階級別では、70歳以上、40歳代、30歳代の順に多かった。

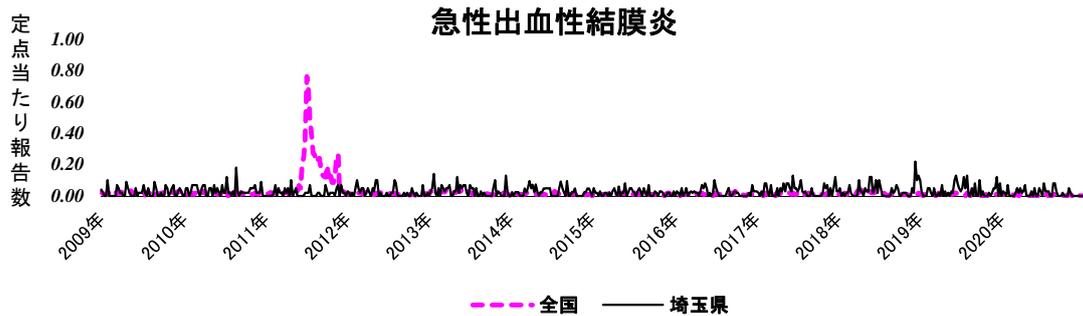


図 17-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：急性出血性結膜炎)

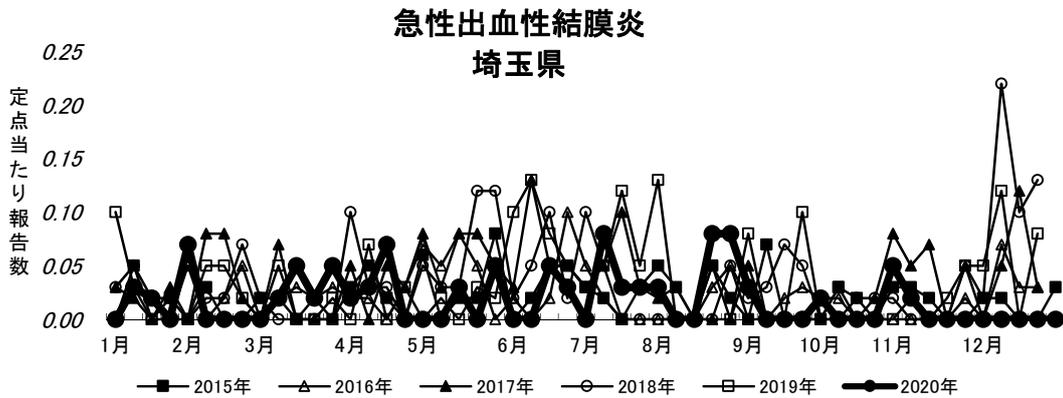


図 17-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：急性出血性結膜炎)

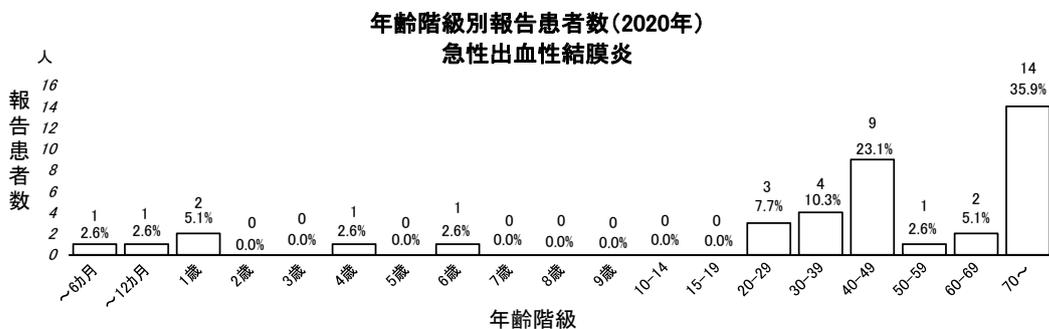


図 17-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：急性出血性結膜炎)

2) 流行性角結膜炎

2020年第1週～53週の累積報告患者数は560人であった。定点当たり報告患者総数14.36は前年と比べ減少した。定点あたり報告数は1月から3月までは例年と同様の水準で推移したが、4月以降は例年より少ない水準で推移した。定点あたり報告数の最大値は、第8週(2/17～23)の0.63であった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、20歳未満は16.4%、20歳以上は83.6%を占めた。報告患者は30歳代、20歳代、40歳代の順に多かった。

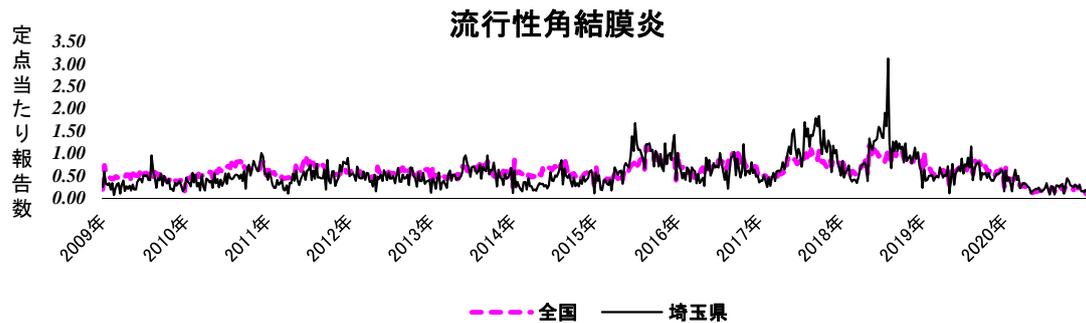


図 18-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：流行性角結膜炎)

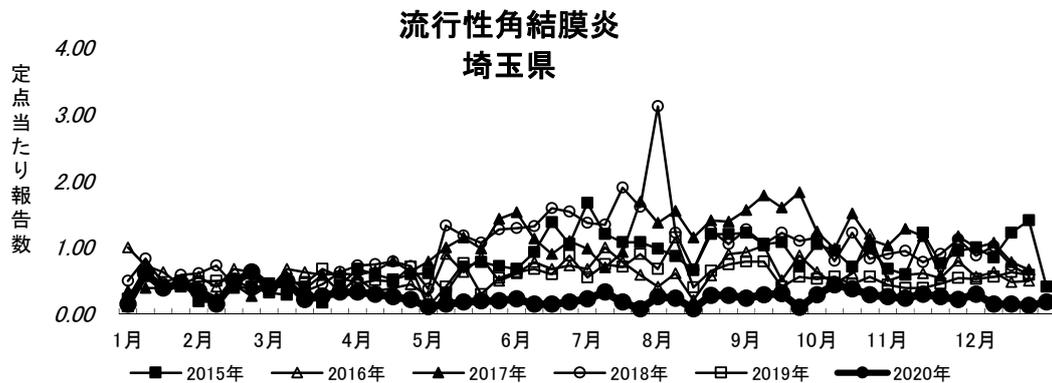


図 18-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：流行性角結膜炎)

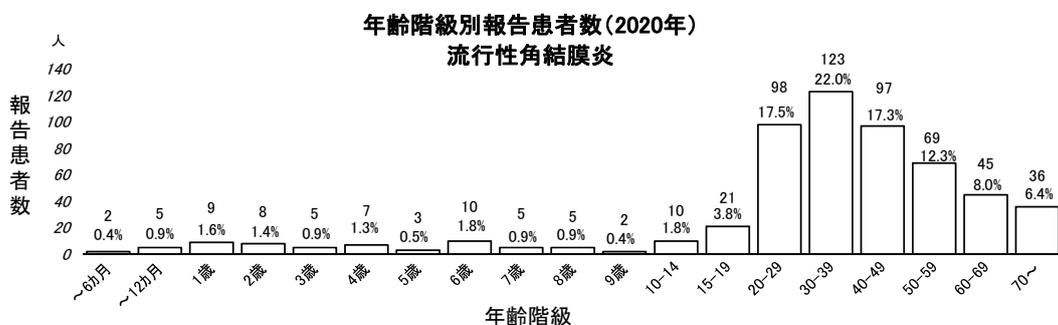


図 18-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：流行性角結膜炎)

5 基幹定点把握対象疾患の動向

1) 細菌性髄膜炎

2020年第1週～53週の累積報告患者数は12人であった。定点当たり報告患者総数1.09は前年と比べ増加した。報告は散発的で、53週のうち11週で1人～2人の報告があり、定点当たり報告数の最大値は0.18であった。患者は35歳以上で、年齢階級別では、35から70歳未満が66.6%、70歳以上が33.3%であった。

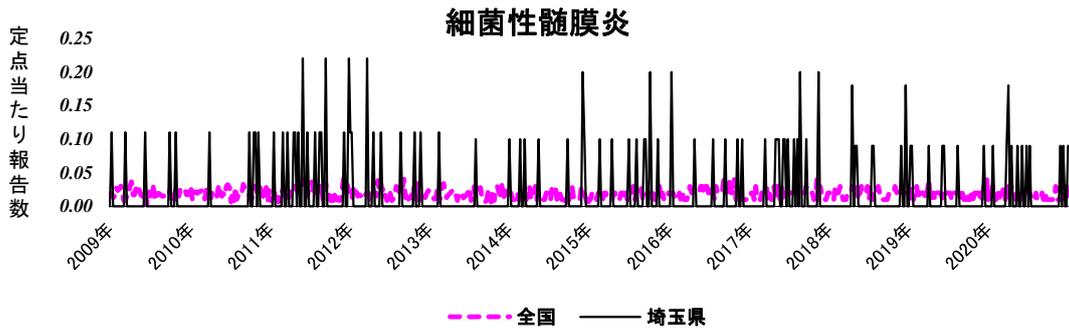


図 19-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：細菌性髄膜炎)

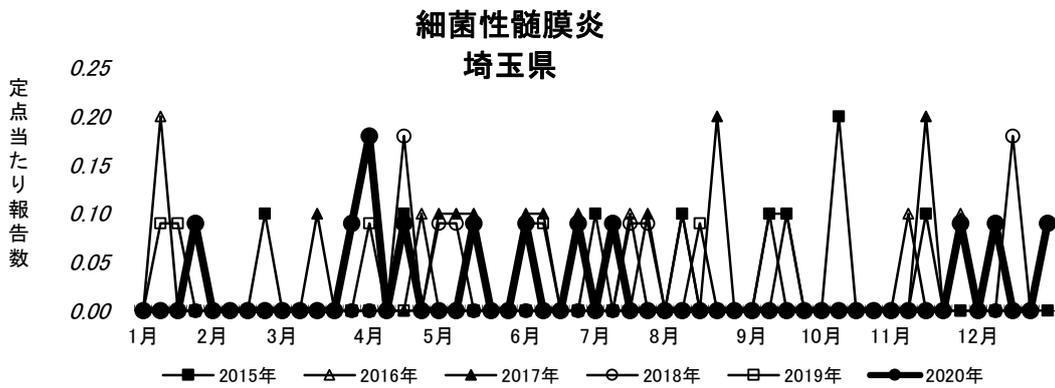


図 19-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：細菌性髄膜炎)

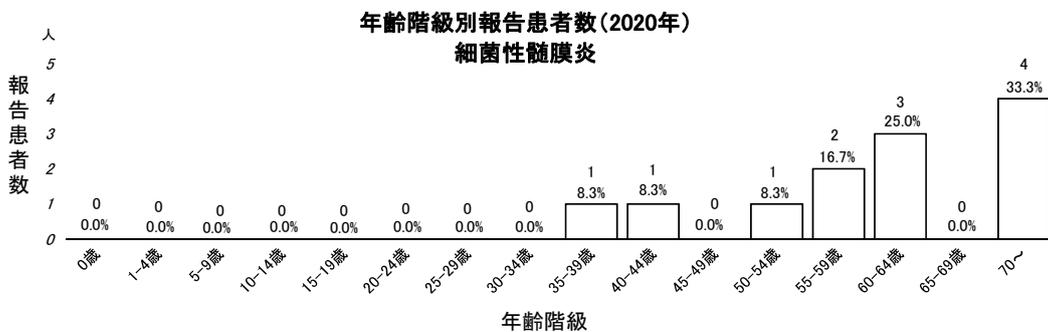


図 19-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：細菌性髄膜炎)

2) 無菌性髄膜炎

2020年第1週～53週の累積報告患者数は22人であった。定点当たり報告患者総数2.00は前年と比べ減少した。報告は年間を通して断続的で、53週のうち17週で1人～2人報告があり、定点当たり報告数の最大値は0.18であった。年齢階級別では、20歳未満が36.4%、20～70歳未満が50.0%、70歳以上が13.6%であった。

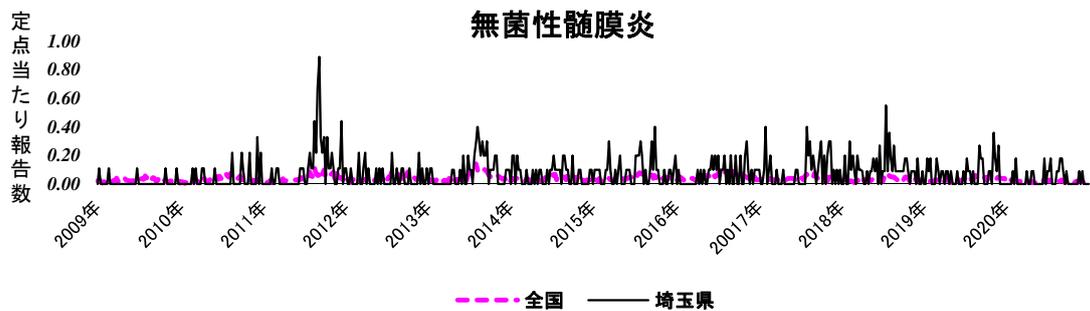


図 20-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：無菌性髄膜炎)

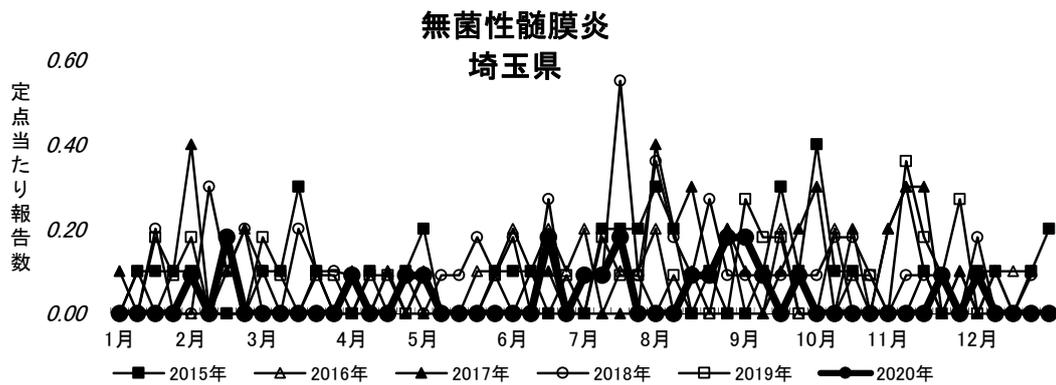


図 20-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：無菌性髄膜炎)

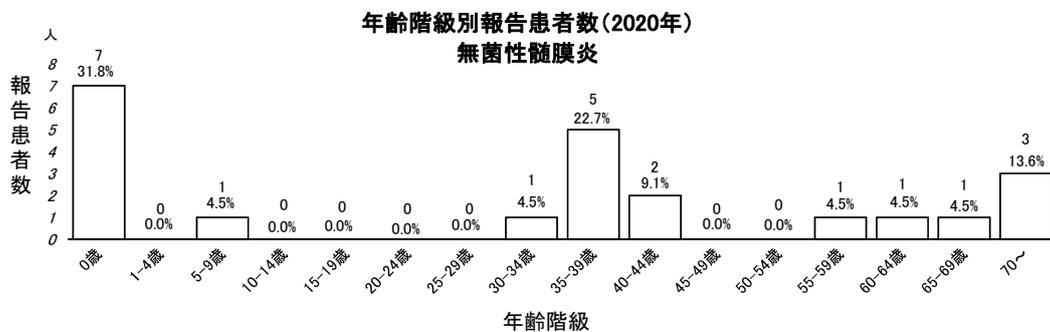


図 20-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：無菌性髄膜炎)

3) マイコプラズマ肺炎

2020年の第1週～53週の累積報告患者数は87人であった。定点当たり報告患者総数7.91は前年と比べ減少した。1月から4月までは、ほぼ継続的に報告はあったが、以後は断続的な報告となった。定点当たり報告数の最大値は、第6週(2/3～9)の0.82で、前年の最大値1.00を下回った。年齢階級別では5-9歳、10-14歳、1-4歳の順で多く、この3階級で全体の69.0%を占めた。

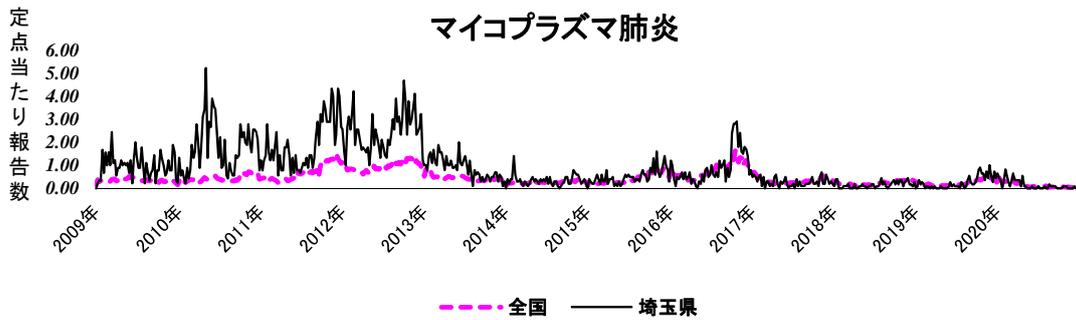


図 21-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：マイコプラズマ肺炎)

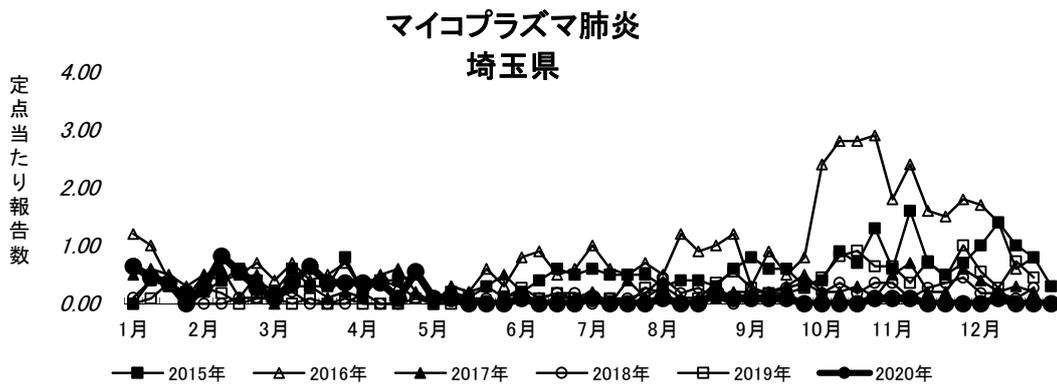


図 21-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：マイコプラズマ肺炎)

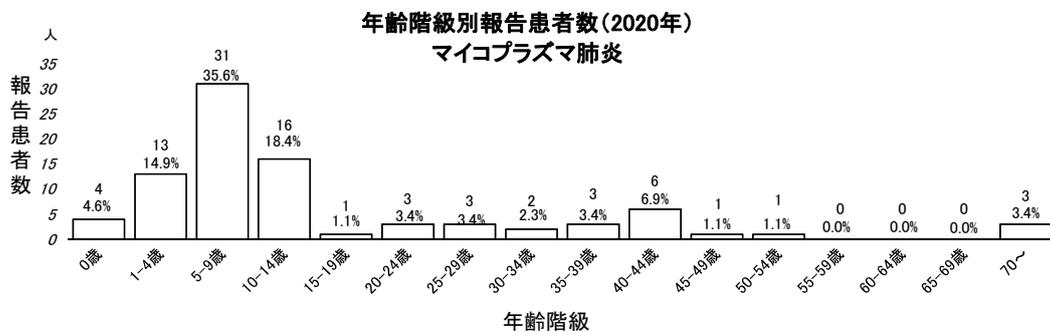


図 21-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：マイコプラズマ肺炎)

4) クラミジア肺炎

2020年第1週～53週の患者の報告はなかった。報告患者数は2018年が4人、2019年が1人と2018年以降は5人未満となっている。

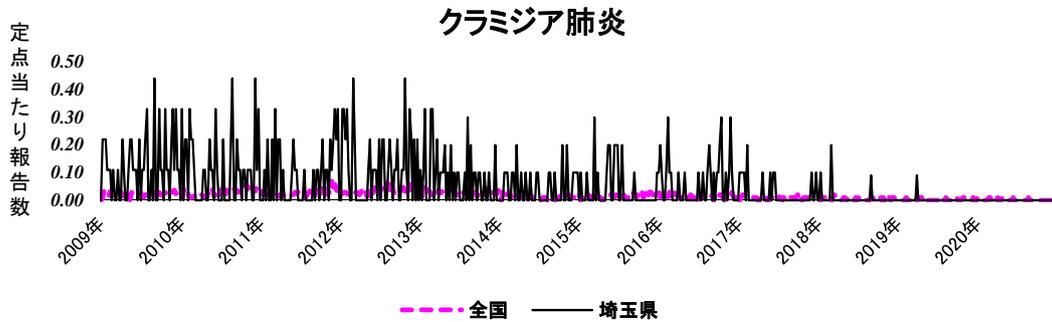


図 22-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：クラミジア肺炎)

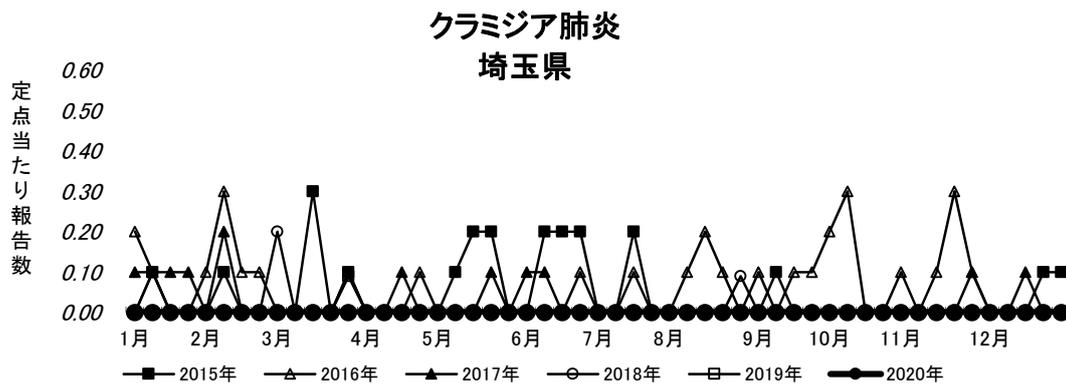


図 22-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：クラミジア肺炎)

5) 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

2020年第1週～53週の患者の報告は、第6週(2/3～9)の0歳児1人のみであった。定点当たり報告患者総数0.09は前年と比べ大きく減少し、例年のような初春から初夏にかけての流行は観察されなかった。

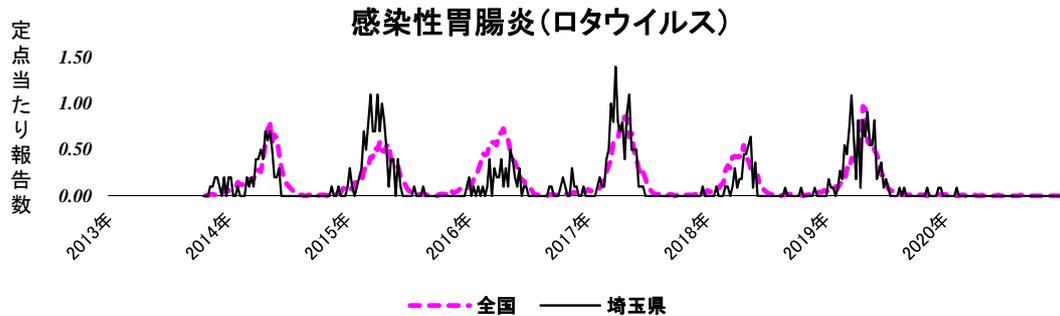


図 23-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：感染性胃腸炎（ロタウイルス））

2013年第42週から報告対象疾患となった。

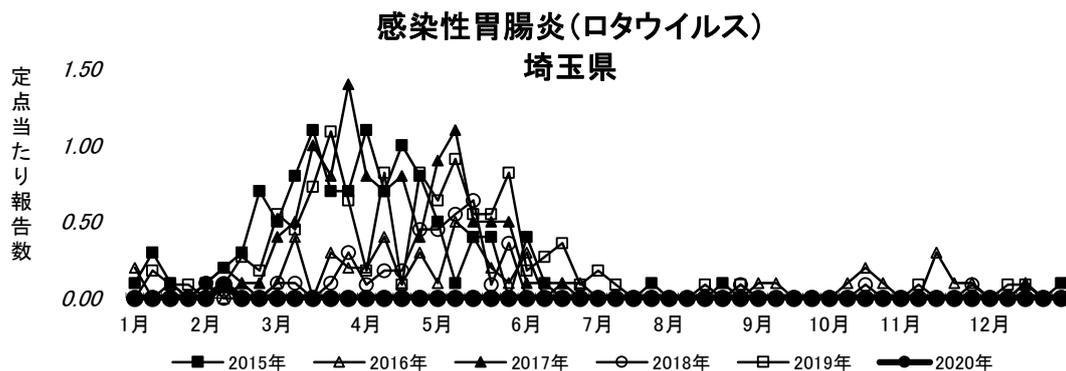


図 23-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：感染性胃腸炎（ロタウイルス））

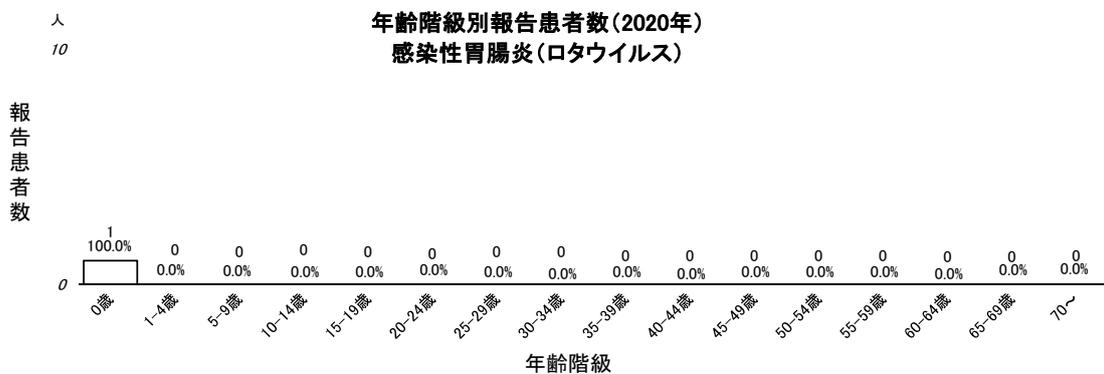


図 23-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：感染性胃腸炎（ロタウイルス））

6) インフルエンザ(入院患者)

2020年第1週～53週の累積報告患者数は131人であった。定点当たり報告患者総数11.91は前年と比べ大きく減少した。報告数は、前年12月から増加し1月まで多い状況が続き、定点当たり報告数の最大値は、第2週(1/6～12)の3.36であった。3月下旬以降、年末まで患者報告はなかった。年齢階級別では、10歳未満が35.1%、70歳以上が38.2%を占めた。

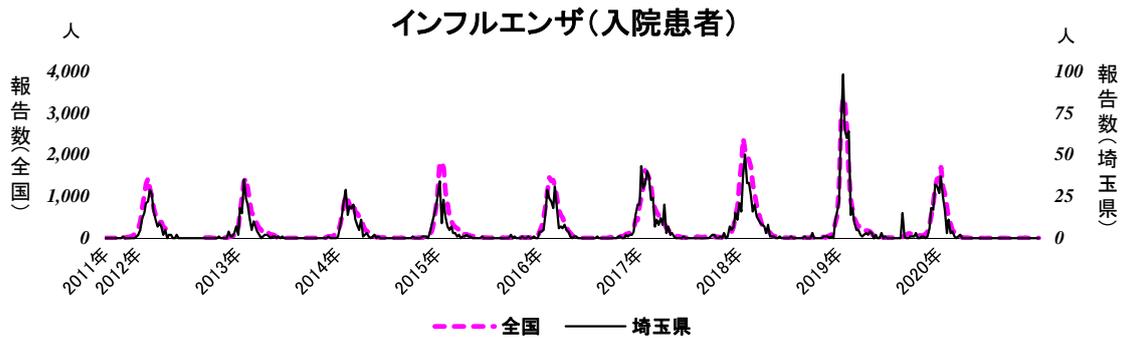


図 24-1 報告患者数の年推移(全国比較：インフルエンザ(入院患者))

2011年第36週から報告対象疾患となった。全国の情報で定点当たり報告数の還元情報がないため、報告患者数を用いた。2012年第17週～35週は全国の情報還元はなかった。

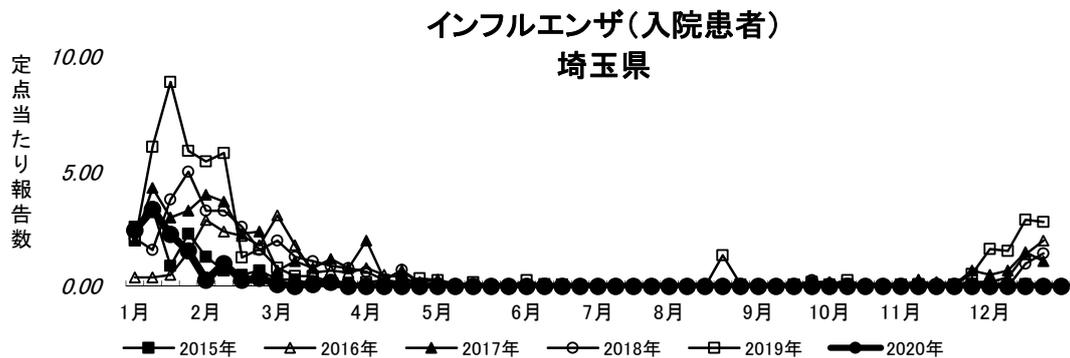


図 24-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：インフルエンザ(入院患者))

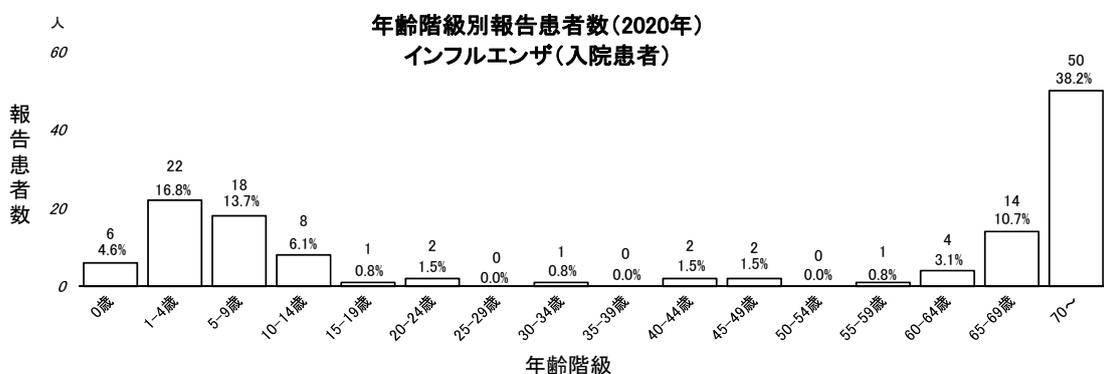


図 24-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：インフルエンザ(入院患者))

7) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2020年1月～12月の累積報告患者数は160人であった。定点当たり報告患者総数14.55は前年と比べ僅かに減少した。年間を通して患者報告はあり、定点当たり報告患者数は最小値0.91、最大値1.82の範囲で推移した。最大値は前年の最大値1.91を下回った。年齢階級別では、70歳以上が113人（男性：69人、女性：44人）で最も多く、全体の70.6%を占めた。

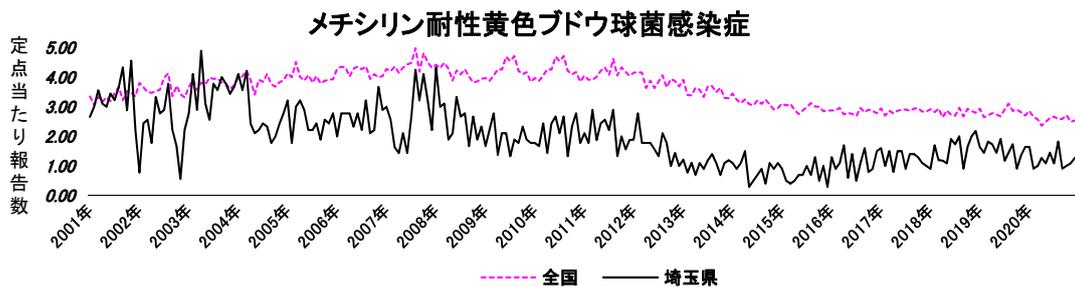


図 25-1 定点当たり報告患者数の年推移
(全国比較：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症)

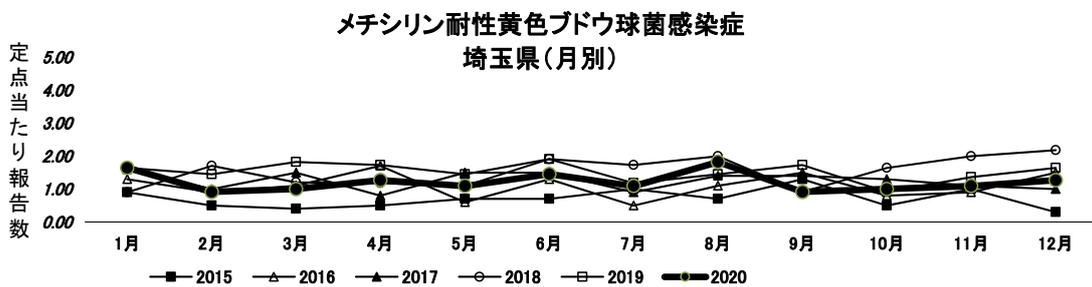


図 25-2 定点当たり報告患者数の推移
(埼玉県：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症)

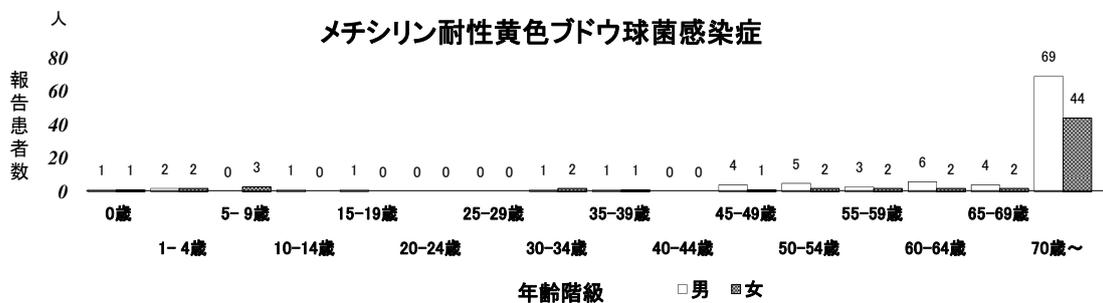


図 25-3 年齢階級別報告患者数
(埼玉県：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症)

8) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2020年1月～12月の累積報告患者数は28人であった。定点当たり報告患者総数2.55は前年と比べ減少した。5月を除いて患者報告はあり、定点当たり報告数は最小値0.00、最大値0.55の範囲で推移した。最大値は前年の最大値0.82を下回った。年齢階級別では、70歳以上が18人（男性：14人、女性：4人）で最も多く、全体の64.3%を占めた。

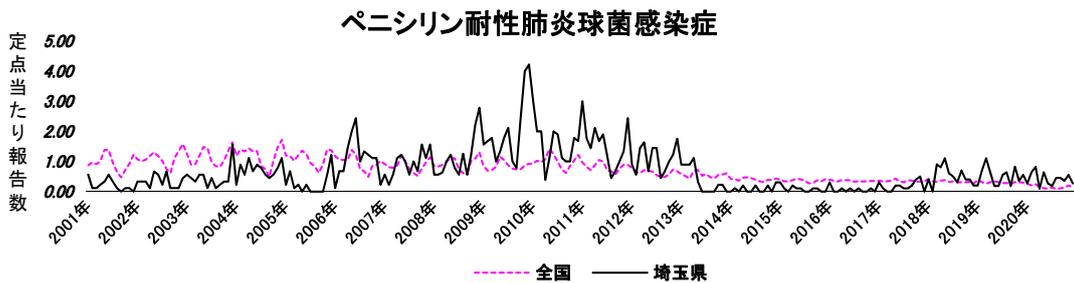


図 26-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症)

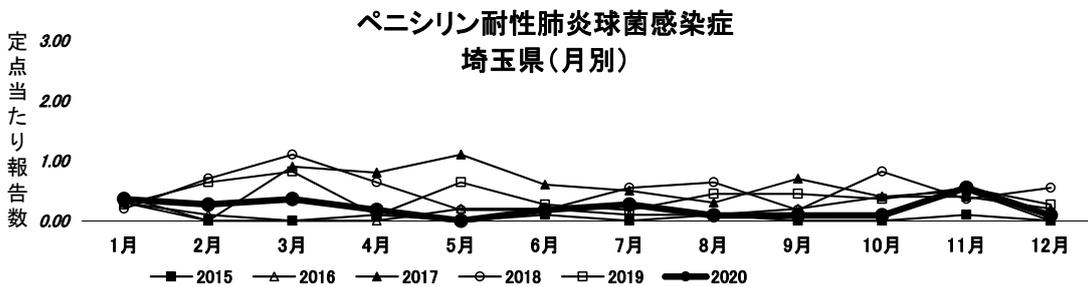


図 26-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症)

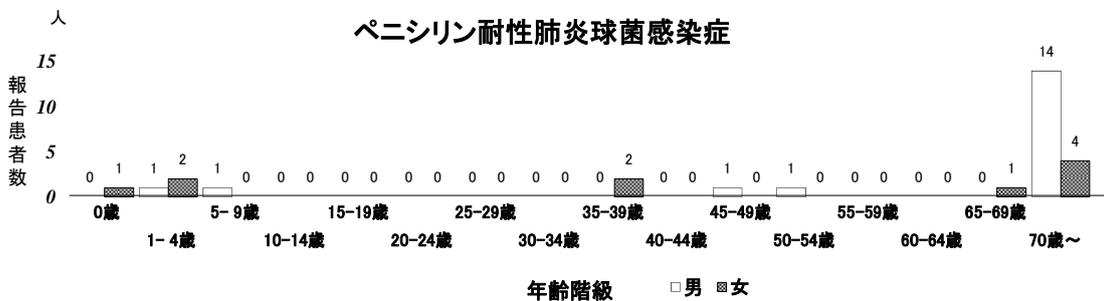


図 26-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症)

9) 薬剤耐性緑膿菌感染症

2020年1月～12月の累積報告患者数は6人であった。定点当たり報告患者総数0.55は前年と同水準であった。報告は2月、7月、8月及び12月に各1人、11月に2人で、定点当たり報告数の最大値0.18は、前年の最大値と同値であった。年齢階級別では、70歳以上が3人（男性：2人、女性：1人）、55-59歳が2人（女性）、60-64歳が1人（男性）であった。

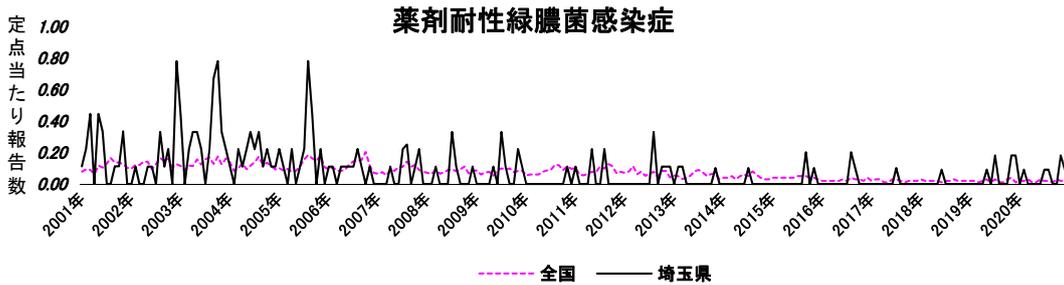


図 27-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：薬剤耐性緑膿菌感染症)

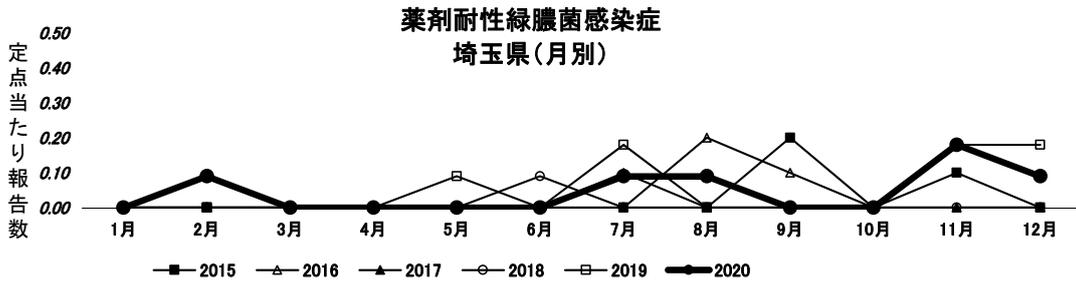


図 27-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：薬剤耐性緑膿菌感染症)

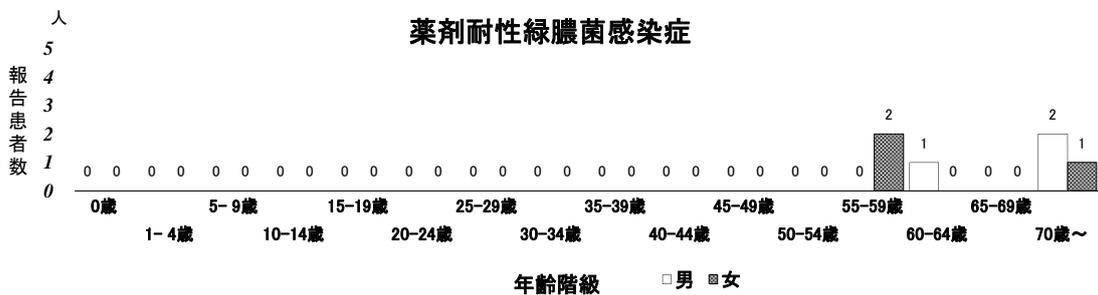


図 27-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：薬剤耐性緑膿菌感染症)

6 性感染症定点把握対象疾患の動向

1) 性器クラミジア感染症

2020年1月～12月の累積報告患者数は1,596人（男性556人、女性1,040人、性比0.53）であった。定点当たり報告患者総数27.19は前年と同水準であった。定点当たり報告数は最小値1.76、最大値2.76の範囲で推移した。報告患者は男性では20歳から39歳が396人（71.2%）、女性では20歳から34歳が810人（77.9%）で、男女共に前年と同様の傾向であった。

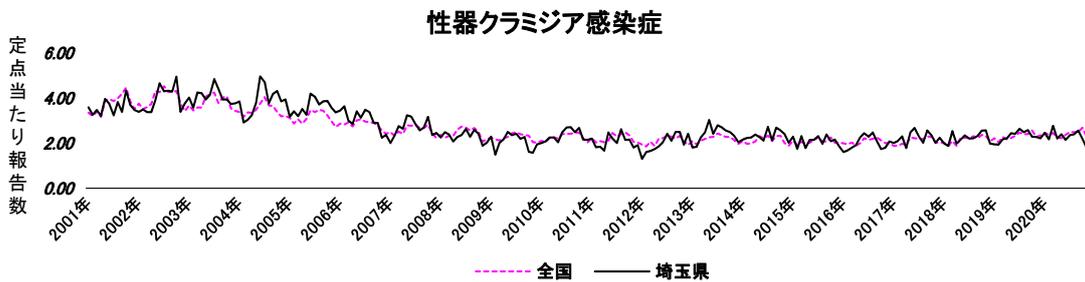


図 28-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：性器クラミジア感染症)

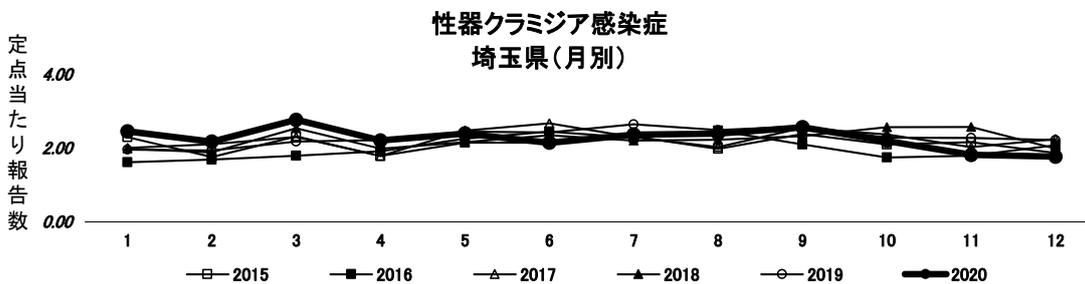


図 28-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：性器クラミジア感染症)

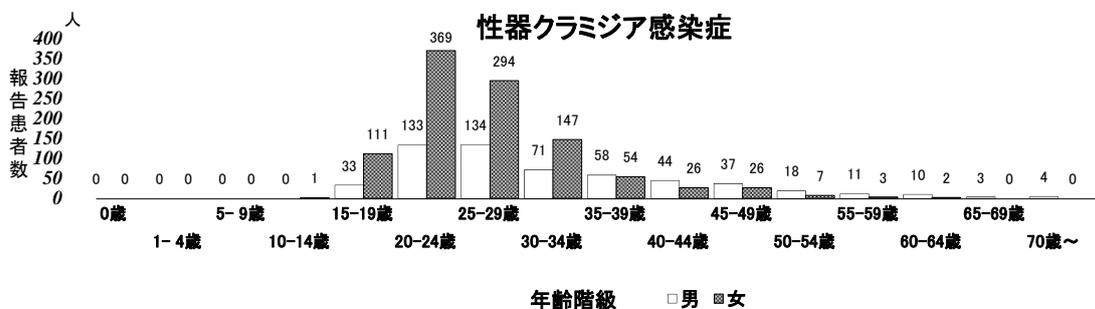


図 28-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：性器クラミジア感染症)

2) 性器ヘルペスウイルス感染症

2020年1月～12月の累積報告患者数は494人(男性101人、女性393人、性比0.26)であった。定点当たり報告患者総数8.42は前年と同水準であった。定点当たり報告患者数は最小値0.44、最大値0.80の範囲で推移した。報告患者は男性では20歳から39歳が62人(61.4%)で、最も報告数が多い年齢階級は30-34歳であった。女性では20歳から49歳が308人(78.4%)で、最も報告数が多い年齢階級は25-29歳であった。

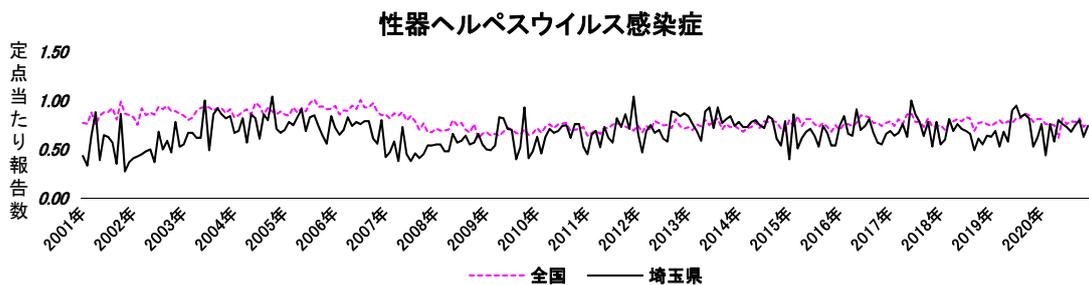


図 29-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：性器ヘルペスウイルス感染症)

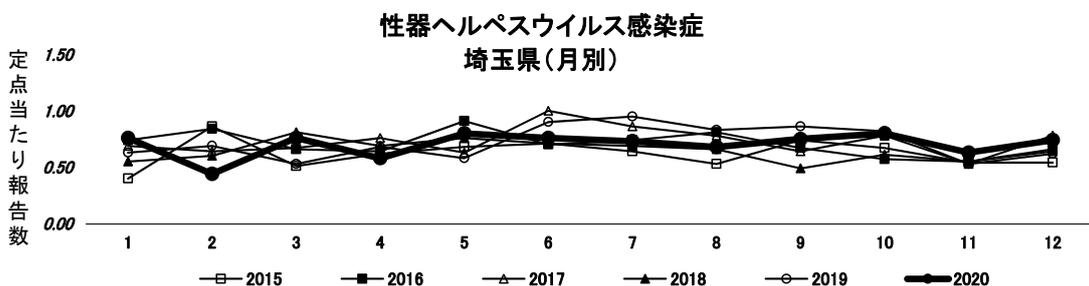


図 29-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：性器ヘルペスウイルス感染症)

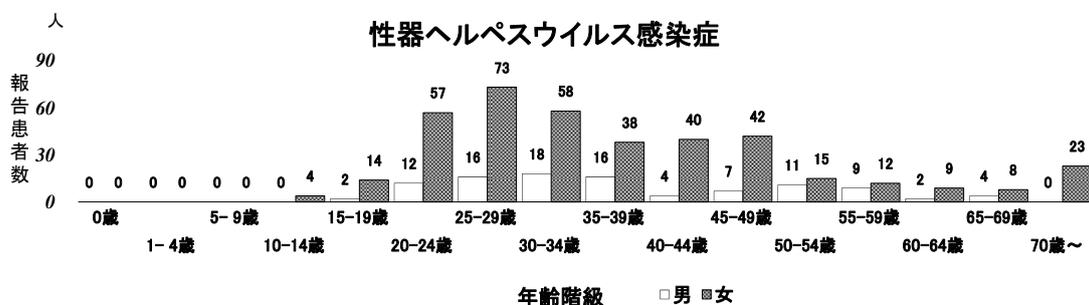


図 29-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：性器ヘルペスウイルス感染症)

3) 尖圭コンジローマ

2020年1月～12月の累積報告患者数は249人(男性107人、女性142人、性比0.75)であった。定点当たり報告患者総数4.24は前年と同水準であった。定点当たり報告患者数は最小値0.17、最大値0.56の範囲で推移した。報告患者は男性では25歳から54歳が76人(71.0%)で、最も報告数が多い年齢階級は25-29歳であった。女性では20歳から39歳が114人(80.3%)で、最も報告数が多い年齢階級は25-29歳であった。

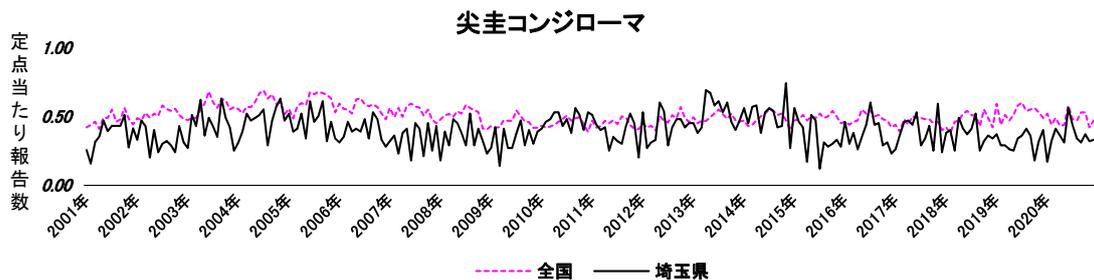


図 30-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：尖圭コンジローマ)

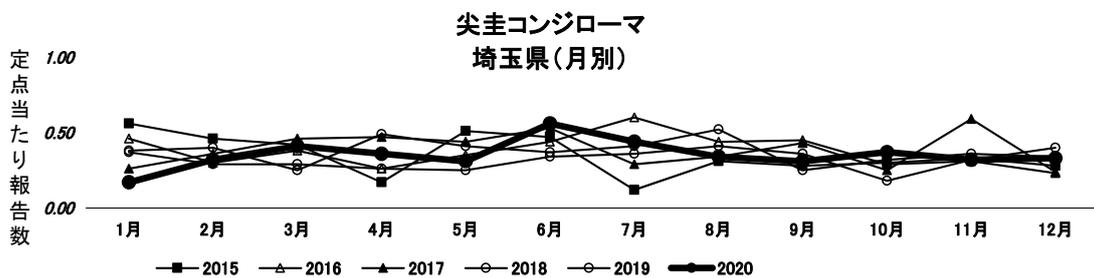


図 30-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：尖圭コンジローマ)

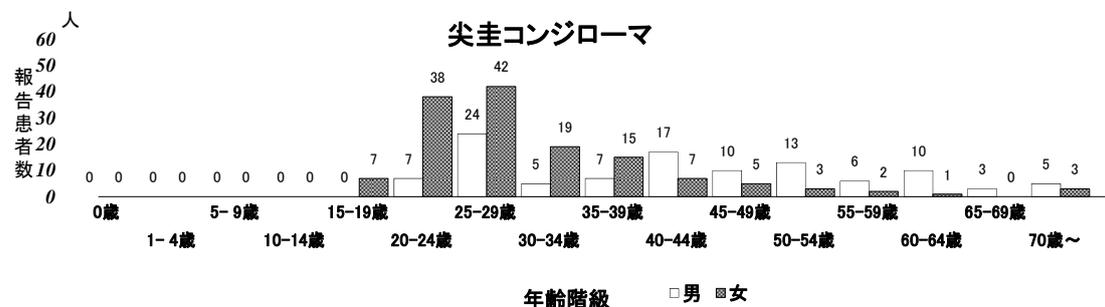


図 30-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：尖圭コンジローマ)

4) 淋菌感染症

2020年1月～12月の累積報告患者数は380人(男性293人、女性87人、性比3.37)であった。定点当たり報告患者総数6.47は前年と同水準であった。定点当たり報告患者数は最小値0.34、最大値0.76の範囲で推移した。男性の報告患者は20歳から44歳が213人(72.7%)で、最も報告数が多い年齢階級は20-24歳であった。女性では20歳から34歳が59人(67.8%)で、最も報告数が多い年齢階級は20-24歳であった。

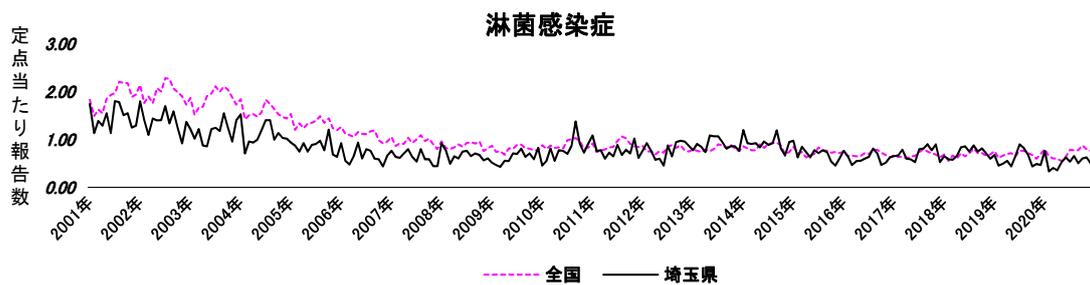


図 31-1 定点当たり報告患者数の年推移(全国比較：淋菌感染症)

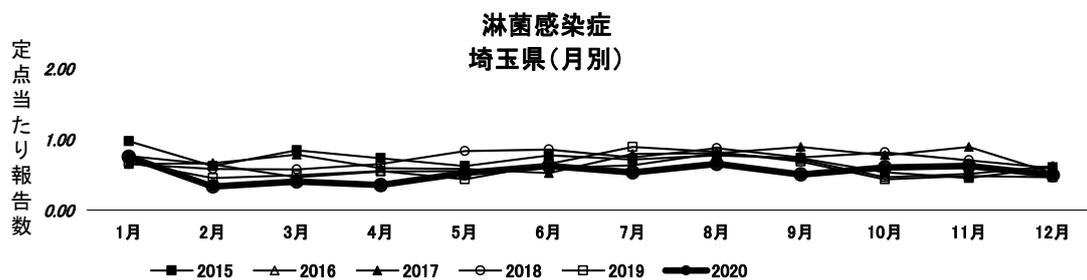


図 31-2 定点当たり報告患者数の推移(埼玉県：淋菌感染症)

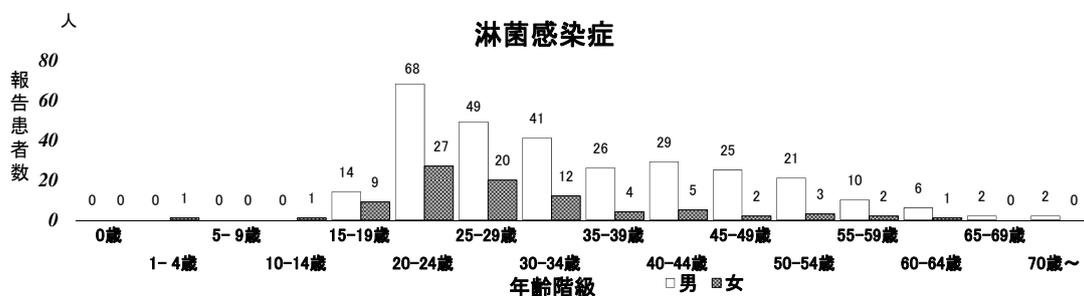


図 31-3 年齢階級別報告患者数(埼玉県：淋菌感染症)

7 定点把握対象疾患の病原体検出情報

1) インフルエンザ

2020年1月から3月までに300検体が採取された。インフルエンザウイルスの検出数は、AH1pdm09が209件、B型72件、AH3亜型が7件、A型亜型未確定が1件であった。インフルエンザウイルス以外のウイルス検出は、ヒトメタニューモウイルス及びコロナウイルスがそれぞれ1件であった(表36)

表36 インフルエンザウイルスの検出状況(2020年)

季節性インフルエンザ		2021年 1月29日 現在													
臨床診断名	採取月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	その他のウイルス
インフルエンザ	検体数	175	97	28										300	ヒトメタニューモ(1)、コロナ(1)
	インフルエンザ AH1pdm09	153	55	1										209	
	インフルエンザ AH3	1	2	4										7	
	インフルエンザ A	1												1	
	インフルエンザ B	16	36	20										72	

2) RSウイルス感染症

8検体が採取され、6件のRSウイルスが検出された。検出されたRSウイルスはすべてRSV-Aであった。RSウイルス以外のウイルス検出は、パラインフルエンザウイルス1型及びライノウイルスがそれぞれ1件であった(表37)。

3) 咽頭結膜熱

10検体が採取された。検出されたアデノウイルスは、アデノウイルス2型が3件、1型及び3型がそれぞれ2件、5型が1件であった(表37)。

表37 五類定点把握対象疾患(インフルエンザを除く)のウイルス検出状況(2020年)

五類定点把握対象疾患(季節性インフルエンザを除く)		2021年 1月29日 現在													
臨床診断名	ウイルス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	その他のウイルス
RSウイルス感染症	検体数	31	31	9	1	5	18	15	14	14	7	18	5	168	パラインフルエンザ 1(1)、ライノ(1)
咽頭結膜熱	検体数	4	1	2					1	1	1			10	
	アデノ 1	1		1										2	
	アデノ 2		1						1	1				3	
	アデノ 3	2												2	
	アデノ 5	1												1	
感染性胃腸炎	検体数	10	7	5				2			3	4	1	32	アデノ 2(2)、アデノ 3(1)、ライノ(3)、サイトメガロ(1)
	ノロ	5	3	1				1				1		11	
	サボ	1												1	
	アデノ 40/41	1	1											2	
手足口病	検体数				1		1	2	1		1	2	1	9	ライノ(1)、アデノ 3(1)
	コクサッキー A6												1	1	
伝染性紅斑	検体数			1										1	
	ヒトパルボ B19														
突発性発しん	検体数	1								1				2	
	ヒトヘルペス 6														
ヘルパンギーナ	検体数			1		1			2	1			1	6	アデノ 2(1)
	コクサッキー A4												1	1	
流行性角結膜炎	検体数	1												1	
	アデノ 56	1												1	
無菌性髄膜炎	検体数	11	20			4	16	11	10	11	2	11	3	99	
	ライノ									1				1	
	単純ヘルペス 2							1						1	
	水痘帯状疱疹						2			1		3		3	
	サイトメガロ		1											4	
	ヒトヘルペス 6								1					1	
	ヒトヘルペス 7					1	2	1	1					4	

4) 感染性胃腸炎

32 検体が採取され、ノロウイルスが 11 件、アデノウイルス 40/41 型が 2 件、サポウイルスが 1 件検出され、ノロウイルスの遺伝子型は G2 が 10 件、G1 が 1 件であった。他のウイルスとしては、ライノウイルスが 3 件、アデノウイルス 2 型が 2 件、アデノウイルス 3 型及びサイトメガロウイルスがそれぞれ 1 件であった。なお、ウイルスが検出された 4 検体で複数のウイルスが重複して検出されていた(表 37)。

この他に細菌では、*Campylobacter jejuni* が 10 月、11 月にそれぞれ 2 株の計 4 株が分離された。

5) 手足口病

9 検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A6 型が 1 件であった。エンテロウイルス以外のウイルス検出は、ライノウイルス及びアデノウイルス 3 型がそれぞれ 1 件であった(表 37)。

6) 伝染性紅斑

1 検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった(表 37)。

7) 突発性発しん

2 検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった(表 37)。

8) ヘルパンギーナ

6 検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A4 型が 1 件であった。エンテロウイルス以外のウイルス検出は、アデノウイルス 2 型が 1 件であった(表 37)。

9) 流行性角結膜炎

1 検体が採取され、アデノウイルス 56 型が検出された(表 37)。

10) 無菌性髄膜炎

44 例 99 検体が採取され、10 例 14 検体から 14 件のウイルスが検出された。検出されたウイルスは、ヒトヘルペスウイルス 7 が 4 例 4 件、サイトメガロウイルスが 3 例 4 件、水痘帯状疱疹しんウイルスが 1 例 3 件、ライノウイルス、単純ヘルペスウイルス 2 型及びヒトヘルペスウイルス 6 がそれぞれ 1 件であった(表 37)。

Ⅲ 感染症法第7条第1項に規定する政令で定める指定感染症

2020年2月1日から指定感染症に定められた新型コロナウイルス感染症の埼玉県及び全国の届出数を表38に示した。埼玉県に届出のあった新型コロナウイルス感染症は、14,680人であった(表38)。

表38 指定感染症の届出数(2020年)

疾患名	埼玉県*	全国**
新型コロナウイルス感染症	14,680	233,785

* 2021年4月26日集計

** 厚生労働省HP(<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>)より

1 新型コロナウイルス感染症の患者情報

男性7,964人、女性6,716人の計14,680人の届出があった。症例の年齢は0歳から100歳代に分布した。年齢階級別では、20歳代、40歳代、50歳代、30歳代の順に多く、20歳代から50歳代が9,867人で全体の67.2%を占めた。性別では、男性7,964人、女性6,716人で、男性が54.3%を占めた。類型別では、患者12,431人、無症状病原体保有者2,249人で、患者が全体の84.7%を占めた(表39)。患者12,431人の月別の発生状況は2月に確認されて以降、3月から4月に第1波、7月から8月に第2波が観察された。その後、11月から患者数は急増し、第2波を大きく超える第3波が観察された(図32)。

表39 新型コロナウイルス感染症 年齢階級別届出数(2020年)

年齢階級	症例数	性別		類型	
		男性	女性	患者	無症状病原体保有者
10歳未満	387	201	186	207	180
10歳代	1,056	545	511	796	260
20歳代	3,348	1,650	1,698	2,972	376
30歳代	2,124	1,304	820	1,863	261
40歳代	2,231	1,312	919	1,960	271
50歳代	2,164	1,207	957	1,887	277
60歳代	1,296	775	521	1,110	186
70歳代	1,160	632	528	949	211
80歳代	679	293	386	510	169
90歳以上	235	45	190	177	58
合計	14,680	7,964	6,716	12,431	2,249
割合	100.0%	54.3%	45.7%	84.7%	15.3%

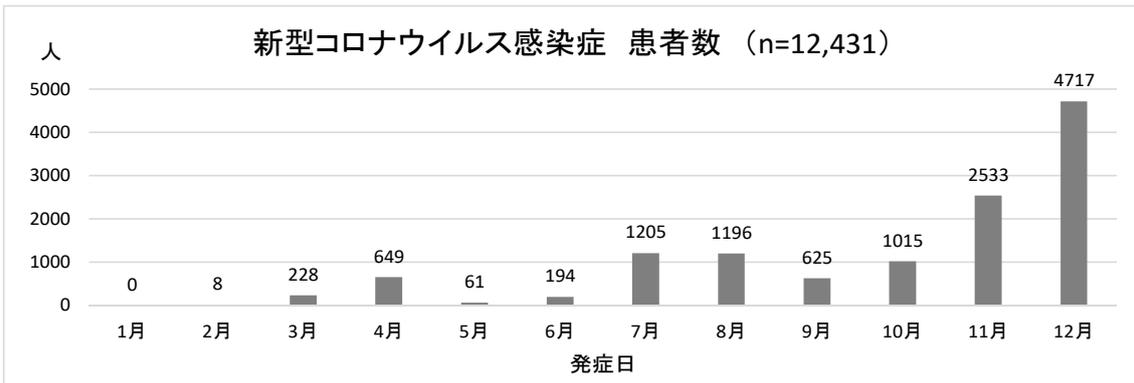


図 32 新型コロナウイルス感染症 月別患者数(2020年)

2 新型コロナウイルス感染症の病原体検出状況

47147例 48313検体が採取され、3957例 4082件の新型コロナウイルスが検出された(一部陰性確認を含む)。検体の採取が始まったのは2月で、月別の検体数は12月の9550件が最も多かった。また、月別の陽性率は4月の16.9%が最も高かった。新型コロナウイルスが不検出だった検体のうち、432例 571検体についてその他の呼吸器系ウイルス検査を実施したところ、ヒトメタニューモウイルスが42例 55件、コロナウイルスが37例 45件、ライノウイルスが10例 13件、RSウイルスが6例 7件、ボカウイルスが4例 4件、パラインフルエンザウイルス4型が2例 2件、型別できなかったアデノウイルスが5例 6件検出された。このうち6検体で複数のウイルスが重複して検出された(2021年1月29日現在)(表40)。

表 40 新型コロナウイルス感染症のウイルス検出状況(2020年)

臨床診断名	ウイルス	2021年1月29日 現在												累計	その他のウイルス
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
新型コロナウイルス感染症	検体数		248	1463	4052	3284	1699	5401	6398	3835	4422	7961	9550	48313	コロナ(45)、ヒトメタニューモ(55)、RSウイルス(7)、ライノ(13)、パラインフルエンザウイルス4(2)、ボカウイルス(4)、アデノ(6)
	新型コロナ		2	122	684	166	78	427	514	198	342	584	965	4082	

IV 感染症法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症(定点把握対象)

2020年埼玉県における発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状または神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したものの届出はなかった。

V 獣医師が届出を行う感染症と対象動物

獣医師が届出を行う感染症の届出は、埼玉県にはなかった(表41)。

表41 獣医師が届出を行う感染症 対象動物(2020年)

疾患名	埼玉県	全国*
エボラ出血熱(サル)	-	-
マールブルグ病(サル)	-	-
ペスト(プレーリードッグ)	-	-
重症急性呼吸器症候群(イタチアナグマ)	-	-
重症急性呼吸器症候群(タヌキ)	-	-
重症急性呼吸器症候群(ハクビシン)	-	-
結核(サル)	-	-
鳥インフルエンザ(H5N1又はH7N9)(鳥類)	-	-
細菌性赤痢(サル)	-	6
ウエストナイル熱(鳥類)	-	-
エキノコックス症(犬)	-	3
中東呼吸器症候群(ヒトコブラクダ)	-	-

*全国は診断週(第1週~第53週)の集計値 (-:0)

資 料

1 感染症発生動向調査事業報告患者数

1) 全数把握対象疾患

別表 1-1 全数把握対象疾患：一類・二類感染症の届出数 (2020年)

疾患名		埼玉県	全国*
一類	エボラ出血熱	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-
	痘そう	-	-
	南米出血熱	-	-
	ペスト	-	-
	マールブルグ病	-	-
	ラッサ熱	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-
	結核	891	17,786
	ジフテリア	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-
	中東呼吸器症候群	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-

*全国は診断週(第1週～第53週)の集計値 (-:0)

別表 1-2 全数把握対象疾患：三類感染症の届出数 (2020年)

疾患名		埼玉県	全国*
三類	コレラ	-	1
	細菌性赤痢	6	87
	腸管出血性大腸菌感染症	95	3,094
	腸チフス	1	21
	パラチフス	-	7

*全国は診断週(第1週～第53週)の集計値 (-:0)

別表 1-3 全数把握対象疾患：四類感染症の届出数（2020年）

疾患名		埼玉県	全国*
四類	E型肝炎	28	454
	ウエストナイル熱	-	-
	A型肝炎	4	120
	エキノコックス症	-	24
	黄熱	-	-
	オウム病	1	7
	オムスク出血熱	-	-
	回帰熱	-	15
	キャサヌル森林病	-	-
	Q熱	-	-
	狂犬病	-	1
	コクシジオイデス症	-	6
	サル痘	-	-
	ジカウイルス感染症	1	1
	重症熱性血小板減少症候群	-	78
	腎症候性出血熱	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-
	炭疽	-	-
	チクングニア熱	-	3
	つつが虫病	2	538
	デング熱	2	45
	東部ウマ脳炎	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-
	日本紅斑熱	-	422
	日本脳炎	-	5
	ハンタウイルス肺症候群	-	-
	Bウイルス病	-	-
	鼻疽	-	-
	ブルセラ症	-	2
	ベネズエラウマ脳炎	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-
	発しんチフス	-	-
	ポツリヌス症	-	4
	マラリア	-	21
	野兔病	-	-
	ライム病	-	27
	リッサウイルス感染症	-	-
	リフトバレー熱	-	-
類鼻疽	-	1	
レジオネラ症	107	2,059	
レプトスピラ症	-	17	
ロッキー山紅斑熱	-	-	

*全国は診断週(第1週～第53週)の集計値

(-:0)

別表 1-4 全数把握対象疾患：五類感染症の届出数（2020年）

疾患名		埼玉県	全国*
五類	アメーバ赤痢	31	611
	ウイルス性肝炎（E型・A型を除く）	6	246
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	81	1,956
	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）	2	34
	急性脳炎	23	491
	クリプトスポリジウム症	-	6
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	157
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	30	718
	後天性免疫不全症候群	29	1,094
	ジアルジア症	-	28
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	12	253
	侵襲性髄膜炎菌感染症	2	14
	侵襲性肺炎球菌感染症	63	1,655
	水痘（入院例）	13	362
	先天性風しん症候群	-	1
	梅毒	168	5,867
	播種性クリプトコックス症	10	152
	破傷風	5	104
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	136
百日咳	106	2,819	
風しん	3	101	
麻しん	-	10	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	10	

*全国は診断週（第1週～第53週）の集計値（-0）

別表 1-5 全数把握対象疾患：獣医師が届出を行う感染症の届出数（2020年）

疾患名	埼玉県	全国*
エボラ出血熱（サル）	-	-
マールブルグ病（サル）	-	-
ペスト（プレーリードッグ）	-	-
重症急性呼吸器症候群（イタチアナグマ）	-	-
重症急性呼吸器症候群（タヌキ）	-	-
重症急性呼吸器症候群（ハクビシン）	-	-
結核（サル）	-	-
鳥インフルエンザ（H5N1又はH7N9）（鳥類）	-	-
細菌性赤痢（サル）	-	6
ウエストナイル熱（鳥類）	-	-
エキノコックス症（犬）	-	3
中東呼吸器症候群（ヒトコブラクダ）	-	-

*全国は診断週（第1週～第53週）の集計値（-0）

2) 定点把握対象疾患（週単位報告）

別表 2-1 内科定点及び小児科定点把握対象疾患：報告患者数（2020年）

年・週	月／日（週開始日）	インフルエンザ	R S ウイルス感染症	咽頭結膜熱	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
20・1	12/30	2,761	30	36	133	217	65	13	16	7	-	4
20・2	01/06	4,919	51	99	435	1,090	179	31	50	42	1	7
20・3	01/13	4,427	49	86	433	1,200	77	26	37	69	3	15
20・4	01/20	4,335	53	78	571	1,416	97	36	55	59	2	11
20・5	01/27	3,805	49	83	622	1,393	71	39	30	47	2	7
20・6	02/03	2,426	56	67	643	1,388	81	30	34	43	5	13
20・7	02/10	2,113	29	62	606	1,241	94	23	35	58	3	15
20・8	02/17	1,785	51	50	665	1,184	75	24	29	45	-	8
20・9	02/24	1,246	46	62	569	776	85	19	21	49	3	10
20・10	03/02	903	42	62	501	669	105	13	26	50	1	7
20・11	03/09	365	21	55	410	571	106	15	16	35	1	10
20・12	03/16	108	18	45	229	370	68	16	24	54	-	10
20・13	03/23	62	11	37	218	400	57	6	15	45	1	13
20・14	03/30	38	8	28	184	344	35	14	11	51	1	11
20・15	04/06	12	8	23	172	257	31	11	24	56	2	10
20・16	04/13	4	5	14	111	192	32	8	3	45	1	15
20・17	04/20	-	3	14	77	171	18	5	9	71	2	11
20・18	04/27	1	1	4	69	151	12	11	6	56	1	9
20・19	05/04	-	1	4	46	121	13	7	5	29	2	4
20・20	05/11	-	2	8	53	168	14	15	3	66	2	9
20・21	05/18	-	-	7	41	167	9	10	3	51	3	11
20・22	05/25	-	-	7	59	198	9	7	2	63	2	5
20・23	06/01	-	-	9	70	216	12	22	6	70	4	11
20・24	06/08	1	-	5	58	286	30	28	2	97	4	13
20・25	06/15	-	-	6	66	344	11	26	-	93	4	8
20・26	06/22	-	-	6	115	432	4	20	4	112	4	16
20・27	06/29	3	2	7	177	518	20	25	7	103	14	12
20・28	07/06	-	2	7	160	506	18	29	1	98	6	9
20・29	07/13	-	2	17	138	502	20	17	3	108	9	11
20・30	07/20	-	3	10	81	333	20	18	3	97	4	7
20・31	07/27	1	-	9	99	371	27	14	3	91	14	12
20・32	08/03	-	1	10	55	284	35	20	2	94	29	10
20・33	08/10	-	-	20	33	175	29	19	2	52	8	4
20・34	08/17	-	-	15	50	288	33	20	1	82	18	10
20・35	08/24	-	-	28	65	402	16	18	5	95	16	14
20・36	08/31	-	-	44	93	413	14	12	2	87	36	14
20・37	09/07	-	3	34	63	403	25	14	7	111	33	19
20・38	09/14	-	-	37	61	359	24	15	3	105	21	14
20・39	09/21	-	-	20	56	303	16	18	2	80	16	10
20・40	09/28	-	-	28	113	350	24	14	8	72	9	14
20・41	10/05	-	2	17	126	379	17	10	1	98	17	19
20・42	10/12	-	-	17	127	371	17	4	11	94	13	6
20・43	10/19	-	-	21	101	391	31	6	8	69	15	8
20・44	10/26	1	1	25	147	381	26	4	3	79	14	7
20・45	11/02	-	-	27	113	371	29	3	2	75	13	17
20・46	11/09	-	-	29	107	394	43	9	3	73	10	15
20・47	11/16	5	-	53	101	372	40	5	7	78	5	12
20・48	11/23	-	-	42	79	384	53	2	1	74	6	16
20・49	11/30	2	2	55	123	405	35	1	2	65	6	11
20・50	12/07	-	2	56	132	399	42	3	4	79	14	11
20・51	12/14	1	2	44	112	375	41	3	4	79	6	13
20・52	12/21	1	2	48	112	365	37	7	1	59	3	9
20・53	12/28	2	1	19	37	129	21	1	-	25	1	4
2020年	計	29,327	559	1,696	9,817	24,885	2,143	786	562	3,685	410	571
2019年	計	120,490	5,914	4,104	22,258	50,700	4,319	25,922	6,752	3,665	6,133	952
2020年/2019年比		0.2	0.1	0.4	0.4	0.5	0.5	0.0	0.1	1.0	0.1	0.6

別表 2-2 眼科定点及び基幹定点把握対象疾患：報告患者数（2020年）

年・週	月／日 （週開始日～）	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 （ロタウイルス）	インフルエンザ （入院患者）
20・1	12/30	-	5	-	-	7	-	-	27
20・2	01/06	1	23	-	-	5	-	-	37
20・3	01/13	1	16	-	-	4	-	-	25
20・4	01/20	-	19	1	-	-	-	-	17
20・5	01/27	3	14	-	1	3	-	-	3
20・6	02/03	-	6	-	-	9	-	1	11
20・7	02/10	-	20	-	2	6	-	-	3
20・8	02/17	-	26	-	-	3	-	-	4
20・9	02/24	-	17	-	-	1	-	-	1
20・10	03/02	1	20	-	-	4	-	-	-
20・11	03/09	2	9	-	-	7	-	-	1
20・12	03/16	1	11	-	-	4	-	-	2
20・13	03/23	2	13	1	-	4	-	-	-
20・14	03/30	1	14	2	1	4	-	-	-
20・15	04/06	1	12	-	-	4	-	-	-
20・16	04/13	3	11	1	-	1	-	-	-
20・17	04/20	-	9	-	1	6	-	-	-
20・18	04/27	-	4	-	1	1	-	-	-
20・19	05/04	-	6	-	-	1	-	-	-
20・20	05/11	1	7	1	-	-	-	-	-
20・21	05/18	-	8	-	-	-	-	-	-
20・22	05/25	2	8	-	-	-	-	-	-
20・23	06/01	-	9	1	-	1	-	-	-
20・24	06/08	-	6	-	-	-	-	-	-
20・25	06/15	2	6	-	2	-	-	-	-
20・26	06/22	1	7	1	-	-	-	-	-
20・27	06/29	-	9	-	1	1	-	-	-
20・28	07/06	3	13	1	1	-	-	-	-
20・29	07/13	1	7	-	2	-	-	-	-
20・30	07/20	1	3	-	-	-	-	-	-
20・31	07/27	1	10	-	-	1	-	-	-
20・32	08/03	-	8	-	-	-	-	-	-
20・33	08/10	-	3	-	1	-	-	-	-
20・34	08/17	3	11	-	1	2	-	-	-
20・35	08/24	3	11	-	2	1	-	-	-
20・36	08/31	1	9	-	2	1	-	-	-
20・37	09/07	-	12	-	1	1	-	-	-
20・38	09/14	-	11	-	-	1	-	-	-
20・39	09/21	-	4	-	1	-	-	-	-
20・40	09/28	1	12	-	-	-	-	-	-
20・41	10/05	-	18	-	-	-	-	-	-
20・42	10/12	-	15	-	-	-	-	-	-
20・43	10/19	-	12	-	-	1	-	-	-
20・44	10/26	2	10	-	-	1	-	-	-
20・45	11/02	1	10	-	-	1	-	-	-
20・46	11/09	-	12	-	-	-	-	-	-
20・47	11/16	-	10	-	1	-	-	-	-
20・48	11/23	-	9	1	-	-	-	-	-
20・49	11/30	-	12	-	1	-	-	-	-
20・50	12/07	-	6	1	-	1	-	-	-
20・51	12/14	-	6	-	-	-	-	-	-
20・52	12/21	-	5	-	-	-	-	-	-
20・53	12/28	-	6	1	-	-	-	-	-
2020年	計	39	560	12	22	87	-	1	131
2019年	計	73	1,158	7	39	141	1	125	579
2020年/2019年比		0.5	0.5	1.7	0.6	0.6	-	0.0	0.2

(-:0)

別表 2-3 内科定点及び小児科定点把握対象疾患：定点当たり報告患者数（2020年）

年・週	月／日（週開始日～）	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
20・1	12/30	12.22	0.22	0.26	0.96	1.57	0.47	0.09	0.12	0.05	-	0.03
20・2	01/06	19.29	0.32	0.62	2.72	6.81	1.12	0.19	0.31	0.26	0.01	0.04
20・3	01/13	17.29	0.30	0.53	2.67	7.41	0.48	0.16	0.23	0.43	0.02	0.09
20・4	01/20	16.80	0.33	0.48	3.50	8.69	0.60	0.22	0.34	0.36	0.01	0.07
20・5	01/27	14.81	0.30	0.51	3.84	8.60	0.44	0.24	0.19	0.29	0.01	0.04
20・6	02/03	9.51	0.35	0.41	3.97	8.57	0.50	0.19	0.21	0.27	0.03	0.08
20・7	02/10	8.19	0.18	0.38	3.72	7.61	0.58	0.14	0.21	0.36	0.02	0.09
20・8	02/17	7.06	0.32	0.31	4.16	7.40	0.47	0.15	0.18	0.28	-	0.05
20・9	02/24	4.83	0.28	0.38	3.49	4.76	0.52	0.12	0.13	0.30	0.02	0.06
20・10	03/02	3.51	0.26	0.38	3.07	4.10	0.64	0.08	0.16	0.31	0.01	0.04
20・11	03/09	1.42	0.13	0.34	2.53	3.52	0.65	0.09	0.10	0.22	0.01	0.06
20・12	03/16	0.42	0.11	0.28	1.42	2.30	0.42	0.10	0.15	0.34	-	0.06
20・13	03/23	0.24	0.07	0.23	1.37	2.52	0.36	0.04	0.09	0.28	0.01	0.08
20・14	03/30	0.15	0.05	0.18	1.15	2.15	0.22	0.09	0.07	0.32	0.01	0.07
20・15	04/06	0.05	0.05	0.14	1.08	1.61	0.19	0.07	0.15	0.35	0.01	0.06
20・16	04/13	0.02	0.03	0.09	0.70	1.21	0.20	0.05	0.02	0.28	0.01	0.09
20・17	04/20	-	0.02	0.09	0.48	1.07	0.11	0.03	0.06	0.44	0.01	0.07
20・18	04/27	-	0.01	0.03	0.47	1.03	0.08	0.07	0.04	0.38	0.01	0.06
20・19	05/04	-	0.01	0.03	0.29	0.76	0.08	0.04	0.03	0.18	0.01	0.03
20・20	05/11	-	0.01	0.05	0.33	1.04	0.09	0.09	0.02	0.41	0.01	0.06
20・21	05/18	-	-	0.04	0.25	1.03	0.06	0.06	0.02	0.31	0.02	0.07
20・22	05/25	-	-	0.04	0.36	1.22	0.06	0.04	0.01	0.39	0.01	0.03
20・23	06/01	-	-	0.06	0.43	1.33	0.07	0.14	0.04	0.43	0.02	0.07
20・24	06/08	-	-	0.03	0.36	1.77	0.19	0.17	0.01	0.60	0.02	0.08
20・25	06/15	-	-	0.04	0.41	2.12	0.07	0.16	-	0.57	0.02	0.05
20・26	06/22	-	-	0.04	0.71	2.67	0.02	0.12	0.02	0.69	0.02	0.10
20・27	06/29	0.01	0.01	0.04	1.10	3.22	0.12	0.16	0.04	0.64	0.09	0.07
20・28	07/06	-	0.01	0.04	1.00	3.16	0.11	0.18	0.01	0.61	0.04	0.06
20・29	07/13	-	0.01	0.11	0.87	3.16	0.13	0.11	0.02	0.68	0.06	0.07
20・30	07/20	-	0.02	0.06	0.50	2.07	0.12	0.11	0.02	0.60	0.02	0.04
20・31	07/27	-	-	0.06	0.62	2.32	0.17	0.09	0.02	0.57	0.09	0.08
20・32	08/03	-	0.01	0.07	0.36	1.86	0.23	0.13	0.01	0.61	0.19	0.07
20・33	08/10	-	-	0.14	0.24	1.25	0.21	0.14	0.01	0.37	0.06	0.03
20・34	08/17	-	-	0.09	0.32	1.82	0.21	0.13	0.01	0.52	0.11	0.06
20・35	08/24	-	-	0.17	0.40	2.50	0.10	0.11	0.03	0.59	0.10	0.09
20・36	08/31	-	-	0.27	0.58	2.57	0.09	0.07	0.01	0.54	0.22	0.09
20・37	09/07	-	0.02	0.21	0.39	2.50	0.16	0.09	0.04	0.69	0.20	0.12
20・38	09/14	-	-	0.25	0.40	2.38	0.16	0.10	0.02	0.70	0.14	0.09
20・39	09/21	-	-	0.12	0.35	1.88	0.10	0.11	0.01	0.50	0.10	0.06
20・40	09/28	-	-	0.17	0.70	2.16	0.15	0.09	0.05	0.44	0.06	0.09
20・41	10/05	-	0.01	0.10	0.78	2.34	0.10	0.06	0.01	0.60	0.10	0.12
20・42	10/12	-	-	0.11	0.79	2.30	0.11	0.02	0.07	0.58	0.08	0.04
20・43	10/19	-	-	0.13	0.62	2.41	0.19	0.04	0.05	0.43	0.09	0.05
20・44	10/26	-	0.01	0.15	0.91	2.35	0.16	0.02	0.02	0.49	0.09	0.04
20・45	11/02	-	-	0.17	0.70	2.29	0.18	0.02	0.01	0.46	0.08	0.10
20・46	11/09	-	-	0.18	0.66	2.43	0.27	0.06	0.02	0.45	0.06	0.09
20・47	11/16	0.02	-	0.34	0.66	2.42	0.26	0.03	0.05	0.51	0.03	0.08
20・48	11/23	-	-	0.26	0.48	2.36	0.33	0.01	0.01	0.45	0.04	0.10
20・49	11/30	0.01	0.01	0.35	0.77	2.55	0.22	0.01	0.01	0.41	0.04	0.07
20・50	12/07	-	0.01	0.35	0.82	2.48	0.26	0.02	0.02	0.49	0.09	0.07
20・51	12/14	-	0.01	0.27	0.69	2.31	0.25	0.02	0.02	0.49	0.04	0.08
20・52	12/21	-	0.01	0.30	0.70	2.28	0.23	0.04	0.01	0.37	0.02	0.06
20・53	12/28	0.01	0.01	0.13	0.25	0.88	0.14	0.01	-	0.17	0.01	0.03
2020年	計	116.84	3.52	10.67	61.74	156.51	13.48	4.94	3.53	23.18	2.58	3.59
2019年	計	476.25	36.96	25.65	139.11	316.88	26.99	162.01	42.20	22.91	38.33	5.95
2020年/2019年比		0.2	0.1	0.4	0.4	0.5	0.5	0.0	0.1	1.0	0.1	0.6

(-0)

※定点当たり報告患者数は、小数点第3位を四捨五入

別表 2-4 眼科定点及び基幹定点把握対象疾患：定点当たり報告患者数（2020年）

年・週	月／日 （週開始日～）	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 （ロタウイルス）	インフルエンザ （入院患者）
20・1	12/30	-	0.15	-	-	0.64	-	-	2.45
20・2	01/06	0.03	0.61	-	-	0.45	-	-	3.36
20・3	01/13	0.02	0.39	-	-	0.36	-	-	2.27
20・4	01/20	-	0.46	0.09	-	-	-	-	1.55
20・5	01/27	0.07	0.34	-	0.09	0.27	-	-	0.27
20・6	02/03	-	0.15	-	-	0.82	-	0.09	1.00
20・7	02/10	-	0.49	-	0.18	0.55	-	-	0.27
20・8	02/17	-	0.63	-	-	0.27	-	-	0.36
20・9	02/24	-	0.41	-	-	0.09	-	-	0.09
20・10	03/02	0.02	0.49	-	-	0.36	-	-	-
20・11	03/09	0.05	0.22	-	-	0.64	-	-	0.09
20・12	03/16	0.02	0.27	-	-	0.36	-	-	0.18
20・13	03/23	0.05	0.33	0.09	-	0.36	-	-	-
20・14	03/30	0.02	0.33	0.18	0.09	0.36	-	-	-
20・15	04/06	0.03	0.30	-	-	0.36	-	-	-
20・16	04/13	0.07	0.26	0.09	-	0.09	-	-	-
20・17	04/20	-	0.22	-	0.09	0.55	-	-	-
20・18	04/27	-	0.11	-	0.09	0.09	-	-	-
20・19	05/04	-	0.15	-	-	0.09	-	-	-
20・20	05/11	0.03	0.18	0.09	-	-	-	-	-
20・21	05/18	-	0.20	-	-	-	-	-	-
20・22	05/25	0.05	0.20	-	-	-	-	-	-
20・23	06/01	-	0.23	0.09	-	0.09	-	-	-
20・24	06/08	-	0.15	-	-	-	-	-	-
20・25	06/15	0.05	0.15	-	0.18	-	-	-	-
20・26	06/22	0.03	0.18	0.09	-	-	-	-	-
20・27	06/29	-	0.23	-	0.09	0.09	-	-	-
20・28	07/06	0.08	0.33	0.09	0.09	-	-	-	-
20・29	07/13	0.03	0.18	-	0.18	-	-	-	-
20・30	07/20	0.03	0.08	-	-	-	-	-	-
20・31	07/27	0.03	0.26	-	-	0.09	-	-	-
20・32	08/03	-	0.24	-	-	-	-	-	-
20・33	08/10	-	0.08	-	0.09	-	-	-	-
20・34	08/17	0.08	0.28	-	0.09	0.18	-	-	-
20・35	08/24	0.08	0.28	-	0.18	0.09	-	-	-
20・36	08/31	0.03	0.24	-	0.18	0.09	-	-	-
20・37	09/07	-	0.29	-	0.09	0.09	-	-	-
20・38	09/14	-	0.31	-	-	0.09	-	-	-
20・39	09/21	-	0.10	-	0.09	-	-	-	-
20・40	09/28	0.02	0.29	-	-	-	-	-	-
20・41	10/05	-	0.44	-	-	-	-	-	-
20・42	10/12	-	0.38	-	-	-	-	-	-
20・43	10/19	-	0.29	-	-	0.09	-	-	-
20・44	10/26	0.05	0.26	-	-	0.09	-	-	-
20・45	11/02	0.02	0.24	-	-	0.09	-	-	-
20・46	11/09	-	0.30	-	-	-	-	-	-
20・47	11/16	-	0.26	-	0.09	-	-	-	-
20・48	11/23	-	0.22	0.09	-	-	-	-	-
20・49	11/30	-	0.30	-	0.09	-	-	-	-
20・50	12/07	-	0.15	0.09	-	0.09	-	-	-
20・51	12/14	-	0.15	-	-	-	-	-	-
20・52	12/21	-	0.13	-	-	-	-	-	-
20・53	12/28	-	0.18	0.09	-	-	-	-	-
2020年	計	1.00	14.36	1.09	2.00	7.91	-	0.09	11.91
2019年	計	1.87	29.69	0.64	3.55	12.82	0.09	11.36	52.64
2020年/2019年比		0.5	0.5	1.7	0.6	0.6	-	0.0	0.2

※定点当たり報告患者数は、小数点第3位を四捨五入

別表 2-5 内科定点及び小児科定点把握対象疾患：年齢階級別報告患者数（2020年）

年齢階級	インフルエンザ	年齢階級	RSウイルス	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
-6カ月	115	-6カ月	68	5	3	187	9	10	2	32	-	-
-12カ月	366	-12カ月	117	81	20	1,218	53	55	18	962	19	1
1歳	1,043	1歳	178	489	315	3,134	114	207	68	2,022	121	11
2歳	1,093	2歳	91	284	574	2,408	75	121	46	453	90	32
3歳	1,309	3歳	52	220	805	2,237	153	84	48	156	71	51
4歳	1,770	4歳	26	203	1,261	2,202	208	117	83	60	33	71
5歳	2,015	5歳	13	133	1,313	1,855	262	70	95		24	114
6歳	2,140	6歳	5	97	1,230	1,634	288	40	72		13	84
7歳	2,136	7歳	2	62	934	1,327	238	18	39		6	58
8歳	2,017	8歳	2	41	814	1,189	237	18	27		7	47
9歳	1,521	9歳	2	12	648	1,060	191	10	16		3	26
10-14歳	4,589	10-14歳	2	38	1,229	3,117	292	30	37		16	67
15-19歳	1,036	15-19歳	-	4	105	691	13	2	2		2	5
20-29歳	1,298	20歳以上	1	27	566	2,626	10	4	9		5	4
30-39歳	1,932											
40-49歳	2,305											
50-59歳	1,246											
60-69歳	735											
70-79歳	463											
80歳以上	198											
合計	29,327	合計	559	1,696	9,817	24,885	2,143	786	562	3,685	410	571

(-0)

別表 2-6 眼科定点及び基幹定点把握対象疾患：年齢階級別報告患者数（2020年）

年齢階級	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	年齢階級	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	インフルエンザ（入院患者）
-6カ月	1	2	0歳	-	7	4	-	1	6
-12カ月	1	5	1-4歳	-	-	13	-	-	22
1歳	2	9	5-9歳	-	1	31	-	-	18
2歳	-	8	10-14歳	-	-	16	-	-	8
3歳	-	5	15-19歳	-	-	1	-	-	1
4歳	1	7	20-24歳	-	-	3	-	-	2
5歳	-	3	25-29歳	-	-	3	-	-	-
6歳	1	10	30-34歳	-	1	2	-	-	1
7歳	-	5	35-39歳	1	5	3	-	-	-
8歳	-	5	40-44歳	1	2	6	-	-	2
9歳	-	2	45-49歳	-	-	1	-	-	2
10-14歳	-	10	50-54歳	1	-	1	-	-	-
15-19歳	-	21	55-59歳	2	1	-	-	-	1
20-29歳	3	98	60-64歳	3	1	-	-	-	4
30-39歳	4	123	65-69歳	3	1	-	-	-	14
40-49歳	9	97	70歳以上	4	3	3	-	-	50
50-59歳	1	69							
60-69歳	2	45							
70歳以上	14	36							
合計	39	560	合計	12	22	87	-	1	131

(-0)

3) 定点把握対象疾患（月単位報告）

別表 3-1 性感染症定点把握対象疾患：報告患者数（2020年）

月別	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	定点当たり報告数	報告患者数	定点当たり報告数	報告患者数	定点当たり報告数	報告患者数	定点当たり報告数
1月	142	2.45	44	0.76	10	0.17	44	0.76
2月	128	2.17	26	0.44	19	0.32	20	0.34
3月	160	2.76	44	0.76	24	0.41	24	0.41
4月	130	2.20	34	0.58	21	0.36	21	0.36
5月	141	2.39	47	0.80	18	0.31	31	0.53
6月	126	2.14	45	0.76	33	0.56	37	0.63
7月	139	2.36	43	0.73	26	0.44	32	0.54
8月	141	2.39	40	0.68	20	0.34	39	0.66
9月	151	2.56	44	0.75	18	0.31	30	0.51
10月	129	2.19	47	0.80	22	0.37	36	0.61
11月	107	1.81	37	0.63	19	0.32	37	0.63
12月	102	1.76	43	0.74	19	0.33	29	0.50
2020年計	1,596	27.19	494	8.42	249	4.24	380	6.47
2019年計	1,609	27.60	503	8.63	224	3.84	415	7.12
2020年/2019年比	1.0	1.0	1.0	1.0	1.1	1.1	0.9	0.9

(-:0)

※定点当たり報告患者数は、小数点第3位を四捨五入

別表 3-2 基幹定点把握対象疾患：報告患者数（2020年）

月別	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	報告患者数	定点当たり報告数	報告患者数	定点当たり報告数	報告患者数	定点当たり報告数
1月	18	1.64	4	0.36	-	-
2月	10	0.91	3	0.27	1	0.09
3月	11	1.00	4	0.36	-	-
4月	14	1.27	2	0.18	-	-
5月	12	1.09	-	-	-	-
6月	16	1.45	2	0.18	-	-
7月	12	1.09	3	0.27	1	0.09
8月	20	1.82	1	0.09	1	0.09
9月	10	0.91	1	0.09	-	-
10月	11	1.00	1	0.09	-	-
11月	12	1.09	6	0.55	2	0.18
12月	14	1.27	1	0.09	1	0.09
2020年計	160	14.55	28	2.55	6	0.55
2019年計	201	18.27	55	5.00	7	0.64
2020年/2019年比	0.8	0.8	0.5	0.5	0.9	0.9

(-:0)

※定点当たり報告患者数は、小数点第3位を四捨五入

別表 3-3 性感染症定点把握対象疾患：年齢階級別報告患者数（2020年）

年齢	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	割合(%)	報告患者数	割合(%)	報告患者数	割合(%)	報告患者数	割合(%)
0歳	-	-	-	-	-	-	-	-
1-4歳	-	-	-	-	-	-	1	0.3%
5-9歳	-	-	-	-	-	-	-	-
10-14歳	1	0.1%	4	0.8%	-	-	1	0.3%
15-19歳	144	9.0%	16	3.2%	7	2.8%	23	6.1%
20-24歳	502	31.5%	69	14.0%	45	18.1%	95	25.0%
25-29歳	428	26.8%	89	18.0%	66	26.5%	69	18.2%
30-34歳	218	13.7%	76	15.4%	24	9.6%	53	13.9%
35-39歳	112	7.0%	54	10.9%	22	8.8%	30	7.9%
40-44歳	70	4.4%	44	8.9%	24	9.6%	34	8.9%
45-49歳	63	3.9%	49	9.9%	15	6.0%	27	7.1%
50-54歳	25	1.6%	26	5.3%	16	6.4%	24	6.3%
55-59歳	14	0.9%	21	4.3%	8	3.2%	12	3.2%
60-64歳	12	0.8%	11	2.2%	11	4.4%	7	1.8%
65-69歳	3	0.2%	12	2.4%	3	1.2%	2	0.5%
70歳～	4	0.3%	23	4.7%	8	3.2%	2	0.5%
合計	1,596	100.0%	494	100.0%	249	100.0%	380	100.0%

(-:0)

別表 3-4 基幹定点把握対象疾患：年齢階級別報告患者数（2020年）

年齢	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	報告患者数	割合(%)	報告患者数	割合(%)	報告患者数	割合(%)
0歳	2	1.3%	1	3.6%	-	-
1-4歳	4	2.5%	3	10.7%	-	-
5-9歳	3	1.9%	1	3.6%	-	-
10-14歳	1	0.6%	-	-	-	-
15-19歳	1	0.6%	-	-	-	-
20-24歳	-	-	-	-	-	-
25-29歳	-	-	-	-	-	-
30-34歳	3	1.9%	-	-	-	-
35-39歳	2	1.3%	2	7.1%	-	-
40-44歳	-	-	-	-	-	-
45-49歳	5	3.1%	1	3.6%	-	-
50-54歳	7	4.4%	1	3.6%	-	-
55-59歳	5	3.1%	-	-	2	33.3%
60-64歳	8	5.0%	-	-	1	16.7%
65-69歳	6	3.8%	1	3.6%	-	-
70歳～	113	70.6%	18	64.3%	3	50.0%
合計	160	100.0%	28	100.0%	6	100.0%

(-:0)

別表 3-5 性感染症定点把握対象疾患：性別年齢階級別報告患者数（2020年）

年齢	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0歳	-	-	-	-	-	-	-	-
1-4歳	-	-	-	-	-	-	-	1
5-9歳	-	-	-	-	-	-	-	-
10-14歳	-	1	-	4	-	-	-	1
15-19歳	33	111	2	14	-	7	14	9
20-24歳	133	369	12	57	7	38	68	27
25-29歳	134	294	16	73	24	42	49	20
30-34歳	71	147	18	58	5	19	41	12
35-39歳	58	54	16	38	7	15	26	4
40-44歳	44	26	4	40	17	7	29	5
45-49歳	37	26	7	42	10	5	25	2
50-54歳	18	7	11	15	13	3	21	3
55-59歳	11	3	9	12	6	2	10	2
60-64歳	10	2	2	9	10	1	6	1
65-69歳	3	-	4	8	3	-	2	-
70歳～	4	-	-	23	5	3	2	-
合計	556	1,040	101	393	107	142	293	87
男女比	0.53	1.00	0.26	1.00	0.75	1.00	3.37	1.00

(-:0)

別表 3-6 基幹定点把握対象疾患：性別年齢階級別報告患者数（2020年）

年齢	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0歳	1	1	-	1	-	-
1-4歳	2	2	1	2	-	-
5-9歳	-	3	1	-	-	-
10-14歳	1	-	-	-	-	-
15-19歳	1	-	-	-	-	-
20-24歳	-	-	-	-	-	-
25-29歳	-	-	-	-	-	-
30-34歳	1	2	-	-	-	-
35-39歳	1	1	-	2	-	-
40-44歳	-	-	-	-	-	-
45-49歳	4	1	1	-	-	-
50-54歳	5	2	1	-	-	-
55-59歳	3	2	-	-	-	2
60-64歳	6	2	-	-	1	-
65-69歳	4	2	-	1	-	-
70歳～	69	44	14	4	2	1
合計	98	62	18	10	3	3
男女比	1.58	1.00	1.80	1.00	1.00	1.00

(-:0)

別表 3-7 性感染症定点把握対象疾患：性別報告患者数（2020年）

月別	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
1月	49	93	12	32	6	4	36	8
2月	43	85	2	24	11	8	14	6
3月	48	112	4	40	16	8	19	5
4月	50	80	5	29	6	15	17	4
5月	55	86	13	34	6	12	24	7
6月	34	92	8	37	12	21	23	14
7月	48	91	11	32	8	18	30	2
8月	61	80	9	31	8	12	34	5
9月	52	99	7	37	9	9	20	10
10月	41	88	11	36	14	8	28	8
11月	31	76	4	33	6	13	28	9
12月	44	58	15	28	5	14	20	9
合計	556	1,040	101	393	107	142	293	87

(-:0)

別表 3-8 基幹定点把握対象疾患：性別報告患者数（2020年）

月別	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
1月	11	7	1	3	-	-
2月	5	5	2	1	-	1
3月	6	5	2	2	-	-
4月	13	1	1	1	-	-
5月	9	3	-	-	-	-
6月	8	8	2	-	-	-
7月	5	7	3	-	1	-
8月	13	7	1	-	1	-
9月	7	3	1	-	-	-
10月	7	4	1	-	-	-
11月	6	6	4	2	1	1
12月	8	6	-	1	-	1
合計	98	62	18	10	3	3

(-:0)

別表 3-9 性感染症定点把握対象疾患：性別定点当たり報告患者数（2020年）

月別	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
1月	0.84	1.60	0.21	0.55	0.10	0.07	0.62	0.14
2月	0.73	1.44	0.03	0.41	0.19	0.14	0.24	0.10
3月	0.83	1.93	0.07	0.69	0.28	0.14	0.33	0.09
4月	0.85	1.36	0.08	0.49	0.10	0.25	0.29	0.07
5月	0.93	1.46	0.22	0.58	0.10	0.20	0.41	0.12
6月	0.58	1.56	0.14	0.63	0.20	0.36	0.39	0.24
7月	0.81	1.54	0.19	0.54	0.14	0.31	0.51	0.03
8月	1.03	1.36	0.15	0.53	0.14	0.20	0.58	0.08
9月	0.88	1.68	0.12	0.63	0.15	0.15	0.34	0.17
10月	0.69	1.49	0.19	0.61	0.24	0.14	0.47	0.14
11月	0.53	1.29	0.07	0.56	0.10	0.22	0.47	0.15
12月	0.76	1.00	0.26	0.48	0.09	0.24	0.34	0.16

(-:0)

※定点当たり報告患者数は、小数点第3位を四捨五入

別表 3-10 基幹定点把握対象疾患：性別定点当たり報告患者数（2020年）

月別	メチリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
1月	1.00	0.64	0.09	0.27	-	-
2月	0.45	0.45	0.18	0.09	-	0.09
3月	0.55	0.45	0.18	0.18	-	-
4月	1.18	0.09	0.09	0.09	-	-
5月	0.82	0.27	-	-	-	-
6月	0.73	0.73	0.18	-	-	-
7月	0.45	0.64	0.27	-	0.09	-
8月	1.18	0.64	0.09	-	0.09	-
9月	0.64	0.27	0.09	-	-	-
10月	0.64	0.36	0.09	-	-	-
11月	0.55	0.55	0.36	0.18	0.09	0.09
12月	0.73	0.55	-	0.09	-	0.09

(-:0)

※定点当たり報告患者数は、小数点第3位を四捨五入

4) 指定感染症

別表 4 指定感染症：指定感染症の届出数 (2020年)

疾患名	埼玉県*	全国**
新型コロナウイルス感染症	14,680	233,785

* 2021年4月26日集計

** 厚生労働省HP(<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>)より

2 年報告患者の集計方法

1) 全数把握対象疾患

全数把握対象疾患は、発生届の診断日が当該年の1月1日から12月31日に属する届出を集計し当該年の届出数とした。

2) 定点把握対象疾患

定点把握対象疾患のうち、週単位報告疾患は当該年の第1週から最終週(53週)、月単位報告疾患は1月から12月の報告を集計し、当該年の累積報告患者数とした。また、定点当たり報告患者総数は、累積報告患者数を平均定点数で除した値とした。なお、平均定点数は誤差の目安を概ね1%として、インフルエンザ定点数・小児科定点数・眼科定点数は小数点以下を切り捨て、性感染症定点数・基幹定点数は小数点第2位以下を切り捨てた。

また、図表中に示した百分率の合計は、四捨五入の関係で100%にならないことがある。

今シーズンのインフルエンザ

2020 年第 12 週(3 月 16 日～22 日)のインフルエンザの定点当たり報告数は 0.42 で、流行の目安である定点当たり 1.00 を下回りました。今シーズン(2019-2020 年)の流行は、ピークの高さ及び流行期における定点当たり累積患者数(214.33)が、過去 10 シーズンと比較して最も小さい流行でした(図 1)。今シーズンの流行期間(2019 年 11 月～2020 年 3 月)の患者の年齢分布は、11 月～1 月は 15 歳未満が 75%であったのに対し、2 月以降は 83%に増加しました(図 2)。病原体定点で流行期間に毎週採取された検体から検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 が 450 件、AH3 が 6 件、B ビクトリア系統が 79 件で、B 山形系統は検出されませんでした。流行入りから 2 月中旬(第 8 週)までは AH1pdm09 が優勢で、2 月下旬(第 9 週)以降は B ビクトリア系統が優勢となりました(図 3)。

図1 インフルエンザ流行状況(埼玉県)

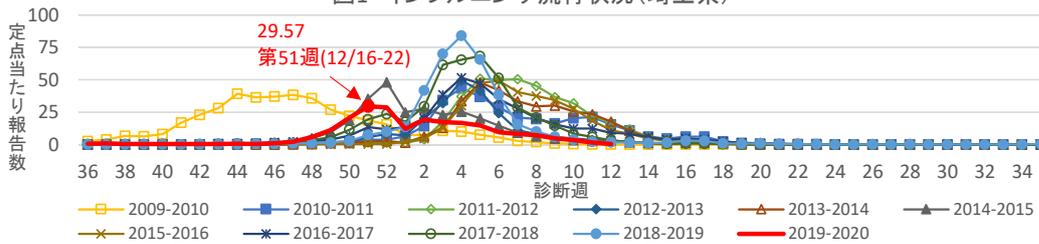


図2 流行期に報告された患者の年齢分布

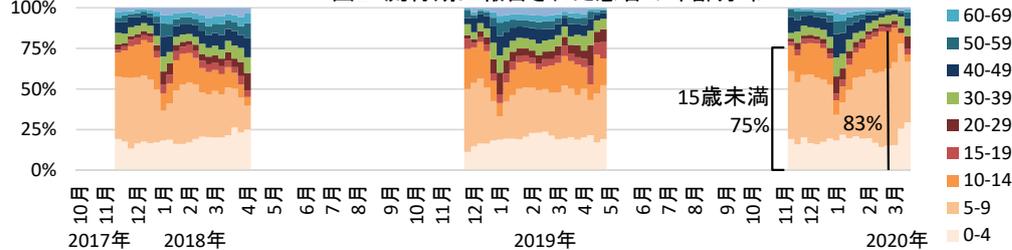
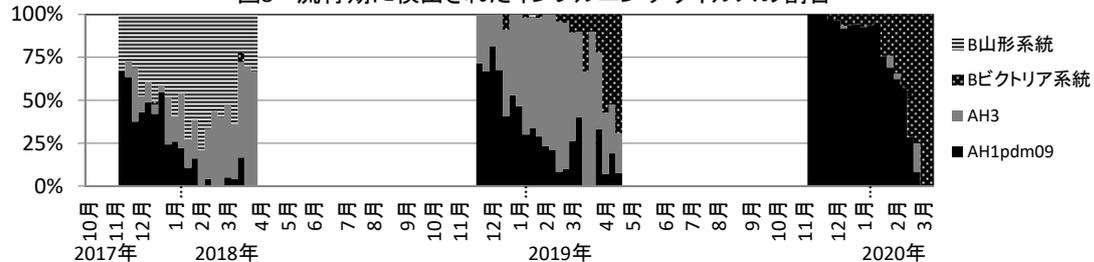


図3 流行期に検出されたインフルエンザウイルスの割合



患者の年齢分布と流行ウイルス型の分布の推移から、年齢によってウイルス型に対する感受性に違いがあったことが推測されました。病原体定点医療機関の先生方には引き続き検体採取(各月 1 検体)へのご協力をお願いします。

腸管出血性大腸菌感染症と菌株検査

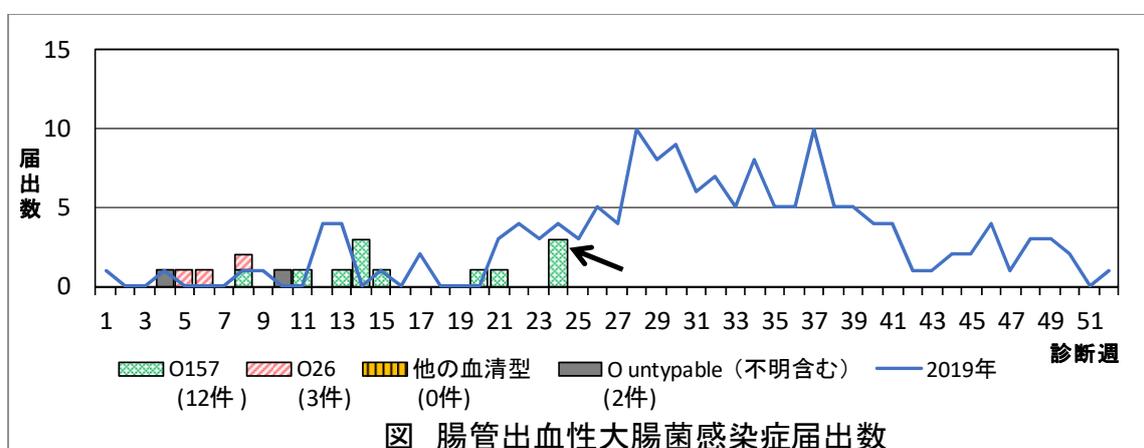
埼玉県で2019年に検出され、衛生研究所で確認した腸管出血性大腸菌は123株でした(下表)。123株の血清型は、O157:H7が66株(54%)、O26:H11が15株(12%)の順で多く、O157:H7の毒素型はVT2が43株、VT1&2が23株、O26:H11の毒素型はVT1が14株、VT2が1株でした。Multiple-locus variable-number tandem repeat analysis(MLVA法)による遺伝子型別では、O157:H7の66株が46パターン、O26:H11の15株が9パターンに分けられました。2株以上の集積が見られたパターンでは、大部分が同じ家族からの分離株の集積でした。しかしながら、疫学的な関連性が認められない6事例で同一パターンを示す例もありました。感染原因・感染経路を探る上で、病原体から得られる情報も重要です。

表 腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型 (2019年埼玉県衛生研究所確認分)

血清型	毒素型			計	割合
	VT1	VT2	VT1&2		
O157:H7	—	43	23	66	54%
O157:H—	—	3	6	9	7%
O26:H11	14	1	—	15	12%
O26:H—	6	—	—	6	5%
その他の血清型	12	6	7	25	20%
untypable(不明を含む)	1	1	—	2	2%
合計	33	54	36	123	100%

(数値部分の—:0)

感染症発生動向調査では、2020年第24週(6月8日～14日)の腸管出血性大腸菌感染症の届出はO157が3件でした(下図)。梅雨入り後暑い日が続く、今後は同感染症の増加が懸念される所です。同感染症診断の際は、菌株の提出等の感染症発生動向調査にご協力ください。



新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、サーズコロナウイルス 2 (SARS-CoV-2) による急性呼吸器疾患です。2019 年 12 月に初めて中国で報告され、その後世界中に流行が拡大し、日本では 2020 年 2 月に指定感染症に位置付けられました。埼玉県衛生研究所においても、2020 年 1 月から行政検査として COVID-19 の PCR 検査を行っています。今回は当所における 8 月 31 日までの COVID-19 の検査状況について報告します。

COVID-19 (疑い及び接触者含む) 症例は、1 月から 8 月 31 日までの期間に 10,882 症例の検体が搬入されました (表 1)。検査症例数は 2 月下旬から増えはじめ、3 月下旬から 5 月中旬にかけて週に 400 症例を超えました。6 月に一旦減少しましたが、7 月上旬から 8 月末までは、3 月下旬から 5 月中旬までと同等かそれ以上となりました (図 1)。

週ごとの陽性率は、検査症例数の第一の波 (1 月～5 月) では、3 月下旬から高くなり 4 月 6 日～19 日にかけて 20% を超えましたが、5 月は 0%～4% まで

表1 COVID-19 月別検査状況 (2020年)

検体搬入月	検査症例数	SARS-CoV-2 陽性症例数	陽性率 (%)
1月	2	0	0
2月	123	2	1.6
3月	782	59	7.5
4月	2,275	316	13.9
5月	1,687	42	2.5
6月	673	17	2.5
7月	2,137	82	3.8
8月	3,203	150	4.7
合計	10,882	668	6.1

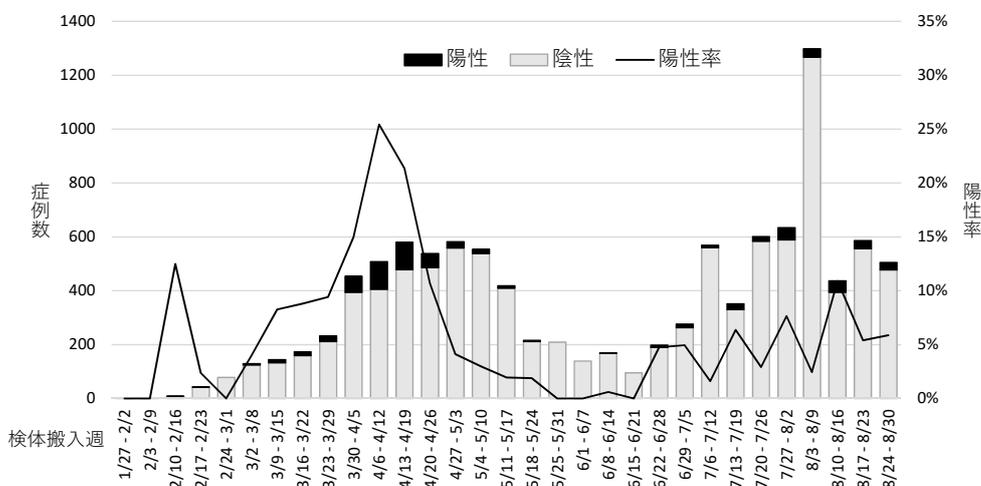


図1 COVID-19 週別検査状況

低下しました。第二の波（7月～8月）では、再び2%～12%の間で推移しています。

年代別の検査症例数は、20代の1,496症例が最も多く、30代から50代の各年代が約1,300症例、10代、60代から80代が約1,000症例でした（表2）。また、10歳未満及び90歳以上では、共に約500症例でした。年代別の陽性症例の割合は、1月～5月までは50代20.0%、40代18.4%、70代13.1%の順に高く、6月～8月では20代21.7%、40代15.3%、50代14.5%で、1月～5月と比べて20代の占める割合が高くなっています（図2）。

表2 COVID-19 検査症例の年代別内訳

検査症例数*	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上	合計
(全期)1-8月	523	955	1,496	1,338	1,354	1,245	988	1,130	1,055	431	10,515
1-5月	151	139	619	651	673	596	524	643	610	201	4,807
6-8月	372	816	877	687	681	649	464	487	445	230	5,708

※年代不明症例は除く

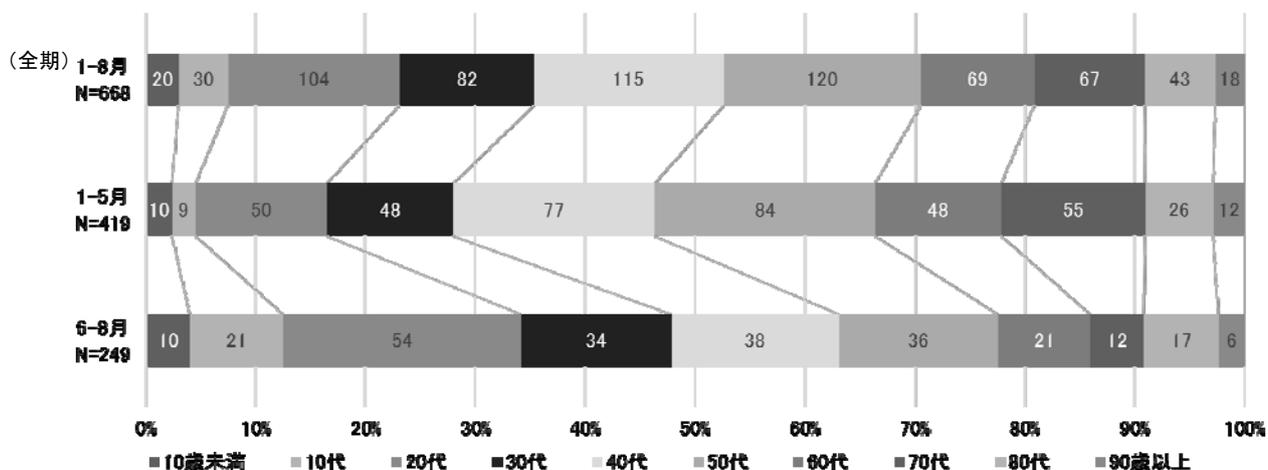


図2 COVID-19 陽性症例の年代別割合
(1月～5月と6月～8月の比較)

なお、埼玉県では新型コロナウイルス感染症総合サイト (http://www.pref.saitama.lg.jp/a0301/covid19_sougousite.html) で情報提供を行っておりますのでご参照ください。